

鹿児島大学構内遺跡 郡元団地Q-10区

平成17年度「教育学部附属中学校敷地内遺跡」大学関連施設
内危険箇所指定に関する附中敷地内保存住居埋め戻しに伴
う再調査

郡元団地K・L-5・6区

平成5・7年度中央図書館増築地C～E地点包含層出土遺物

2007年3月

鹿児島大学埋蔵文化財調査室

序

鹿児島大学キャンパスには、後期旧石器時代から近代までの貴重な遺跡が包蔵されていることが、鹿児島大学埋蔵文化財調査室の発掘調査によって、次第に明らかにされています。その成果は、これまでに『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報』Vol.1～20、『鹿児島大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書』第1・2集として逐次報告されてきました。

今回は、1963年に発掘調査が行なわれ、郡元団地Q-10区「教育学部附属中学校敷地内」遺跡の再調査と、『年報』Vol.19で報告した郡元団地K・L-5・6区（中央図書館増築地C～E地点）の包含層出土遺物について掲載しています。

前者は、2005年4月、市内で起こった防空壕内における中学生死亡事件という痛ましい事故を受けて、大学キャンパス内における古墳時代の保存住居跡として一般公開していた施設を埋め戻すことになり、その際に行なわれた再調査の結果です。上屋施設が古くなったために危険箇所と認定され、残念ながら、大学内における唯一の常設的な遺跡見学施設を埋め戻し、遺跡を保護することになりました。

後者は、1993年と1995年におこなわれた中央図書館増築地C～E地点出土遺物のうち、時間の関係上、既刊報告書で紹介できなかった遺物について紹介します。古墳時代から近代までの遺物が多量に出土しています。

現在、キャンパス内では、研究、教育の発展に伴って、多くの建物の建築や周辺整備などが行われ、それに先立って必要な埋蔵文化財の発掘調査が行われています。しかし、年々増加する発掘調査や埋蔵物に対する調査および研究体制、遺物保管体制が十分でないのが現状です。

大学キャンパス内から出土する貴重な大学の財産、県民・国民の財産としての埋蔵文化財の調査および研究を行うための体制の実現について、重ねて全学的なご理解、ご支援をお願いする次第です。

平成19年3月

鹿児島大学埋蔵文化財調査室長
鹿児島大学埋蔵文化財調査委員長

新田 栄治

例 言

1. 本報告は、鹿児島大学構内遺跡郡元団地において、2005（平成17）年度に行なった2005-3郡元団地Q-10区「教育学部附属中学校敷地内遺跡」再調査の成果と、1993・95（平成5・7）年度に行なった93・95-1郡元団地K・L-5・6区（図書館増築地C～E地点）における包含層遺物の紹介をまとめたものである。
2. 本書に掲載している発掘調査は、鹿児島大学埋蔵文化財調査室が担当した。調査時における図面・写真等の担当者は以下の通りである。

1編： 新里貴之・有村航平・榊原えりこ・真邊 彩

2編： 既刊『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報』19 参照

3. 本書の作成にあたっては、埋蔵文化財調査室が行なった。担当者は以下の通りである。

1編 実測 製図 作表 執筆（新里貴之） 写真（新里・川島秀義）

2編 実測（篠原美智子・福永美保子・有村航平・安座間奈緒・清永千春・中村直子） 製図（篠原美智子・福永美保子・濱田綾子・中村） 作表（中村・濱田・新里） 集計（篠原・福永・濱田・新里・中村） 執筆（新里） 写真（新里・川島）

編集（新里・中村）

4. 本報告の出土遺物について、陶磁器は、渡辺芳郎教授（鹿児島大学法文学部）、石材については大木公彦教授（鹿児島大学総合研究博物館館長）、縄文土器については、本田道輝助教授（鹿児島大学法文学部）・真邊 彩・河野祐次両氏（鹿児島大学法文学部4年）のご教示をいただいた。また、附中保存住居出土遺物の現代遺物については、鹿児島大学教育学部附属中学校事務係、鹿児島県立図書館のほか、株式会社山形屋、株式会社三越、株式会社丸京制服店、南九州トンボ株式会社、ライスセンター鴨池、富久屋製パン工場（以上、鹿児島）、キリンビバレッジ株式会社、SONY 株式会社（以上、東京）、瀧本株式会社（大阪）、亀田製菓株式会社（新潟）、株式会社秋田書店（東京）、カゴメラビオ株式会社（愛知）、ノーベル製菓株式会社（大阪）、株式会社パイロットコーポレーション九州支社（福岡）、第一製菓株式会社（岐阜）の情報提供を受けた。
5. 発掘調査による遺物の保管は、埋蔵文化財調査室の管理のもと、各学部、部局が収蔵している。また、図面・写真などの資料は埋蔵文化財調査室に保管している。

凡 例

- 1 昭和60年6月1日の埋蔵文化財調査室の設置を機として、鹿児島大学構内におけるこれからの埋蔵文化財調査室に便であるように、鹿児島大学構内座標を郡元団地と桜ヶ丘団地（旧宇宿団地）とに設定した。その設置基準は、以下の通りである。
 - (1) 郡元団地では、国土座標第2座標系（X= -158.200, Y= -42.400）を基点として一辺50mの方形地区割りを行なった（Fig.3参照）。
 - (2) 桜ヶ丘団地では、国土座標第2座標系（X= -161.600, Y= -44.400）を基点として一辺50mの方形地区割りを行なった（Fig.4参照）。
- 2 本年報におけるレベル高は、すべて海拔を表し、方位は真北方向を示す。
- 3 本書で使用した遺構の表示記号は、以下の通りである。

SK：土坑状遺構 SD：溝状遺構 P：ピット
- 4 観察表等で使用した土器の編年観については、弥生時代を中園聡1997「九州南部地域弥生土器編年」『人類史研究』第9号、古墳時代を中村直子1987「成川式土器再考」『鹿大考古』第6号に依った。また、観察表の「種別」について、様式・型式名の不明なものは、弥生土器・成川式として記す。
- 5 土層・遺物の色調は『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修）を使用した。
- 6 遺物に関しては観察表を作成した。その標記、表現については以下の通りである。

調整：調整名称の前の（ ）は、調整方向を表す。（—）；横位方向，（|）；縦位，（\）；左上がりの斜位，（/）；右上がりの斜位，（⇌）；双方向，（？）；方向不明，とした。→は、調整の新旧関係を表す。

色調：『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修）を使用し、この色調に当てはまらないものについては、「～に類似」と表記した。

胎土：粒子の大きさで、礫（2mm～）・粗砂粒（1～2mm）・砂粒（0.2～1mm）・細砂粒（0.2mm以下）に分けた。また、砂粒の種類については、特定できないものは、その色調で表記した。胎土中の砂粒の多さについては、便宜的に1～9の9段階に分けた。9：20%以上，8：15～20%，7：15%前後，6：10～15%，5：10%前後，4：5～10%未満，3：5%前後，2：1～5%未満，1：1%以下，とした。

サイズ：復元によるサイズは，（ ）をつけた。
- 7 遺物実測図中、—…— はスス付着の境界ラインを示す。
- 8 本文中の遺物番号は、挿図、図版、遺物観察表と一致している。
- 9 第I～III章にかけて、挿図・表・写真は通し番号を付す。

目次

I	遺跡の位置と環境	1
II	郡元団地Q－10区（「教育学部附属中学校敷地内遺跡」）大学関連施設内危険箇所指定に関する 附中敷地内保存住居埋め戻しに伴う再調査	5
1	遺跡の概要	5
2	調査にいたる経緯	5
3	調査期間と調査体制	8
4	調査経過	8
5	層序	8
6	遺構	12
7	遺物	16
8	まとめ	22
III	郡元団地K・L－5・6区（中央図書館増築地C～E地点）の包含層出土遺物	25
1	遺跡の概要	25
2	各地点の包含層遺物	25
3	まとめ	28

I 遺跡の位置と環境

鹿児島大学構内遺跡が所在する鹿児島市は、薩摩半島の北東部に位置する (Fig.1)。東側には鹿児島湾 (錦江湾) が広がり、他の三方は始良カルデラに由来するシラス台地に囲まれている。

鹿児島大学構内遺跡は、郡元団地と桜ヶ丘団地があり、それぞれを鹿児島大学構内遺跡郡元団地、同桜ヶ丘団地と呼んでいる (Fig.2)。ほかにも、遺跡の存在する大学施設には、農学部入来牧場、唐湊学生寮、教育学部養護学校などがあり、早急な遺跡登録の必要がある。

郡元団地は沖積平野の南端部付近に位置し、標高約7mである。周知の遺跡として知られており、古くから遺跡の存在することが認識されていた¹⁾。校舎などの建設に伴う事前の発掘調査も多く行われている。昭和59年までは字名などが遺跡の名称として用いられており、県立医大遺跡、附属中学校敷地内遺跡、釘田遺跡、水町遺跡も郡元団地内の遺跡である²⁾。構内遺跡付近には、弥生時代中期後半の住居跡が検出された一ノ宮遺跡などがある。

郡元団地では、弥生時代から古墳時代の遺構が多く検出されているが、特に古墳時代の竪穴住居跡が多く検出される。住居跡やピット、遺物廃棄溝などを手がかりにすると現在5つの居住域群が把握でき、発掘調査による土層の観察からは、いずれも周辺よりはやや標高の高い微高地上に形成されていることが分かる (Fig.3)。北半部の居住域 (I・II) に挟まれた部分には、工学部付近で二又に分かれる河川跡が確認されている。工学部や理学部で確認された河川跡の中からは、弥生時代から古墳時代にかけての木製品や木杭なども出土している。弥生時代の水田跡は、工学部と教育学部で確認されているものの、古墳時代の水田跡は未だ検出されていない。しかしながら、古墳時代の包含層中には多量のイネ・プラント・オパールが含まれており³⁾、教育学部水町遺跡では、牛足跡のある古代水田跡が確認されている⁴⁾。また、近年の調査では、近世においても同様な遺構が検出されている (平成18年度農学部1号館中庭調査)。郡元団地周辺域では、稲作が断続的に行われていた可能性が高いものと考えられる。ただし、中世の生産遺跡については、発掘調査によると畑地化している可能性があるものの、不明確である。

桜ヶ丘団地は郡元団地から南に約2.5kmの亀ヶ原台地上に位置し、標高約70mを測る。昭和60年に埋蔵文化財調査室が設置されてからは、「鹿児島大学構内遺跡宇宿団地」と呼称したが、キャンパス名の変更に伴い、桜ヶ丘団地と呼んでいる。付近の台地上には、旧石器時代から縄文時代早期にかけての遺跡が点在しており、桜ヶ丘団地でも同様の時期の遺物が出土している。後期旧石器時代から縄文時代草創期段階の陥穴遺構、縄文時代早期前半の住居跡や集石遺構、弥生時代前期から終末期の住居跡なども確認されており、少なくとも縄文時代早期前半代と弥生時代前期・終末期には居住域として占地されていたものとみられる。



Fig.1 鹿児島市の位置

注

- 1) 河口貞徳 1969 「弥生持代」『鹿児島市史』I 鹿児島市史編さん委員会 58-75頁
- 2) 松永幸男 1986 「鹿児島大学構内遺跡の位置と環境」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報』I 鹿児島大学埋蔵文化財調査室 21頁
- 3) 藤原宏志 2004 「郡元団地L-6区 (中央図書館増築地 A 地点北壁) におけるプラント・オパール分析結果報告」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報』18 鹿児島大学埋蔵文化財調査室 75-77頁
- 4) 坪根伸也ほか 1987 『水町遺跡』鹿児島大学教育学部・法文学部考古学研究室



Fig.2 鹿児島大学構内遺跡の位置 (S=1/50,000)

国土地理院 1/25,000地形図(鹿児島南部)より

I 遺跡の位置と環境

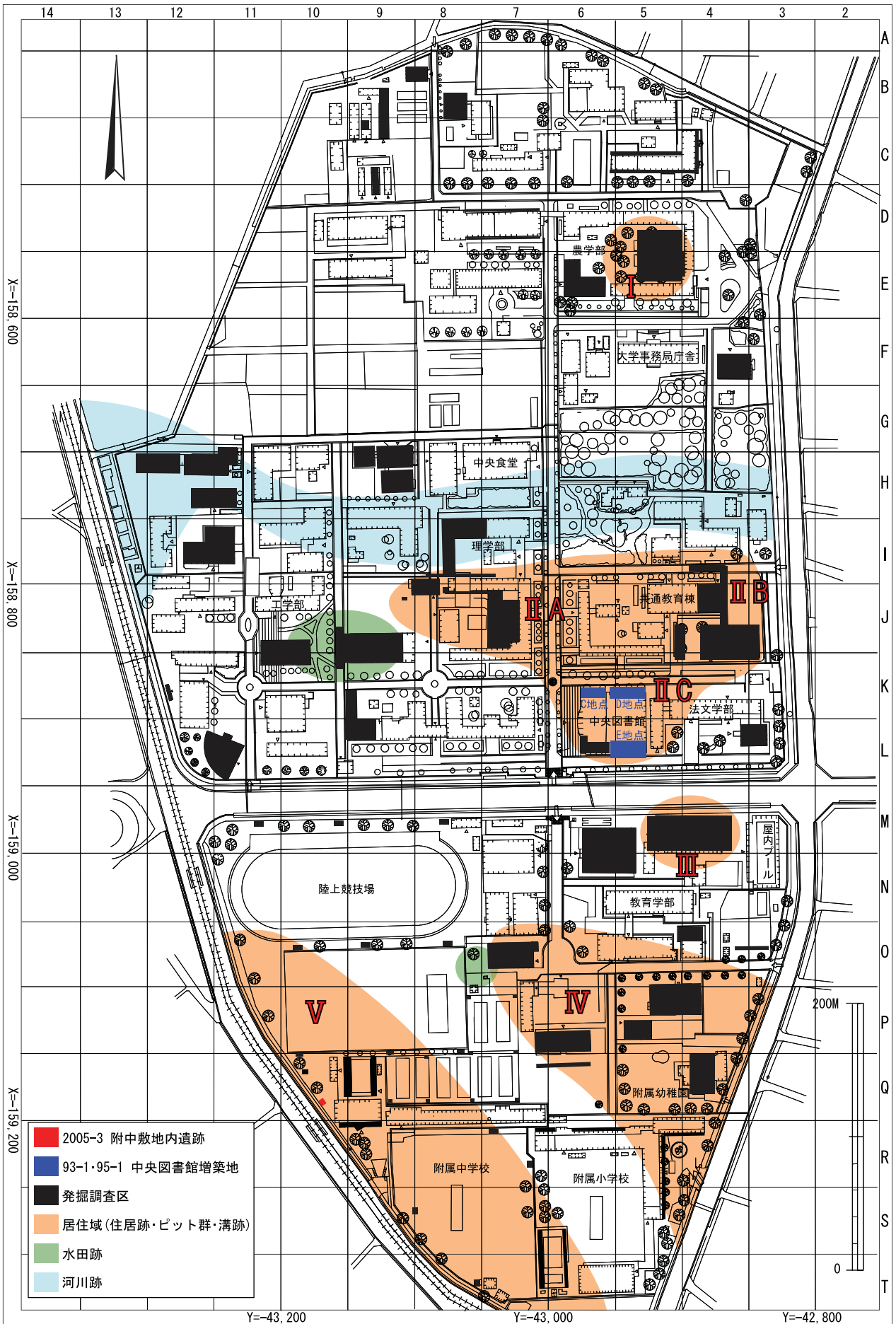


Fig.3 鹿児島大学構内遺跡郡元団地における弥生時代～古墳時代の遺跡立地 (S=1/4,000)

II 2005-3: 郡元団地Q-10区（「教育学部附属中学校敷地内遺跡」）大学関連施設内危険箇所指定に関する附中敷地内保存住居埋め戻しに伴う再調査

1. 遺跡の概要

「教育学部附属中学校敷地内遺跡」は、鹿児島大学構内遺跡の南西側、教育学部の附属中学校敷地内西端に位置する（Fig.4）。1963年河口貞徳氏（現・鹿児島県考古学会会長）によって調査された遺跡で、同地点近隣には、1951年に発掘調査された「県立医大遺跡」としても知られる地点があるが、この地点の正確な位置は、現在では不明確となっている。1951年段階のこの一帯の景観として、「県立医大敷地内であった時代には、遺跡東側に水路があり、これを境にして約1mの高さで東側の水田にのぞむ小台地上の微高地であった」とされている。現在、埋蔵文化財調査室が発掘調査によって復元している構内遺跡教育学部南西域の居住域（V）がそれに相当すると考えられる（Fig.3）。

同地点は、標高約7.2mであり、古墳時代の黒褐色包含層には深さ約70cmで達し、その厚さは約67cmもある。構内遺跡の他地点に比しても非常に良好な状況で残存している場所である。

「教育学部附属中学校敷地内遺跡」発掘当時の遺構としては、不整形の竪穴住居跡1基が検出され、床面中央に屋内炉を認めている。遺物として現・笹貫式土器や軽石製品、砥石などが出土したとされる。「県立医大遺跡」においても円形竪穴住居跡1基が検出され、笹貫式土器や軽石製品が出土している。住居跡内には木炭・灰がわずかに認められているが、炉はなかったとされる。注目すべきは、遺物が基盤砂層上面でなく約15cm上部の黒土上面に出土したことを観察していることであり、鹿児島県内では最も早く住居内貼床を認定したものではないかと考えられるところにある¹⁾。この2地点の竪穴住居跡は、ほぼ同時期の所産と考えられるが、郡元団地内の他の居住域より検出される笹貫式段階の方形竪穴住居跡群とは形状が異なっていることが注目される（Fig.5）。

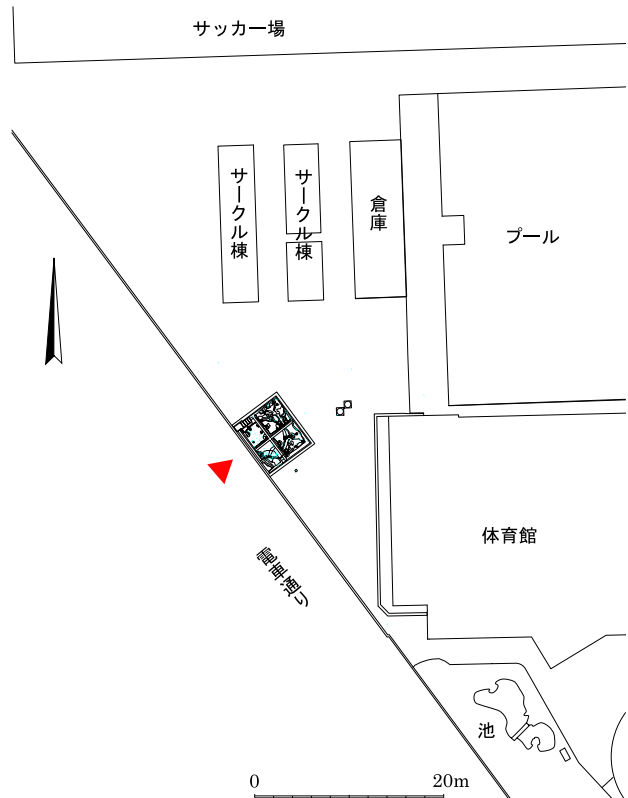


Fig.4 保存住居施設の位置 S=1/800

2. 調査にいたる経緯

同遺跡は、1963年、現鹿児島県考古学会会長河口貞徳氏によって発掘された古墳時代の竪穴住居跡である（『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報』II 1987年参照）。現在は、住居跡の周囲を5×6m、高さ約1.5mのブロック塀で囲い、上屋を設けて保存措置がとられているが、その当時の保存措置状況を知る者は既に大学関係者になく、事実上放置された状況となっていた。一般開放も目的に設置されたと考えられる同施設は、2004年度に説明立看板が新設されたものの、ブロック囲い内の竪穴住居跡は埋没して原形をみるのが不可能な状況である。ゴミや猫の死骸なども捨てられ、内部に成長した雑草・樹木の落ち葉で覆われており、また、トタン葺きの屋根にも処々に破損が見られた。既に設置当初の目的を有していない状況であった（PL.1）。

2005年4月9日、鹿児島市内防空壕で中学生が一酸化炭素中毒によって死亡するという痛ましい事故が起こった。これを受けて、全国的に防空壕の調査が行なわれることになり、鹿児島大学附属小学校・附属中学校においても、敷地内危険箇所調査が行なわれた。

5月、同施設が危険施設と認定されている旨、埋蔵文化財調査室に知らせが入った。附属中学校関係者と埋蔵文化財調査室員、教育学部埋蔵文化財調査委員が立ち会って現地で検討を行った結果、この保存住居跡を公開活用するには、保存住居の地盤が崩れやすい砂地であることに加えて、調査から40年以上が経過し、

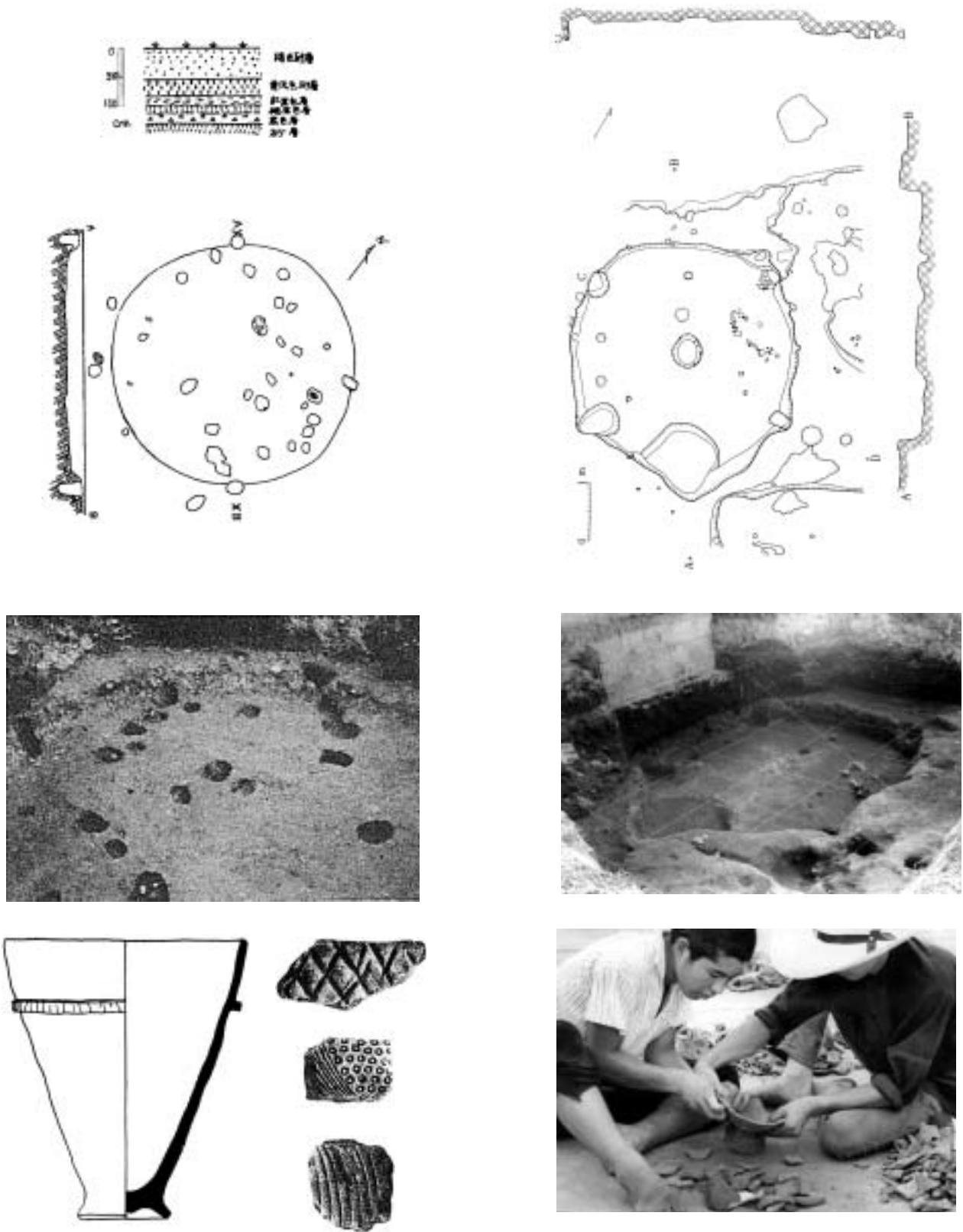


Fig.5 県立医大遺跡（左列）と教育学部附属中学校敷地内遺跡（右列）

県立医大遺跡：『鹿児島県史』Ⅰより抜粋

教育学部附属中学校敷地内遺跡：『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報』Ⅱ，調査室保管の発掘当時のアルバムより抜粋

II 郡元団地Q-10区（「教育学部附属中学校敷地内遺跡」）再調査



a



b



c



d



e



f



g

PL.1

- a. 上屋撤去前状況(東より)
- b. 上屋撤去前施設内部状況(南東より)
- c. 上屋撤去作業(東より)
- d. 上屋撤去後(南東より)
- e. 上屋撤去後(北より)
- f. 表土清掃後(北東より)
- g. トレンチ設定(北東より)

調査時の状況を復元するのは困難であること、また、保存施設復旧と保存処理および周辺の安全対策作業に相当な経費がかかると想定された。

これを経て、中学校内部安全対策上、また、遺跡保存の観点からも埋め戻すこと妥当であろうとの結論に至り、埋蔵文化財調査室は、埋め戻しの際に必要な事務手続きを鹿児島県教育委員会に問い合わせた。県教委の見解としては、同保存住居跡の再調査・埋め戻しには問題はないとのことであった。そこで、埋め戻し前に、現状の確認と埋没状況のデータ収集のための測量等を行い、また、当時の調査状況を調査するために、一部確認トレンチを掘削することなどを目的とした事前調査を行うことになった。

3. 調査期間と調査体制

調査の詳細は以下の通りである。

調査期間：2005年8月16～26日

調査面積：30m²

調査体制：

主体者 埋蔵文化財調査室室長 新田栄治

調査担当者 埋蔵文化財調査室助手 新里貴之

作業員 有村航平・榊原えりこ・真邊 彩

4. 調査経過

調査は、保存施設上屋を除去した後、内部に成長した植物の伐採を行い、上面に堆積した埋没状況の写真撮影を行った。その後、幅20cmのベルトを埋没住居の中央を通るように十字に設定し、埋没表土から掘削を行なった。今回の調査目的として、

- 1) 保存措置当時の状況の復旧・測量等のデータ収集
- 2) 確認トレンチのみで知りうる範囲で、未確認データの収集
 - ①古墳時代後半期の円形住居か否か ②貼床の存在の有無 ③壁溝などの有無
 - ④住居址周囲の未確認遺構の確認

3) 埋没中の遺物の確認

- 4) 今回の調査状況を残した状態（再調査状況）での遺跡保存を、調査室の協議で事前に決定していたため、できるだけ最小限に発掘を行なうこととし、また、今回の調査状況を保存するために、ベルトを残したまま調査を続行した。遺物はそのほとんどを通し番号をつけて測量し、取り上げた。

敷地内全面を覆う埋没表土（1a層）を除去した段階で、竪穴住居内や柱穴内に海砂（1b層）を充填していることが判明したため、写真撮影を行なった。その後、1b層を除去した状態で、床面検出遺構の測量・写真撮影を行い、ベルトに沿って幅20cmの確認トレンチを設定し、掘り下げた。その結果、貼床・壁溝の存在が確認されたため、一部を発掘調査し、測量・実測・写真撮影を行なって、調査を終了した。

埋め戻しの際には調査担当者が立会った。敷地内は細かく柔軟な土で充填し、石垣ブロックの最高段1段目（高さ約20cm）のみは取り除くことになっていたため、調査ベルトを破壊しないように指示しながら填砂を行い、十分に埋め戻してから、石垣ブロックの破壊を行なった。施設全てがマウンド状に埋め戻された後、重機での填圧を行い、埋め戻しを完了した。

5. 層序 (Fig.6)

1963年の河口貞徳氏による調査（以下、「旧調査」と記す）の包含層である「第2層」がわずかに存在しているようである。旧調査の「第3層」が今回調査の3層に、「第4層」が4層に対応することになる。1層は、住居跡保存措置以降の堆積層・充填層である。

5. 1 基本層序

1層：保存住居（SK1）内部の保存目的のため、遺構内に充填されたと考えられる海砂（1b層）と、1963年調査当時から40余年間の堆積層（1a層）。

- 1a層：有機物が多量に含まれる黒褐色10YR1.7/1土層。植物の根や現代遺物が多量に含まれ、柔軟で締りが悪い。厚さ4～12cm程度。
- 1b層：SK1内ならびに各ピット群内に検出される層。後述。
- 2層：保存住居エリア内の南隅壁側に残存した遺物包含層上にわずかに残存する暗灰黄色2.5Y 砂質シルト層。締まり良い。水田か畑の土壌と考えられる。
- 3層：保存住居エリア内の南隅壁側に残存した遺物包含層を細分。わずかな色調の違いから3a・3b層に細分される（1963年調査の第3層）。おそらく、この二つの層は、SK3とした住居跡埋土に関連するものと考えられる。また、SK1竪穴住居跡周辺にわずかに残存した包含層があり、その4層（地山層）との移行層を3c・3d層とした（Fig.6断面図参照）。
- 3a層：極暗褐色7.5YR2/3砂質シルト。1～5cm大のパミスを少量含む。マンガン混じり。締りよい。遺物を多量に含む。
- 3b層：黒褐色7.5YR2/2砂質シルト。1～3cm大のパミスを多量に含む。締りよい。遺物や木炭粒がわずかに含まれる。
- 3c層：やや明るめの黒褐色7.5YR2/2砂質シルト。1～5cm大のパミスを多量に含む。3b層よりは締り悪い。木炭粒・土器が含まれる。
- 3d層：やや明るめの黒褐色7.5YR2/2砂質シルト。1～5cm大のパミスを多量に含む。3b層よりは締り悪い。
- 4層：地山である灰黄色2.5Y7/2粗砂層（1963年調査の第4層）。無遺物層。0.5～10cm大のパミスを多量に含む。締まり悪い。

5. 2 SK1

上部には、1963年調査当時から40余年間の堆積層（1a層）と、保存住居（SK1）内部の保存目的のため、遺構内に充填されたと考えられる海砂（1b層）が堆積し、住居床面以下が本来の土層である。

1b層：灰色 Hue5Y5/1粗砂層。地山である3層とは色調や内容物が異なり、貝殻小片が多く含まれることから、海砂であると思われ、竪穴住居や柱穴の保存目的のために充填されたものであると考えられる。厚さ20cm前後。

貼床層：黒褐色10YR2/2砂質シルトを基本とし、黄褐色10YR5/8シルトとにぶい黄褐色10YR6/4粗砂が混じる。1～5cm大のパミスを極多量に含む。表面は踏みしめたため非常に堅く締まり、約10cmの厚みがある。土器や木炭を含む。

焼土層：炉2と呼称した新たに確認された遺構に存在する。大部分が大学敷地の壁に隠れている。受熱した貼床埋土で、にぶい橙色2.5YR6/4を呈する。やや締まり良い。

掘り残しピット：黒褐色10YR2/2砂質シルト。混じりけのない土層。やや締まり悪い。

掘り残し埋土：黒褐色10YR3/2砂質シルト。1cm大のパミスを多量に含む。締まりよい。SK1の本来の埋土であると考えられる。

5. 3 SK2

埋土1：黒褐色7.5YR3/1シルトを基本とし、明黄褐色10YR6/6粗砂とにぶい黄褐色10YR6/4粗砂が混じる。1～5cm大のパミスを多量に含む。締まりよい。

埋土2：暗褐色10YR3/4と褐色10YR4/6の中間色砂質シルト。1～5cm大のパミスを多量に含む。締まりよい。

5. 4 SK3

貼床①：褐色10YR4/6と黄褐色10YR5/8の中間色シルト質砂ベースに、黒褐色10YR2/2シルトと明黄褐色10YR6/6粗砂が混じる。1～5cm大のパミスを多量に含む。非常に堅く締まる。踏みしめられたためと考えられる。

貼床②：黒褐色10YR2/2シルトをベースに、黄褐色10YR5/8シルトと明黄褐色10YR6/6粗砂が混じる。1～2cm大のパミスが多量に含まれる。貼床①よりもやや締りが悪い。

堀床内の埋土：にぶい黄褐色10YR6/4粗砂を基本とし、黒褐色10YR2/2シルトと明黄褐色10YR6/6粗砂が混じる。1～5cm大のパミスを多量に含む。締まり悪い。

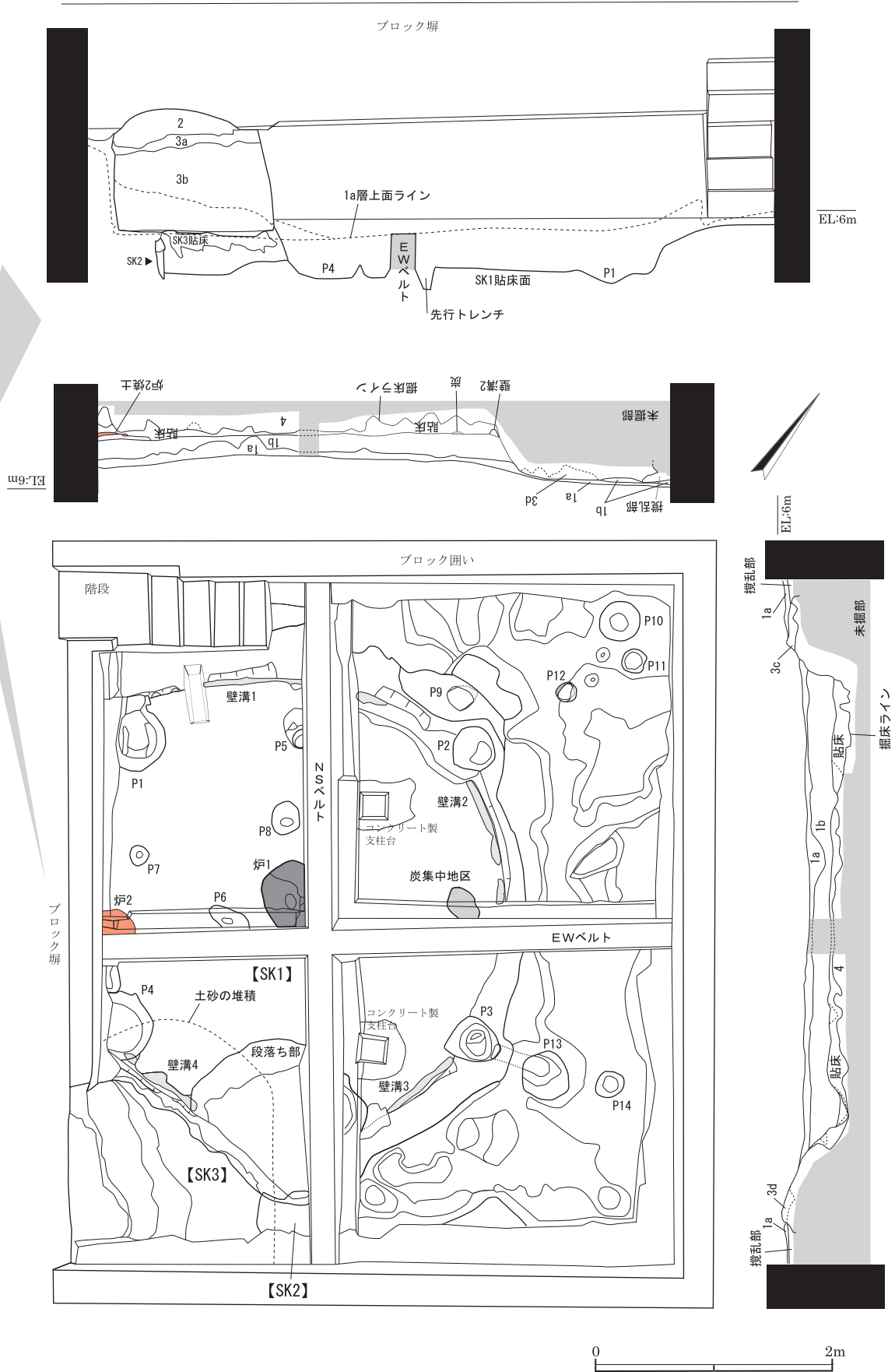


Fig.6 遺構配置と土層 S=1/50

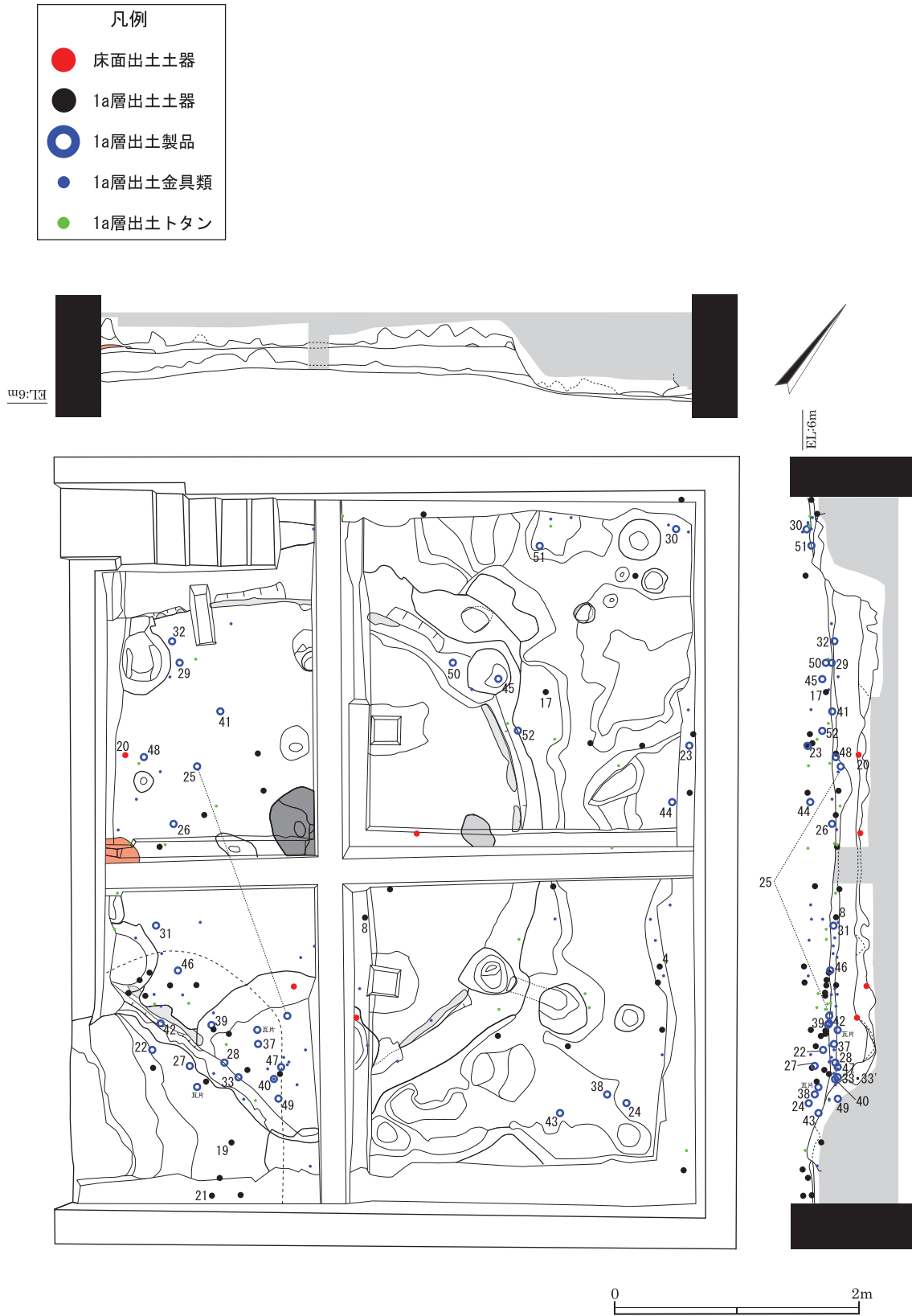


Fig.7 遺物出土状況 S=1/50
番号は、遺物番号に対応

6. 遺構 (Fig.5~7, PL.2~4)

6. 1 SK1

河口貞徳氏によって検出された不整形の住居跡をSK1と呼称することとした。SK1については、当時の調査所見をまとめると、以下のようになる。

①第4層砂層を掘り込んで構築される、②不整形を呈する(4.65×4m)、③四隅に支柱ピット(北側には軽石を込石としている)、④床面中央に炉あり(60×53cm、深10cm)。部分的に軽石がはめ込まれる。木炭片、炉底赤化が見られる、⑤床面に軽石配石遺構(1×0.5m)があり、土器置場と想定される、⑥南南東隅に菱形の落ち込み(1.3m、深16cm)があり、住居入口と想定される、⑦土器は、現行編年では、筐貫式である、⑧軽石加工品・砥石も出土している。

旧調査によって確認された円形住居跡で、径4.9m前後の不整形を呈する。床面までの深さ約25cm、掘床までは20~40cmである。住居跡内外に柱穴らしきピットがあり、床上には炭の集中や赤化した土壌の存在する炉と思わしき地点が3箇所存在する。炉1は、全形を再検出していないが深さ2.5cm前後を測り、旧調査で認められていた炉跡である。旧調査では炉の縁に部分的に軽石が配置され、炉内には木炭や受熱による赤化が確認されているが、今回、わずかの木炭粒しか確認できなかった。炭集中部は、旧調査で軽石小礫が0.5×1mの規模で配置された土器置場と解釈されている箇所であるが、軽石等は取り上げられており、若干の木炭の集中箇所として認識された。土器置場としての機能であったかは断定できない。炉2は、旧調査で認識されていないもので、わずかに木炭粒の存在と厚さ1cmの赤化した部分が確認された。今回、1a・1b層を除去した時点の平面形も同様に不整形であり、1b層が充填された状況での遺構検出上場からみると、略五角形状であったことは興味深い(PL.2)。

ピットは、住居内壁際に4箇所(P1~4)、住居内に4箇所(P5~8)、竪穴外に5箇所(P10~14)確認されている。P9はP2付近に存在し、斜位に掘り込まれ、支柱台状を呈する。ピットの検出面からの深さは、P1(7.7~15.7cm)、P2(12.2~37.5cm)、P3(26.4~56.5cm)、P4(7.3~15cm)、P5(5.8~29.4cm)、P6(8.9~12.7cm)、P7(5.8~8.5cm)、P8(7.8~11.2cm)、P9(10.1cm)、P10(15.9~21cm)、P11(6.2~10.6cm)、P12(8.7~24cm)、P13(37~57.2cm)、P14(11.5~17cm)である。P1~P4が支柱と考えられるが、P1・4はやや浅い。P3とその東外側に約60cm離れた箇所のP13とは、内部で導通している状況であった。P12などは、埋土が部分的に掘り残されており、掘り残しは壁際にも存在する(PL.3-e・f)。

今回の調査において、新たに住居構築の際の掘床と貼床の構造が確認された。また、部分的に残っている、住居内を円形に巡る壁溝が確認された。壁溝の幅は5~10cm、深さ3~8cmである(PL.4-d・e)。壁溝上の壁面は、床面から5~15cmの高さで直に掘られており、壁板材の存在を窺わせる。しかし、一部の貼床が壁溝を覆っている部分があり、これは壁溝自体が住居廃棄直前段階には機能を失っている可能性を示すものである。なお、壁溝はトレンチで断面を一部確認・観察し、完掘することは避けた。

土器が貼床中より4点出土しているが、凶化可能な資料はほとんどない。

6. 2 SK2

旧調査では、未確認の遺構で、一部ベルトに隠れており、全体形状は不明である。埋土は、2層に分層される。SK1の落ち込み状遺構とされる深さまでは確認しているが、それよりも深い可能性がある。ピット状の土坑が想定される。SK3を切る関係にある。

6. 3 SK3

旧調査で確認されていない遺構である。調査区南西隅に存在している住居跡である。現状をみるとSK1・2に切られる関係にある。貼床と掘床が確認されているため、上部の黒色層は竪穴住居跡内部の埋土である可能性が高い。床面から掘床ラインまでは20cm前後の深さである。SK1との貼床のレベルを測ると、SK3が30cm前後高く、古い住居がレベル的に高い位置にあったことになる。遺構のレベルは、深い順にSK2→SK1→SK3となる。

II 郡元団地Q-10区（「教育学部附属中学校敷地内遺跡」）再調査



a



b



c



d



e



f



g

PL.2

- a. 1a層除去後(北東より)
- b. 1a層除去後(北西より)
- c. 1a層除去後(南東より)
- d. 1a層除去後土層残存部(北東より)
- e. 床面検出状況(北東より)
- f. 床面検出状況(北西より)
- g. 床面検出状況(南東より)



a



b



c



d



e



f



g

PL.3

- a. 炉2検出(北より)
- b. 炉2断面(北より)
- c. 炉1再検出(南西より)
- d. 炭集中部(旧「軽石配置部」)(西より)
- e. 東壁側掘残し部(南西より)
- f. P12掘残し部分(東より)
- g. EWベルト土層(北西より)

II 郡元団地Q-10区（「教育学部附属中学校敷地内遺跡」）再調査



a



b



c



d



e



f



g

PL.4

- a. SK1-3の関係(北西より)
- b. SK2側面(北西より)
- c. SK3貼床(北より)
- d. 壁溝1検出(西より)
- e. 同壁溝断面(西より)
- f. 埋戻し状況(東より)
ブロックを一段分除去
- g. 埋戻し終了(北東より)

7. 遺物

保存住居施設内及び周辺域から得られた遺物は、Ta.1の通りである。

住居保存が行なわれてから、少なくとも1度は保存施設上屋の張替えが行なわれていると考えられ、1a層に現代遺物であるアスベスト製の屋根材片や多種の釘が多量に混入していた（PL.6-34～36）。また、菓子の袋やドラム缶などの現代ゴミも1a層のみに出土した。1b層の海砂填砂には現代遺物の混入がないことから、保存住居として残されることが決定してから、直ちに海砂の充填が行なわれたと考えることができる。そのため、住居床面や貼床より出土した取り残しの遺物は、本来の古墳時代住居跡に帰属するもので、1a層出土遺物は、施設南隅に残存する包含層より流れ出したものや、昭和38年以降に堆積した遺物であると捉えることができる。

土器は、施設周辺域の採集品も含めて151点得られており、住居内貼床中より出土したのは、わずか4点である。時期判断可能なものはほとんどなかった。高坏脚部小破片による観察からは、成川式段階と考えられる（20）。ほとんどが1a層から出土し、南隅土層残存土塊部分に分布が集中することから、同地点から流れ出したものと考えられる。器種は、甕（1～13）、壺（14・15）、鉢（16・17）、埴（18・19）、高坏（20・21）などが得られている。甕は直状の口縁部形態（1～3）で、2・3のように表裏面にハケメを著しく残すものもある。突帯はいわゆる絡状突帯である（4・5）。脚部は基部（6）と接地部分とがあり（7～13）、後者は端部が外反するもの（7・8）、直状のもの（9～13）とがある。13は厚みからみると大振りの甕の脚と考えられる。埴や高坏は表面に赤色顔料が塗布され、横方向のミガキが施される（19・20）。ほとんどが成川式土器の範疇におさまり、笹貫式段階の資料が多いとみられる。

近世陶磁器は、2点得られている。22・23は、18～19世紀の染付碗と考えられ、渡辺芳郎教授のご教示によると、波佐見焼の可能性が高い。22は表面口縁部直下に一条の圈線が巡り、体部には垂下する花をつけた植物が描かれる。裏面には約1cm幅で文様が巡るように描かれているものの、構成はぼやけており判然としない。23は表面に草花文らしき文様が描かれるものの、構成は不明である。どのような経緯でこの施設内にもたらされたのか不明確であるが、構内遺跡からは、比較的出土の多い陶磁器である。以上の詳細は、Tab.2参照。

以下は現代遺物である。住居保存年代を推定するために、時期の検討を行なった。

24は、表面に「鴨池 魚吉 TEL ④■…」、裏面に「玉風謹製」と赤の上絵付け（スタンプ印）されるものである。これは郡元町にあった「魚吉（うおよし）食堂」で用いられたもので、1980年までは経営していたらしい。附属中学校の当直（1980年前後まで行なわれていた）の職員が、附中周辺に食堂がない時代によく出前を頼んでいたということであり、それに関連するものかもしれない²⁾。

生徒による製作物（25）は、粘土紐を円盤状に成形したもので、焼成後に茶色系のニスあるいはペンキ状の塗料で粗く表面のみ塗布される。表面にはわずかに突起状の高まりがあり、何らかの機能を有していたと考えられるが判然としない。裏面には接合痕が著しく残存する。附属中学校の美術の時間に焼物を製作していたのは、焼物を専門とする美術教諭の赴任時期であり、昭和38年以降では二人の教諭が赴任している。これが1968～1987年の間であることから、その時期前後のものである可能性が高い³⁾。

Tab.1 附属中学校敷地内遺跡出土遺物一覧
釘類の+αは、破片に考慮したもの

	土器	陶磁器	生徒製作物	瓦	名札	インクカートリッジ	プルタブ類	ボタン・髪留め	襟カラー	ビニール製包み類	石	ガラス	一円玉	消しゴム	セメント・レンガ	釘類・金具類	プラスチックトタン	トタン
保存住居周辺採集	46																	
保存住居内表採・攪乱部	28															1		5
1a層（表面腐食土）	73	3	1	4	1	1	2	2	2	9	1	1	2	1	2	43+α	1	29
1b層（充填海砂）																		
貼床（住居床埋土）	4																	

瓦は4点出土している。平瓦が3点、軒平瓦と考えられるものが1点である。26の平瓦は、裏面に横方向のハケメ調整の後に縦方向ケズリ調整の順で調整が行なわれている。27は軒平瓦片と考えられるが判然としない。構内遺跡で表土層から頻繁に出土する瓦である。

プラスチック製の名札は二種あり、ピン止め(28)とクリップ止め(29)がある。29には、白の油性マーカーで「尾上」と書かれている。裏面には、左下に「PAT・」、右下に「925679・」と製造番号か品番と考えられる文字が陽刻される。

30は、株式会社パイロットコーポレーション製インクカートリッジ（品番 IRF-12S）で、1961年から現在まで、同型・同サイズで製造されているものである⁴⁾。

31はキリンビバレッジ株式会社ドリンク「きりり」のアルミ製蓋である。1994年3月1日に発売され、現在では製造されていない商品である。蓋下部に記載された「東京都千代田区神田駿河台2-2」の住所は、1994年5月には現住所である千代田区神田和泉町に移転しており、この3ヶ月間内に製造・流通した商品であることが分かる。ほかにも現在では製造されていない缶のプルトップ（PL.6-37）も出土している。製造元は不明である。

附属中学校制服のボタン（32）は、裏面水抜き穴が2穴で、中央に凹を持たないものである。2007年現在、附属中学校制服を取り扱っているのは、株式会社三越、株式会社山形屋、株式会社丸京制服店の3社であるが、丸京のボタンのみが2穴で出土品に相当するとみられる。他は4穴である。丸京に制服を卸しているのは瀧本株式会社である。同社に問い合わせたところ、2穴の水抜き穴のボタン裏を製作しているのは、有限会社山満（大阪）ということが分かったが⁷⁾、いつ頃から製作されているのかは不明である。ほかにも制服カラー等が出土している（PL.6-42・43）。

熊を模ったピンクの髪留め（33）は、2個が同一箇所より出土したことからして、廃棄時はゴム部分もあり、腐食したものと考えられる。

そのほかにも玉石（38）、ガラス破片（39）、昭和36年と年代不詳の1円玉が出土している（40・41）。

包装紙類は数種出土しているが、ビニール製のみが腐食せずに施設内に残存したものと考えられる。

PL.6-44は、ホラー・コミック「亡霊学級」（株式会社秋田書店；東京：つのだじろう著）の表紙片は、紙部分は分解し、ビニール部分の薄皮のみ残った状態である。装丁は現在でもほとんど変わらないものである。初版は1973年であり、表紙袖部にあるコミック既刊リストには、80年代中頃には発刊中止になったものがあることから、1973年～80年代半ばに刊行されたものであると考えられる⁵⁾。

45は、SONY 株式会社（東京）のカセットテープの包装紙で、「CHF-120 TYPE I（ノーマルポジション）録音・再生時間120分」とみられるものである。1978年11月21日発売、1983年6月終売したものである⁶⁾。

46は、亀田製菓株式会社（新潟）の菓子「ハッピーターン」の小袋である。現在でも同名の製造は行なわれているが、デザインは異なる。1977・78年前後のものと推定される⁸⁾。

47は、第一製菓株式会社（岐阜）の菓子「飛騨娘」の小袋で、1974年より発売され、現在まで包装は変わっていない⁹⁾。

48は、ノーベル製菓株式会社製（大阪）のキャンディー「冷凍ビタミン」の小袋で、2002年3月発売し、2005年10月には販売終了したものである¹⁰⁾。

49は、雪印ローリー株式会社製（現・カゴメラバイオ株式会社；愛知）の乳酸飲料「ローリーエース」で、その容器数本を包む包装紙片が出土している。1973年より発売されているが、同包装紙は1987年より販売された商品である可能性が高い¹¹⁾。

50は、有限会社富久屋製パン工場（鹿児島）の菓子パン「Hi Co ■■■」であるが、同社に問い合わせたものの、製造年代は不明であった。

ほかにも、51の商品名不明の菓子包紙（日本バンドー株式会社；東京）や52「味付のり」（株式会社松本商店；熊本）、などが出土している。菓子類の小袋類が多いこと、マンガ表紙などが出土したことなどは、生徒の学園生活の一端を窺える。施設は上屋と20cmほど地面より高い石垣囲いに覆われ、ゴミが自然には入り難いこと、遺物の出土状況を見ると、傾斜のある上屋の大きく開いた覗き枠の真下に現代遺物が集中していることは、人為的に捨てられた可能性を示唆する。年代の分かる資料を並べると Tab.3 のようになる。流通年代も数年のズレが見込まれるが（飲料・食品はさらに短い期間だろう）、1a 層の現代遺物の堆積が、ごく近年まで行なわれており、1968年以降、2005年再調査時までの堆積層であることが遺物からも追認された。

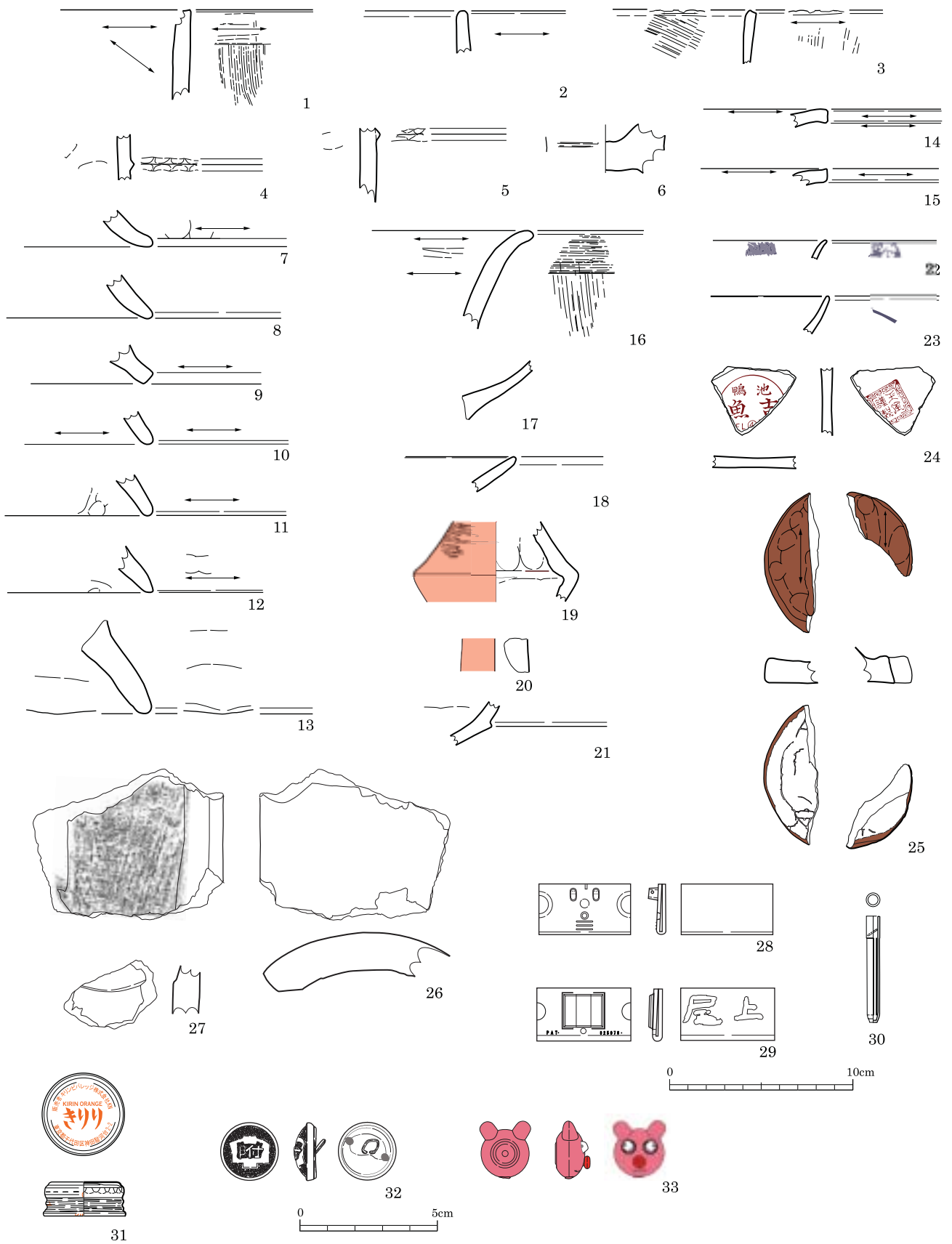


Fig.8 遺物 1-30:S=1/3,31-33:1/2



PL.5 遺物



PL6. 遺物

Tab.2 遺物観察

No. 地区・層	器種	部位	色調	胎土		調整	備考	
				混和材	密度			
1	攪乱層	甕	口縁	外面:黒褐10YR3/2, 内面:器内:にぶい黄褐:10YR5/4	礫:赤色粒, 粗砂:石英・灰黄透明粒・角閃石, 細砂:石英・灰黄透明粒・角閃石	8	外面:ハケ() → 口唇部付近ナデ(-), 内面:ナデ(-)	
2	周辺採集	甕	口縁	にぶい褐7.5YR5/4, にぶい橙7.5YR6/4	粗砂:石英・灰黄透明粒・角閃石・白色粒, 細砂:石英・角閃石・白色粒	3	内外面:ナデ(-)	
3	周辺採集	甕	口縁	外面:にぶい黄橙10YR7/3, 内面7.5YR7/6, 器肉:黒N1.5/0, 黒斑:黒7.5Y2/1	粗砂:角閃石・石英, 細砂:石英・黒色粒・白色粒	7	外面:ナデ(-), 内面: 口唇部付近に黒斑ハケ(\)	
4	1a層	甕	胴(突帯)	内外面:器肉:灰白2.5YR8/2, 黒斑:黄灰2.5Y4/1	礫:白色粒, 粗砂:角閃石・石英・白色粒・灰黄透明粒, 細砂:角閃石・石英・白色粒・灰黄透明粒	5	内外面:ナデ	
5	1a層	甕	胴(突帯)	内外面:にぶい黄橙10YR7/4, 器肉:黒7.5Y2/1	礫:軽石, 粗砂:石英・角閃石, 細砂:黒色粒・白色粒	2	内外面:ナデ	
6	攪乱層	甕	脚	外面:明赤褐5YR5/6, 内面:黒N1.5/0, 外底面:器肉:にぶい橙7.5YR6/4	礫:白色粒・赤色粒, 粗砂:石英・白色粒・灰黄透明粒, 細砂:角閃石・石英・白色粒・灰黄透明粒	9	外面:ナデ(-), 内外底面:ナデ	
7	攪乱層	甕	脚	外面:にぶい黄橙10YR6/3, 外面:にぶい黄橙10YR7/4・橙10YR6/6	礫:白色粒・軽石・角閃石, 粗砂:角閃石・灰黄透明粒・石英, 細砂:黒色粒・白色粒	5	内外面:ナデ	
8	1a層	甕	脚	外面:黒褐10YR3/2, 内面:にぶい褐:7.5YR5/4	礫:白色粒, 粗砂:角閃石・石英・白色粒・灰黄透明粒, 細砂:角閃石・石英・白色粒・灰黄透明粒	9	?	器面荒
9	1a層	甕	脚	外面:にぶい黄橙10YR7/4, 内面:にぶい黄褐10YR6/3, 器肉:灰黄褐10YR6/2	礫:灰黄透明粒, 粗砂:石英・灰黄透明粒・角閃石, 細砂:黒色粒・白色粒	9	外面:ナデ(-)	接地部に黒斑
10	周辺採集	甕	脚	外面:にぶい黄褐10YR5/3, 内面:10YR4/2	粗砂:角閃石・石英, 細砂:石英・黒色粒	7	内外面:ナデ(-)	
11	1a層	甕	脚	外面:にぶい黄橙10YR7/4, 内面:橙7.5Y7/6, 器肉:にぶい橙7.5YR7/4	粗砂:石英・角閃石・白色粒, 細砂:石英・角閃石・白色粒	5	内外面:ナデ	
12	攪乱層	甕	脚	外面:にぶい黄橙10YR7/4・橙5YR6/6, 内面:器肉:にぶい橙7.5YR7/4	礫:橙色粒, 粗砂:橙色粒・角閃石・石英, 細砂:黒色粒	6	内外面:ナデ(-)	
13	攪乱層	甕	脚	外面:明黄褐10YR6/6, 内面:7.5YR7/6, 器肉:浅黄橙10YR8/4	礫:茶色粒・白色粒, 粗砂:石英・灰黄透明粒・白色粒・角閃石, 細砂:石英・灰黄透明粒・白色粒・黒色粒	9	内外面:ナデ(-)	
14	周辺採集	壺?	口縁	内外面・器肉:にぶい褐7.5YR5/3	礫:灰黄透明粒, 粗砂:石英・灰黄透明粒, 細砂:黒色粒・白色粒・石英	4	内外面:ナデ(-)	
15	周辺採集	壺?	口縁	外面:にぶい橙7.5YR6/4, 内面:にぶい橙7.5YR7/4・にぶい赤褐5YR5/4	粗砂:石英・灰黄透明粒, 細砂:灰黄透明粒・黒色粒・白色粒・赤色粒	2	内外面:ナデ(-)	
16	攪乱層	鉢?	口縁	外面:7.5YR5/4, 内面:にぶい黄橙10YR7/4	礫:白色粒, 粗砂:石英・角閃石・灰黄透明粒, 細砂:黒色粒・石英・白色粒	7	外面:ハケ() → 口唇部付近ナデ(-), 内面:ナデ(-)	外面に煤付着
17	1a層	鉢?	胴	内外面:にぶい黄橙10YR7/4, 器肉:灰5Y4/1	粗砂:石英・白色粒, 細砂:石英・白色粒・黒色粒	3	内外面:ナデ	
18	周辺採集	埴?	口縁	内外面・器肉:浅黄2.5Y7/3	細砂:石英・黒色粒	1	?	器面磨耗
19	1a層	埴	胴	顔料:赤褐2.5YR4/8, 内外面:橙5YR7/6, 器肉:灰5Y5/1	礫:白色粒, 粗砂:角閃石・石英・白色粒・灰黄透明粒, 細砂:角閃石・石英・白色粒・灰黄透明粒	1	外面:ミガキ(-), 内面:ナデ	赤色顔料塗布
20	SK1・埋土1層	高坏	脚	顔料:赤褐2.5YR4/8, 外面:橙5YR7/6, 器肉:褐灰10YR5/1	粗砂:石英, 細砂:石英・白色粒	2	外面:ミガキ(-)	赤色顔料塗布
21	1a層	高坏	胴	外面:にぶい橙7.5YR6/4, 内面:にぶい黄5YR7/6, 器肉:灰黄褐10YR6/2	粗砂:石英・角閃石・白色粒, 細砂:石英・角閃石・白色粒	4	外面:ミガキ(-), 内面:ハケ(-)	
22	1a層	磁器碗	口縁	素地:灰白7.5Y8/1, 文様:青灰	なし	—	—	外面:草花文, 裏面:不明 波佐見焼
23	1a層	磁器碗	口縁	素地:灰白10Y7/1, 文様:青灰10BG6/1	黒色シルト(極少)	1	—	文様不明, 波佐見焼
24	1a層	磁器	底	素地:純白, 上絵(表)暗赤褐2.5YR3/6, 上絵(裏):赤褐2.5YR4/6	なし	—	—	表「鴨池魚吉」E.L.④...」, 裏「玉風謹製」
25	1a層	陶器		素地:にぶい橙7.5YR6/4, 塗料:極暗赤褐2.5YR2/4	粗砂:橙白色	1	指頭圧痕著しい	
26	1a層	平瓦		器肉:灰7.5Y6/1と灰白2.5Y8/2のマーブル状, 表裏面:青灰5B5/1	細砂:石英・黒色粒	1	内面:ケズリ(-) → ケズリ()	
27	1a層	軒平瓦?		器肉:明オリブ灰5GY7/1, 表裏面:青灰5B5/1	礫:茶色粒(有機物か?), 粗砂:石英・黒色粒	1	表面:ナデ	

Tab.3 現代遺物の編年

製品	年代	1963	68	73	74	77	78	79	80	83	84	85	87	94	2002	05
インク・カートリッジ	製造年代															
「魚吉」磁器	使用年代															
生徒製作物	製作年代															
亡霊学級	製造年代															
飛騨娘	製造年代															
ハッピーターン	製造年代															
SONY カセットテープ	製造年代															
ローリーエース	製造年代															
きりり	製造年代															
冷凍ビタミン	製造年代															

8. まとめ

「教育学部附属中学校敷地内遺跡」は、河口貞徳氏が1963年に学術調査を行なった遺跡である。

鹿児島県下において、一般市民や小中学校の生徒に開放する目的としては比較的早い時期に保存住居として施設化された「教育学部附属中学校敷地内遺跡」も、整備がほとんど行なわれなかったことでその目的を發揮できず、附属中学校内で危険箇所指定され、結局埋め戻されてしまった。遺跡保存の観点からはそのほうが良かったのかもしれないが、予算上の関係だけで社会へ還元できなかった教育施設の問題点も浮き彫りになった。しかし、保護のための石垣ブロックの囲いと住居跡そのものは地下に保存されている。恒久的な予算措置が施されることになれば、いつの日かまた日の目をみることもあろう。予算措置も不可能で、痛ましい事故が起きた状況下では、埋め戻しもやむを得ない措置だったと思う。

「教育学部附属中学校敷地内遺跡」の住居跡は、平面形状が不整円形の竪穴住居跡である。現在では古墳時代の笹貫式段階の住居跡であると考えられている。全国的には、弥生時代後期頃から南西諸島地域を除いて円形住居跡から方形住居跡へとほとんど転換しているという傾向があり、南九州地域においても例外ではない。しかし、南九州地域でも円形住居跡が少ないながらも古墳時代まで存続することが1977年段階で明らかとなっていた¹²⁾。その後、中摩浩太郎氏は、南九州古墳時代の住居跡を時期別・地域別に整理し、その動向と背景、意味について言及している¹³⁾。中摩氏による検討では、柱穴を主眼とした詳細な分類を試みているが、そのなかでIA α 型（中心軸採用型—円形基調竪穴）とII A型（平行枠・中心軸併用型—円形基調竪穴）が、円形住居に相当する。同検討によると、地域別ではIA α 型がB地域（薩摩半島東岸地域から大隅半島地域）に笹貫式段階に存在し、II A型はA地域（薩摩半島西岸部から南部地域）において、東原式段階から辻堂原式段階に、B地域では辻堂原式段階に存在すると分析されている。

「教育学部附属中学校敷地内遺跡」と「県立医大遺跡」の円形住居跡は柱穴の位置から考えて、極めて類似しており、中摩分類のII A型に相当し、分布としてはB地域であるため、同氏による地域別動向に時期的な新例を加えるものである。

鹿児島大学構内遺跡郡元団地に限定すれば、古墳時代後半期笹貫式段階の住居跡は、現在のところ方形住居が主体であり、中央屋内炉に埋設土器を持つ例が目立つ。特に理学部と法文学部を併せたII区のII A・II B（Fig.3参照）では、笹貫式段階の無数に切り合う住居跡は、方形住居で占められており、住居跡密度の低い図書館地域（II C）では柄鏡形の円形住居（中摩氏分類のII A類?）が存在する。郡元団地内で検出された笹貫式段階の方形住居跡は、200基を超える数であるが、円形住居は3例しか存在しない。これもまた、これまでの研究成果に該当するものである。例としては少ないが現在のところ、円形住居の屋内炉に埋設土器は見当たらない。一方、宮崎平野においても埋設土器が確認され、全国的にも屋内土器埋設炉が古墳時代後半期に存在するというのは南九州の動向といえる。鹿児島県では、日用的な笹貫式甕・壺の下半部、高坏の坏部を炉内に埋設するが、宮崎県では特別に粗造土器を製作し、これを埋設している。埋設する土器の形態は異なるものの、土器埋設炉という習俗的な共通性からすれば、時期的に併行する可能性もある。鹿児島県域では6世紀代（TK47以降）の笹貫式段階から始まるという状況であるが、宮崎では5世紀後半代（TK208）に遡る可能性が指摘されている¹⁴⁾。今後、鹿児島県下においても検討すべき課題である。今回、再調査に当たっての目的はほとんど達したと考えているが、住居跡の切りあいなど、遺構の重複する様相が把握できたこと、貼床の存在が確認できたこと、もう一基の炉（炉2）を検出できたこと、壁溝が確認できたことは新知見を加えるものであった。遺物は住居内よりほとんど得ることができず、周辺の遺物などを考慮すると、河口報告の笹貫式段階の資料で理解できそうである。

「教育学部附属中学校敷地内遺跡」住居跡の保存措置については、大学関係者にその実態を知るものではなく、竪穴住居跡がそのまま野ざらしになった状態であり、それが埋没したものと考えていた。しかしながら、今回の再調査により竪穴内は、住居・ピットの掘りかたとは色調として全く異なる海砂によって充填されており、しかもそれが調査後速やかに行なわれていることが判明した。安価でかつ掘りかたを保護するという当時の最良の方法によって、素人目にも竪穴住居の形態が分かるような措置が取られていたことは、埋蔵文化財調査室において想像していなかった。1963年当時は全国的にも埋蔵文化財に対して理解のある時代ではない。保存措置の労をとられた関係者には敬服するほかないが、その経緯は一切記録がなく、保存目的や予算

措置、施設の建設など保存にいたる経緯を知ることができない。この住居跡は、40年余りも放置されており（しかし、少なくとも一度はアスベスト製の屋根が改修されている）、草木が繁茂しゴミなどが堆積していた。そのゴミ類は附属中学校関係遺物が多く（製作物・名札・制服ボタン・制服カラー・消しゴムなど）、ほかにも、菓子袋や飲み物の蓋、マンガなどがあることもまた、学園生活の一端を表しているように思われる。これらの現代遺物の製造年代を主として保存措置が行なわれた時期を推定しようと試みたが、上限は1968年までは遡れる可能性があるものの1963年調査直後までは確認することはできなかった。2b層が外部から持ってきた充填海砂であり、住居床面にも海砂内にも現代遺物は一切包含されていないことからして、層位的には調査直後に海砂で充填して保護したという経過は復元できる。しかし、ブロック囲いと上屋、そして周囲の盛土の時期については不明のままである。

河口貞徳氏による発掘調査は、埋め戻しまで含めた10日間のみで試掘トレンチを掘削して住居跡を掘り当て、検出し、非常に多くの有意な情報を得、さらに保存措置も施している。40年余りが経過した現段階における調査視点は異なっている部分もあり、未確認遺構の存在、貼床の存在、壁溝の存在などいくつかの新知見を得ることができた。しかし、一度発掘調査された遺跡を再調査するに当たって、当然ながら、遺構の切り合い関係など検証できない部分も多かった。また、1963年以降の保存措置が行なわれた年代についても、ごく最近のことでありながらも明確にし得ないこと、保存住居施設を社会還元できなかった問題点など、小さな調査区ではあったが、大きな意義をもつ調査であったと考える。

発掘調査は、常に最善の調査方法を探究しなければならないが、今回の再調査は、過去の調査の欠点を無批判に指摘することではなく、今後の発掘調査や社会へと還元することの問題点と方針を進展させていく手段として捉えたい。

注

- 1) 河口貞徳 1955「弥生式遺跡」『鹿児島のおいたち』鹿児島市長 89-115頁
河口貞徳 1969「弥生時代」『鹿児島市史』I 鹿児島市史編さん委員会 58-75頁
河口貞徳 1987「教育学部附属中学校敷地内遺跡」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報』II 63-66頁
- 2) 鴨池ライスセンターの新原氏（魚吉食堂の経営者の肉親）、附属中学校事務係茂利係長ほか事務職員の方々にご教示をいただいた。
- 3) 附属中学校事務係にて調査。
- 4) 株式会社パイロットコーポレーション九州支社川原博一氏よりご教示いただいた。
- 5) 秋田書店メディア事業部よりご教示いただいた。破損品であったため、情報量が少なく、下限年代の推定に際しては、書籍リスト内における80年代に絶版になった書籍から判断したということである。
- 6) ソニー株式会社お客様ご相談センターの武田氏よりご教示いただいた。
- 7) 瀧本株式会社によると、有限会社山満の所蔵の器械製造のボタン裏（2穴）であるが、表は別の会社のものである可能性もあるという。
- 8) 亀田製菓株式会社お客様相談室より、「担当部署に同型の個装はないが、同じロゴの大袋が残っており、製造期間が1977～1978年前後であることから、個装もその頃ではないか」というご教示いただいた。
- 9) 第一製菓株式会社よりご教示いただいた。
- 10) ノーベル製菓株式会社よりご教示いただいた。
- 11) カゴメ株式会社お客様ご相談センターよりご教示いただいた。裏面に何らかのキャンペーンがあったことを窺わせる文字があったが、破損が著しく、その情報で時期を絞り込むことはできなかった。
- 12) 池畑耕一ほか 1977『辻堂原遺跡』吹上町教育委員会
- 13) 中摩浩太郎 1999「南部九州古墳時代の竪穴住居類型の変異に関する一考察」『人類史研究』第11号 人類史研究会 253-267頁
- 14) 高橋浩子ほか 2002『枯木ヶ迫遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター

Ⅲ 郡元団地K・L-5・6区（中央図書館増築地C～E地点）包含層出土遺物

1. 遺跡の概要

本報告は、既刊の『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報』19¹⁾における郡元団地K・L-5・6区（中央図書館増築地C～E地点）包含層出土遺物の紹介を行なうものである。

調査地点ごとに土層が細分されている状況で、A～E地点土層と遺構の相対的な関係は、Tab.4の通りである。おおよそ各地点の表土層は、鹿児島高等農林学校時代～鹿児島大学時代までの近現代の土層であり共通している。C・D地点のⅡ層、E地点の2層は、近代を中心とする近世～近代の包含層として対応し、C地点のⅢ・Ⅳ層とD地点Ⅲ層、そしてE地点の3層が近世を中心とする中世～近世の包含層として把握される。わずかに古代の遺物も混じることからは、古代もこの層に包含される可能性が高い。C地点Ⅴ層、D地点Ⅳ層、E地点4層は古墳時代後半期を中心とする弥生時代～古墳時代の包含層とみられるが、古墳時代後半期の遺物に比して、弥生時代の遺物は少ない。

Tab.4 各地点の遺構・土層相関図

A地点層位	遺構	B地点層位	遺構	C地点層位	遺構	D地点層位	遺構	E地点層位	遺構	時代
1層		1層		I層		I層		1層		近代～現代
2a層		2層		Ⅱ層		Ⅱ1層		2a層		近世～近代
2b層						Ⅱ2層上面	SK3,SD1・2	2b層上面	SD1,畝状遺構	
3a層上面	SK1・2	3層上面	SK1			Ⅱ2層		2b層		
						Ⅲ1層上面	SK1・2・4・5	3a層上面	SK1-3・10-17 SD2・3,畝状遺構	
3a層				Ⅲa層		Ⅲ1層		3a層		中世～近世
3b層		3層		Ⅲb層		Ⅲ2層		3b層		
3c層				Ⅳa層				3c層		
3d層				Ⅳb層				3d層		
4a層上面	SD1・2	4a層上面	SK2,SD1・2・3	Ⅴ層上面	SK3・4			4層上面	SK4・5・7-9 ビット群,牛足跡	
4a層		4a層		Ⅴ層		Ⅳ層		4a層		弥生時代～ 古墳時代
4b層上面	SK3	4b層		Ⅵ層上面	SK5-10,SD4 ビット群	Ⅴ・Ⅵ層上面	SD3・4	4b層		
4c層								5層上面	ビット群	
5層上面	SK4-7 ビット群	5層上面	A地点のSK4の続き SK11,SD5-7,ビット群	Ⅵ層		Ⅵ層		5層		弥生中期以前

各地点からは、近世～近代の遺構として溝状遺構など（D地点SK3・SD1・2、E地点SD1）が検出されており18世紀後半～19世紀を中心とした遺物で占められている。中世～近世の遺構として溝状遺構（E地点：SD2）があり、中国陶磁器などが出土している。古墳時代の遺構としては、柄鏡形住居（A地点：SK4）、方形竪穴住居跡（C地点：SK5～10）、溝状遺構（B地点：SD5～7、C地点：SD4）、大溝（D地点：SD3・4）などがあり、古墳時代後半期の篋貫式土器で占められる（Fig.9）。

2. 各地点の包含層遺物

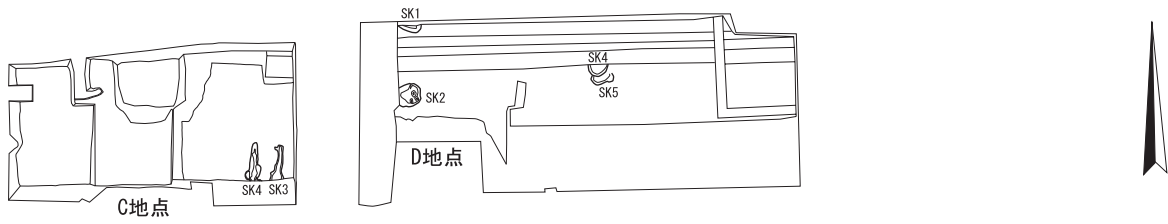
各地点の包含層遺物の特徴は、以下の通りである。

2.1 C地点

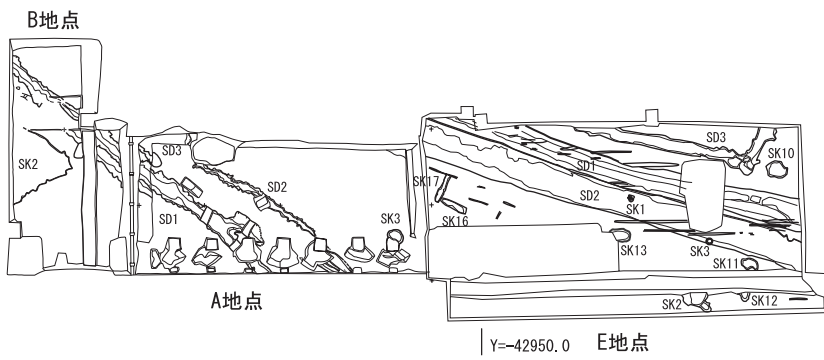
C地点遺物は、弥生時代遺物として南九州系中期前半新段階の incoming II 式の甕（8～13・17・31～34）、中九州系黒髪式甕（14・16）、北九州須玖式（15）などがある。ほかにも同時代の突帯を有する胴部がある（35・36）。いずれも甕か鉢に属するもので、その他の器種は得られていない。31・32などは、口唇部を工具によってなでることによって口唇部に凹面をつくりだすもので、incoming II 式の特徴を有するが、口縁上面を浅く窪ませる特徴は、黒髪式の特徴をもつもので、土器要素からみると二系統の折衷型として捉えることができる。この折衷形は小型甕か鉢に多い。353などは、須玖式を模倣した在土器とみられるものである。

古墳時代の遺物としては、成川式の甕（1・2・18～23・38・39）・壺（25～27）・高坏（3・24・28）・埴（29・30）などがあるが、型式名が判明するものは、後半期の篋貫式甕（1）のみである。ほかにも3・25～30が篋貫式の範疇で捉えられる可能性が高い。

Ⅲ 郡元団地K・L-5・6区（中央図書館増築地C～E地点）包含層出土遺物

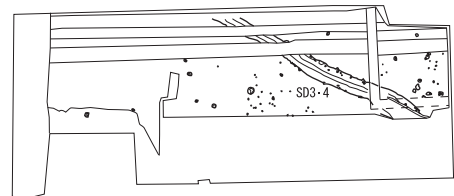
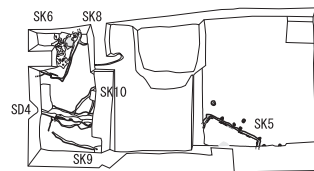


X=-158900.0

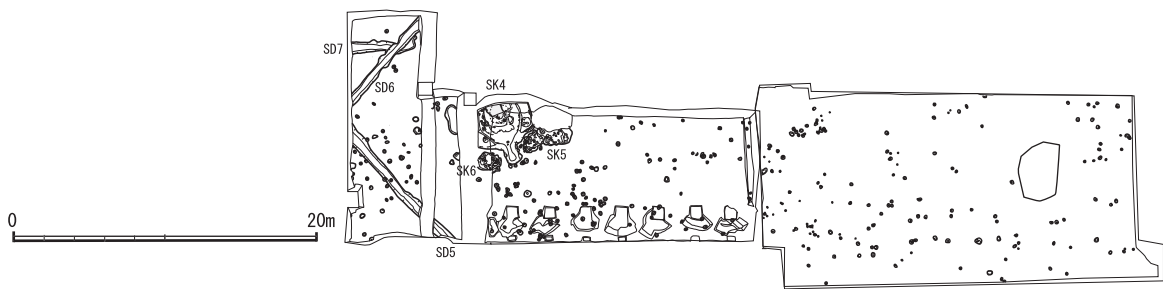


Y=-42950.0 E地点

Y=-42950.0



X=-158900.0



Y=-42950.0

Fig.9 中央図書館増築地点の遺構 S=1/500

上:中世～近代, 下:古墳時代後期～

古代の遺物として土師器坏（6・7）があり、中世は14世紀末～15世紀中葉頃の青磁碗（4）、近世～近代は薩摩焼（苗代川系）鉢（5）などが得られている。C地点遺構である浅い溝状のSK3・4からは遺物が出土していないが、Tab.5によれば、IV層の土師器がこれに相当する時期と考えられる。また、弥生時代～古墳時代の遺物のほとんどがV・VI層出土であり、これが本来の該期の包含層であると考えられる。

2. 2 D地点

D地点は、郡元団地内において古墳時代後半期の大規模な溝が検出された箇所であるため、表土・攪乱層から笹貫式の出土が多い。出土遺物のバリエーションは、C地点とほとんど変わらないが、陶磁器類の出土が比較的多い。

弥生時代では、南九州系中期前半新段階の入来Ⅱ式甕（40～45・195・227・229:47・48もその可能性が高い）、後半古段階の山ノ口Ⅰ式（46）、中九州系黒髪式（211・226）とその可能性のあるもの（49）、入来Ⅱ式と黒髪式の折衷型（228）などがある。弥生時代中期南九州系の甕中実脚（50）・小型甕（210）もあるが、底部の出土量は全体的に少ない。南九州系の壺もあるが小破片が多く（51・248・249・251）、型式名が判明するのは、終末期段階の中津野式と思われる壺（116・119・127）・小型鉢（245）がある。

古墳時代では、型式名の明らかなものとして、前期・東原式の甕（52・53・55・56・58～61・63～66・139・206）・高坏（136～138:146も可能性あり）・小型丸底壺（150）などがあり、中期・辻堂原式甕（54・57・62）、後期・笹貫式甕（68～71・73・230～232）などのほか甕か鉢になる可能性のあるものとして（72・74・156）がある。中後期のその他の器種については不明確であるが、高坏（143～144・147～149・224・254～263）・埴（151～155・359）などがその時期の器種構成に加わるものであろう。型式不明の成川式は、甕（67・76～91・93・95・97・101・113・196・207・208・212・215～218・233・235～237・239～244）・鉢（98・122・134・135・142・159）・甕か鉢（92・94・96・99・100・219・238・246）・壺（103～107・109～112・114・120・121・123～126・128～131・133・220～222・250・252・253）・埴（108・118・132・157・223・247）・高坏（140・141・145・213）のほか器種不詳の突帯（75・214・234）などがある。

その他、手づくね・ミニチュア土器（158・160）、甌（265）、土錘（205）が土製品として挙げられる。時期の確定できないものがほとんどであるが、甌は、南九州では古墳時代後半期頃から出現するとみられる。出土量は、在地甕に対して圧倒的に少ない。土錘は、魚網錘とみられるもので、構内遺跡から少なからず出土するが、まとめて出土した例は未だない。

須恵器は、碗（161）・甕（162・164・209）・大甕（225）・坏蓋（163）などがある。甕は波状文が施される。161・209は焼きが甘く、淡い灰色を呈しており、古代に属するものかもしれない。

土師器は、内黒土師器碗（197）、12世紀以降の糸切り底の皿（193・194）、碗高台（198・264・360）などがあり、360は赤塗りの碗である。

中世では14～15世紀の中国青磁碗（168～170・199～201）があり、時代が下って明末清初の染付碗（181・182）・呉須底皿（183）などもある。182は内底面に「長春富貴」とみられる文字が読み取れる。

近世～近代にかけては、肥前染付皿（174）・碗（173・175）、薩摩焼では、苗代川系の土瓶（186・191・192・204・184）・鉢（362）、器種不明底部（189）、加治木・始良系の小皿（187・188・190）・鉢と思われる口縁部（185）などが得られている。また、19世紀代の薩摩磁器端反碗（172・203）、近代以降現代の碗・皿・急須類もある（171・177～179・184）。ほかにも肥前あるいは薩摩磁器として176があり、時期不明の坏（202）がある。

石器（Tab.25）は剥片や石材と考えられるものなどで、製品の出土はない（165～167）。黒曜石剥片（266）もあるが、出土状況や遺物の構成から考えて、弥生時代中期頃に帰属するものであると考えておきたい。

361はグリーン二線硬質厚手食器と呼ばれるもので、現代の陶磁器である。美濃窯業株式会社製陶部（現・美濃窯業製陶株式会社）製品である²⁾。

Tab.5の集計結果からみると、D地点では、古墳時代の包含層はV層であると考えられる。Ⅲ層以上で土師器や中世以降の陶磁器が多く含まれているが、一部IV・V層での出土がある。特にV層出土陶磁器については、調査中、攪乱層を掘り下げずに壁状に残したままの掘削であった場所から出土しているため、攪乱層からこぼれ落ちたものを取り上げたものとみなしたい。

2. 3 E地点

E地点も遺物の出土遺物構成は、他地点とほぼ同様である。

弥生時代では中期前半新段階の南九州系入来Ⅱ式甕（315）、中九州系黒髪式甕（314）、北九州系須玖Ⅱ式高坏（317）がある。ほかにも弥生時代中期頃の特徴を持つものに、甕（313・316・324）・壺（363・364）があり、後期の甕（318）・小型甕か鉢（325）また、終末期の壺（334）・鉢か高坏（329）もある。時期は不明であるが弥生時代と考えられるものに、壺（330・336）・突帯部（331）などの資料がある。

古墳時代では、弥生時代終末期の中津野式～古墳時代前期東原式の特徴をもつ甕（309）、型式の判明するものでは、東原式の高坏（345）、笹貫式甕（268・321）がある。古墳時代後半期（辻堂原式～笹貫式）の資料には、甕（322・323）・高坏（270・271・341～344・352）・埴（335）・突帯（333）などが得られた。小破片のために、時期や型式名は不明で、成川式としてのみ分類されるものが多く、甕・小型甕あるいは鉢（267・304・310・319・320・326～328・346・347・350・351）・壺（275・332・338～340）・高坏（277）・埴（276）が認められる。

ほかにも土製品として、ミニチュア土器（337）・土錘（307・308・348）などがある。土錘348は本地点のⅣ a層から出土しており、古墳時代に属するものとみられる。

土師器は、坏（269）や内黒土師器碗（311）などが得られている。297は須恵器の高台とみられる。

中世では14～15世紀の中国青磁碗（278・279）があり、306は稜花皿である。14世紀末以降の挟入高台白磁皿（180）なども出土している。時代が下って明末清初の染付碗・皿類（273・274・280・282・286・305）などもある。中世には東播系の鉢と考えられる資料（312）もある。

近世～近代にかけては、肥前染付皿（272・284）・碗（283・285・289）、薩摩焼では、苗代川系の鉢（291・292）・土瓶（294・302・303）、加治木・始良系の碗（295・296）・小皿（298～300）などが得られている。加治木・始良系で窯元の特定できるのは白化粧土という特徴をもつ301であり、元立院系である。また、19世紀代の薩摩磁器（281）もある。ほかにも小破片のために時期や窯元の不明な陶磁器として、287・288・290・293などがある。

石器（Tab.25）は素材と考えられるものが出土している（349）。

Tab.6をみると、E地点ではⅢ層以上で中世以降の陶磁器が含まれる傾向にあるが、少量、Ⅳ a層より出土している。Ⅲ層から落ち込んだ遺物とみなしておきたい。また、2層に鉄滓・炉壁といった鍛冶関連遺物は、E地点の出土が多い。

2. 4 採集品

採集品としたのは、過去に図書館周辺で採集されたとみられる資料及び、1980年に工事が行なわれた際に出土したものを図書館の職員が保管していたものである³⁾。

縄文土器が採集されている。368は縄文時代中期中葉か後期前半の指宿式土器の特徴をもつ土器で、内外面の貝殻条痕地文に、ヘラ描きの曲線と直線とを組み合わせた文様を描く。全体のモチーフは不明であるが、残存部は凧のような文様である。367は縄文時代後期中葉の市来式土器で、三角肥厚口縁を呈し、内外面に貝殻条痕文を施し、肥厚部に貝殻刺突文を巡らす。縄文時代後期頃の土器として、365・366があり、365は三角肥厚口縁部にヘラによる深い沈線文を二条巡らすもので松山式段階のものと考えられる。366も沈線文を二条巡らせるものであるが、小破片のために詳細が不明である。

弥生時代の土器は判然としないものの、380が甕の脚になる可能性がある。

古墳時代では、中津野式～東原式段階の資料に小型鉢（358）と甕の脚（381）がある。笹貫式に相当するものに甕（369）があるが、ほぼ同時期の壺（385）と高坏（355・357）もある。型式名は判然としないものの、成川式として把握できるものに、甕（370～379・382・384）・壺（102・354・386～388）・高坏（356）・鉢（383）などがある。

3. まとめ

K・L-5・6区における古墳時代の遺構は、住居跡と溝、ピット群などが検出されているが、これらはほとんどが古墳時代後期以降の笹貫式段階に所属し、今回紹介した包含層遺物も古墳時代中後期の資料が多い。

しかしながら、古墳時代前期の東原式段階の資料も少なからず得られている。弥生時代の遺構はほとんど検出されていないが、土器が弥生時代中期前半新段階を中心に終末期まで一定量出土しており、甕がほとんどである。器種構成の偏りや遺物の少ないことから、弥生時代の活動領域の周辺部であったことが窺い知れる。表採によって縄文時代土器も後期を中心に得られているが、本来の包含層など不明な点が多い。

古代から中世にかけては、性格の明確な遺構が検出されない。遺物としては中国陶磁器の青磁碗が一定量の出土があり、東播系鉢なども出土している。土器では土師器坏なども出土している。遺構が不明であるが、包含層中より出土した鍛冶関連遺物は注目される。中世以降に鍛冶を行っていた場所が近隣にあった可能性が高い。また、古代・中世遺物が一定量出土するものの、明確な包含層が見当たらないのは、近世以降の水田造営の際に、大規模な土地変更があった可能性を示すものであろう。

近世以降近代の遺構は溝状のものが多く、また、牛足痕らしき痕跡も検出されている。19世紀の薩摩藩の絵地図⁹⁾には、鹿大構内付近を含めた西側は唐湊付近、北は上之園町、南は涙橋付近までが水田として描かれており、城下町における生産遺跡の状況を窺うことができる。それ以前については、出土遺物から考察することが可能であるが、薩摩焼、薩摩磁器、肥前磁器、中国磁器などからは、明末清初までは遡れる可能性がある。しかし圧倒的に薩摩焼の出土量が多く、18世紀後半～19世紀が中心時期になりそうである。薩摩焼は鉢・土瓶の出土量が多く、磁器類は碗が多い。水田付近でも使用できそうな器種であるが、加治木・始良系の小皿の出土も目立ち、何に用いられるのか興味深い。

近代以降では、生産地不明のものが多いが、グリーン二線硬質厚手食器のみは生産地が判明しており、美濃のものである。給食器や施設食堂食器として全国に流通したもので、1957年に法人成立化する生協食堂との関連で考えるべきものかもしれない。

注

- 1) 中村直子・新里貴之 2005『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報』19 鹿児島大学埋蔵文化財調査室
- 2) 美濃窯業株式会社 2002『美濃窯業社史—1918～2002 83年の歩み』
- 3) 図書館付近の採集土器の採集時期が混乱しており、「1965年採集（法文西棟）」というメモや、「1971年採集」というメモ書き（詳細不明）、「1980年採集」という記載など錯綜している。今回の遺物紹介のために再検討した結果、法文西棟が1980年竣工、旧中央図書館が1965年竣工ということから、図書館周辺採集品については、1965年の旧中央図書館工事段階、1980年採集品については、法文西棟工事段階における採集品として捉え直した。したがって、『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報』18（2004年）の註2）（70頁）における1971年採集という見解は訂正しておきたい。
- 4) 塩屋郁夫 2002『鹿児島城下絵図（文政・天保・安政）索引』において「鹿児島御城下明細図（文政4年）」、「鹿児島城下絵図（天保13年頃）」、「旧薩藩御城下絵図（安政6年）」が集成されている。

Ⅲ 郡元団地K・L-5・6区（中央図書館増築地C～E地点）包含層出土遺物

Tab.5 C・D地点出土遺物集計 ()内は図化した遺物数 ()外は未図化分

時期	種別	器種	C地点				D地点					IV	V								
			I・攪乱・ 表採	IV	V	VI	II		III												
							1	2	1	2	3										
縄文時代	縄文時代中期中葉 指宿式・市来式その他	深鉢																			
弥生時代中期	入来Ⅱ式	甕		(7)	(4)	1	(7)	(1)						(3)	6						
		甕																			
	黒髪式	甕か鉢			(1)	(1)	(1)							(1)	(1)						
		甕																			
	須玖式	甕																			
		高杯																			
		甕か壺																			
		甕か鉢			(1)																
	山之口式	甕			(1)		(1)														
		壺			(1)		(1)														
型式不明	甕																				
	甕か鉢													(1)							
弥生時代後期	型式不明	甕																			
弥生時代終末期	中津野式	甕か鉢																			
		甕					(3)														
		壺													(1)						
古墳時代初頭～前期	中津野式～東原式	鉢か高杯																			
		甕																			
古墳時代前期	東原式	鉢					(13)														
		小型丸底壺					(1)														
		高杯					(2)														
		高杯か埴					(1)														
古墳時代中期	辻堂原式	甕				(3)															
古墳時代後期以降	笹貫式	甕	(1)			(5)								(3)							
古墳時代	型式不明成川式	甕	(2)	(4)	3	(2)	(23)	1034	2	(1)	2	(1)	16	(2)	59	(9)	104				
		壺					(19)	72									(1)	3			
		高杯	(1)	(2)	1		(9)	102									(2)	33	(10)	30	
		鉢					(6)	5											2		
		埴			(2)		(9)	10									(1)		(2)	4	
		台付鉢																			
		甕か鉢					(6)										(1)		(2)		
		高杯か埴					178													127	
		ミニチュア・手づくね					(2)	3													
		弥生～古墳	型式不明弥生土器	甕																	
				壺																	(1)
			弥生時代～古墳時代	甕か鉢																	
不明						(1)	40	19	58	1	18	54		49	31	163					
突帯	沈線				2	1															
	三角			1	(1)		(1)	196				7			(2)	12	(1)	48			
	多条					1	(1)	(1)	2											5	
	刻目			(2)	1		(4)	222		4		1	(1)	2	(1)	17	(1)	38			
	絡縄					(1)	294		1			5		(1)	(1)	16	(2)	86			
	幅広			(2)			7					1							(1)	2	
土製品	甕																				
	土鍾									(1)											
古墳～古代	須恵器	土製品																			
		大甕・壺					(2)												(1)		
		坏					(1)														
		碗					(1)														
古代～中世	土師器	不明					22	3	3		2	2				6			5		
		坏		(2)																	
		碗									(1)									(1)	
		血									(2)										
中世	青磁	内黒土器					(1)														
		不明					(1)														
	白磁	碗					1	(3)			(3)	1									
		血・陵花血	(1)																		
	東播系	不明																			
		挟入高台血																			
	近世～近代	苗代川(17c)	鉢																		
			鉢・壺・壺																		
		苗代川(18～19c)	播鉢・深鉢・小壺・急須・鍋?・ 蓋付碗・蓋・土瓶						(3)												
			不明						(1)	2											
苗代川(19c～)		鉢・播鉢・土瓶						(1)	1												
		鉢・播鉢・土瓶	(1)					6				(1)									
近代～現代		加治木・始良系(龍門司)	苗代川(不明)						9	1											
			不明																		
		加治木・始良系(18c～)	碗・蓋																		
			不明						1												
	加治木・始良系(不明)	碗・血																			
		碗・血・小皿						(3)												1	
	石	白薩摩(堅野系)	不明					(1)													
			薩摩磁器																		
		肥前焼か薩摩磁器	碗・壺反碗						(1)	(1)	1										
			碗						(1)												
肥前磁器		碗・血・瓶						(3)													
		不明																			
瀬戸・美濃系磁器		碗																			
		琉球陶器																			
中国(明末～清代)		碗・血						(1)													
		不明						(1)													
近代～現代	陶磁器	系統不明					2												1		
		陶磁器						(7)	57	13	(1)	1									
石	その他	剥片					33	1	1	1	1	3							2		
		砥石					(1)														
		石材					(2)														
		黒曜石																	(1)?		
		軽石						2												20	
		石						33	8	9		1	4							41	
鍛冶関連	鉄滓	素焼(フイゴ片か)																			
		炉壁																			

Ⅲ 郡元団地K・L-5・6区（中央図書館増築地C～E地点）包含層出土遺物

Tab.6 E地点・採集品集計 ()内は図化した遺物数 ()外は未図分化

時期	種別	器種	E地点							1980年採集	周辺採集	地区層位不明	
			I・撓乱・表採	II		III	IV						
				a	b		a	b					
縄文時代	縄文時代中期中葉 指宿式・市来式その他	深鉢									(1)		
		深鉢									(3)		
弥生時代中期	入来Ⅱ式	甕	1					(1)5					
		壺						1					
	黒髪式	甕か鉢							(1)				
		甕											
	須玖式	壺											
		高坏							(1)				
		甕か壺							2				
		甕か鉢											
	山之口式	甕											
	型式不明	甕							(3)				
壺													
弥生時代後期	型式不明	甕か鉢						(1)					
		甕							(1)				
弥生時代終末期	中津野式	壺								(1)			
		小型鉢											
古墳時代初頭～前期	中津野式～東原式	鉢か高杯						(1)					
		甕									(1)		
古墳時代前期	東原式	小型丸底壺											
		高杯							(1)				
古墳時代中期	辻堂原式	甕											
		甕	(1)						(1)				
古墳時代後期以降	笹貫式	甕	(1)12	9	4	1	(1)20	(6)187	3	(9)22	(3)4	7	
		壺	1			(1)		(3)13		(3)2	(2)1		
		高坏	(2)6			(1)1	3	(4)29		(1)3	(2)	1	
		鉢						(2)					
		埴	2			(1)		(1)2					
		台付鉢									(1)		
		甕か鉢			(1)						(1)		
		高杯か埴										2	3
		ミニチュア・手づくね	16	1	1	6	3	16	(1)1				
		甕							(1)1				
		壺							(2)				
		弥生～古墳	型式不明弥生土器	甕									(1)
壺													
弥生時代～古墳時代	甕か鉢												
	不明		163		91	142	335	2186	85	8	42	1	
突帯	沈線		2					1	1				
	三角		1				3	(1)24			1	2	
	多条		1					(1)4	1				
	刻目		4			1	3	(2)54	3				
	絡縄					1	5	35	(1)		2		
	幅広		1					(1)3		1	(1)		
不明	3	1	5	8	7	55	1						
土製品	土鉢			(2)1				(1)					
	土製品	2							1				
古墳～古代	須恵器	大甕・甕											
		坏				(1)							
		碗											
古代～中世	土師器	不明	(1)										
		碗											
		皿											
中世	青磁	内黒土器	13	3	11	36	13	17	1				
		不明				5 (1)							
	白磁	碗	1	1	(1)								
		皿・陵花皿				(1)							
	東播系	不明	(1)										
		鉢					(1)						
	近世～近代	苗代川 (17c)	鉢				(1)						
			鉢・壺	2				(1)					
		苗代川 (18～19c)	播鉢・深鉢・小壺・急須・鍋?・				(3)5						
			蓋付碗・蓋・土瓶										
苗代川 (19c～)		不明	2			6							
		鉢・播鉢・土瓶	1								1		
苗代川 (不明)		鉢・播鉢・土瓶	1			9	2						
		不明		1	1	3	1						
近代～現代		加治木・始良系 (龍門司)	碗・蓋	4			(1)4						
			不明										
		加治木・始良系 (18c～)	碗・皿				(4)						
			碗・皿・小皿	2									
	白薩摩 (豎野系)	不明											
		薩摩磁器				(1)							
		肥前焼か薩摩磁器	2										
		碗											
		肥前磁器	(1)1			(4)3		1					
		不明	1										
瀬戸・美濃系磁器	琉球陶器												
	不明				1								
	碗・皿			(1)	(4)2								
	不明	(1)											
近代～現代	系統不明	陶磁器	2			4		2					
		陶磁器	62		6	(7)68		3					
		その他	9			9		1		5			
石	砥石	砥石				1							
		剥片				1		4					
		石材						(1)	1				
		黒曜石	1										
		軽石									2		
		石	11		1	23	2	10	2		1	5	
鍛冶関連	鉄滓	素焼 (フイゴ片か)	1		1								
		炉壁				2							

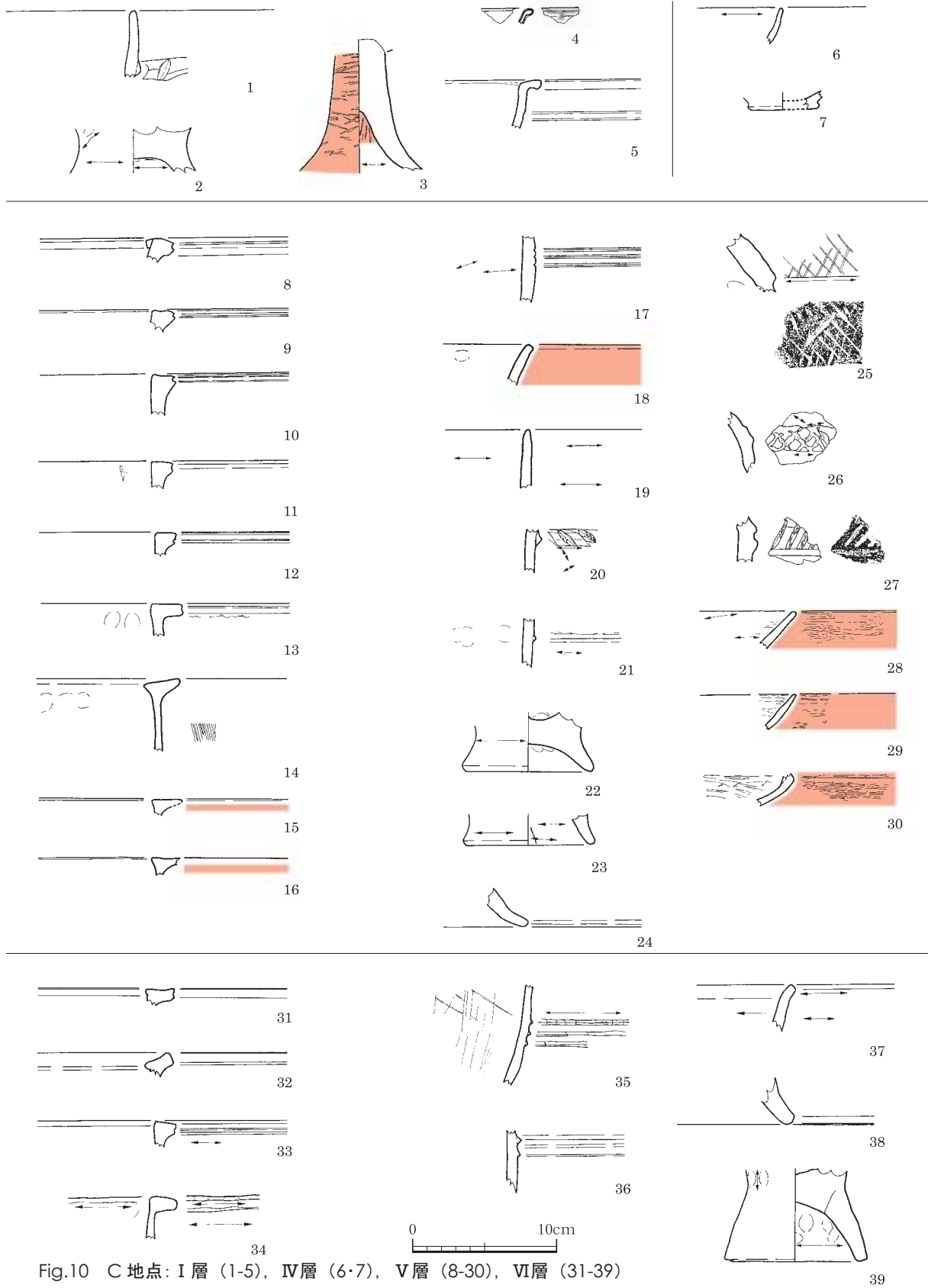


Fig.10 C地点: I層 (1-5), IV層 (6-7), V層 (8-30), VI層 (31-39)



PL.7 C地点：I層(1-5)，IV層(6・7)，V層(8-30)，VI層(31-39)

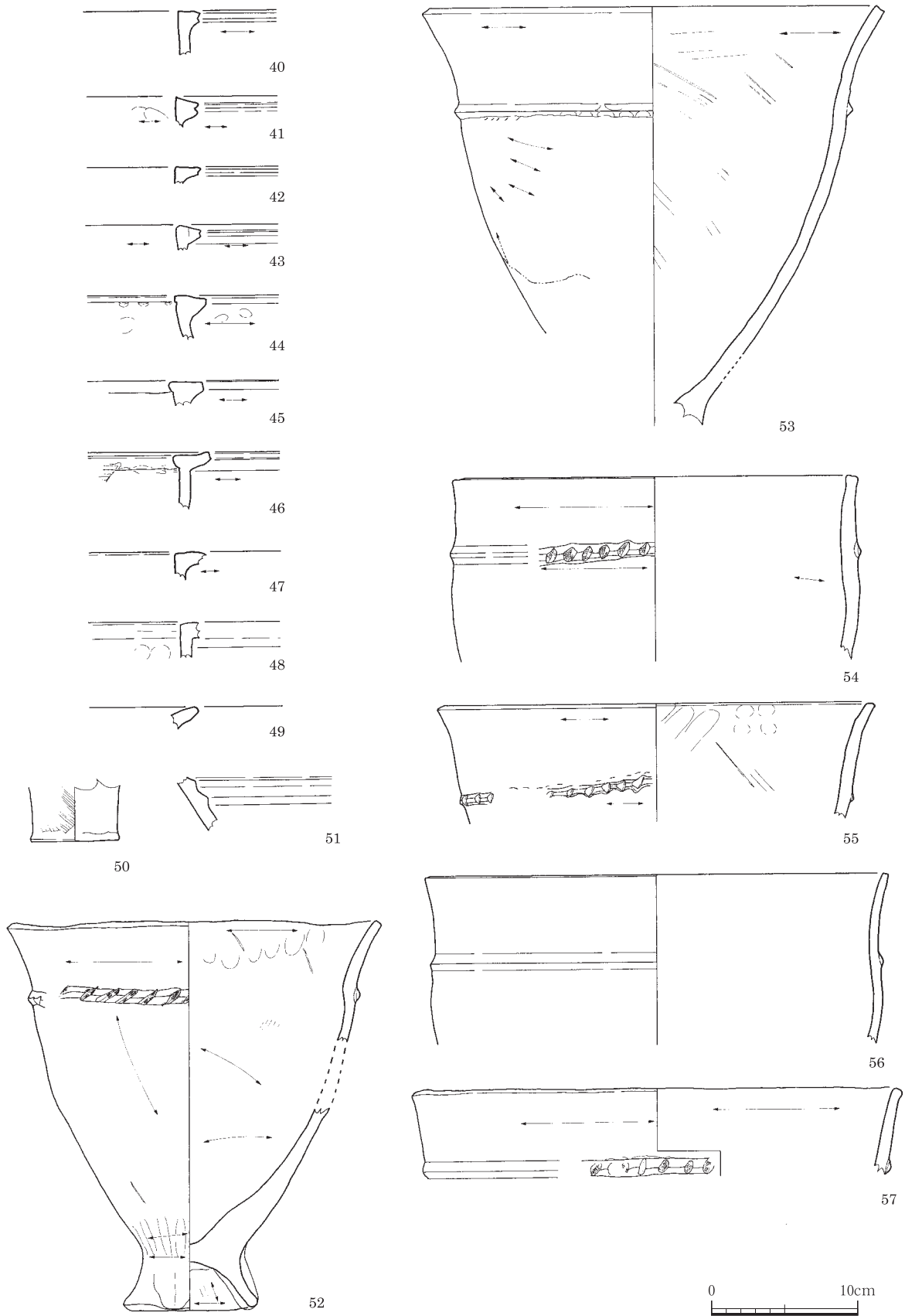


Fig.11 D地点:1層



PL.8 D地点:1層

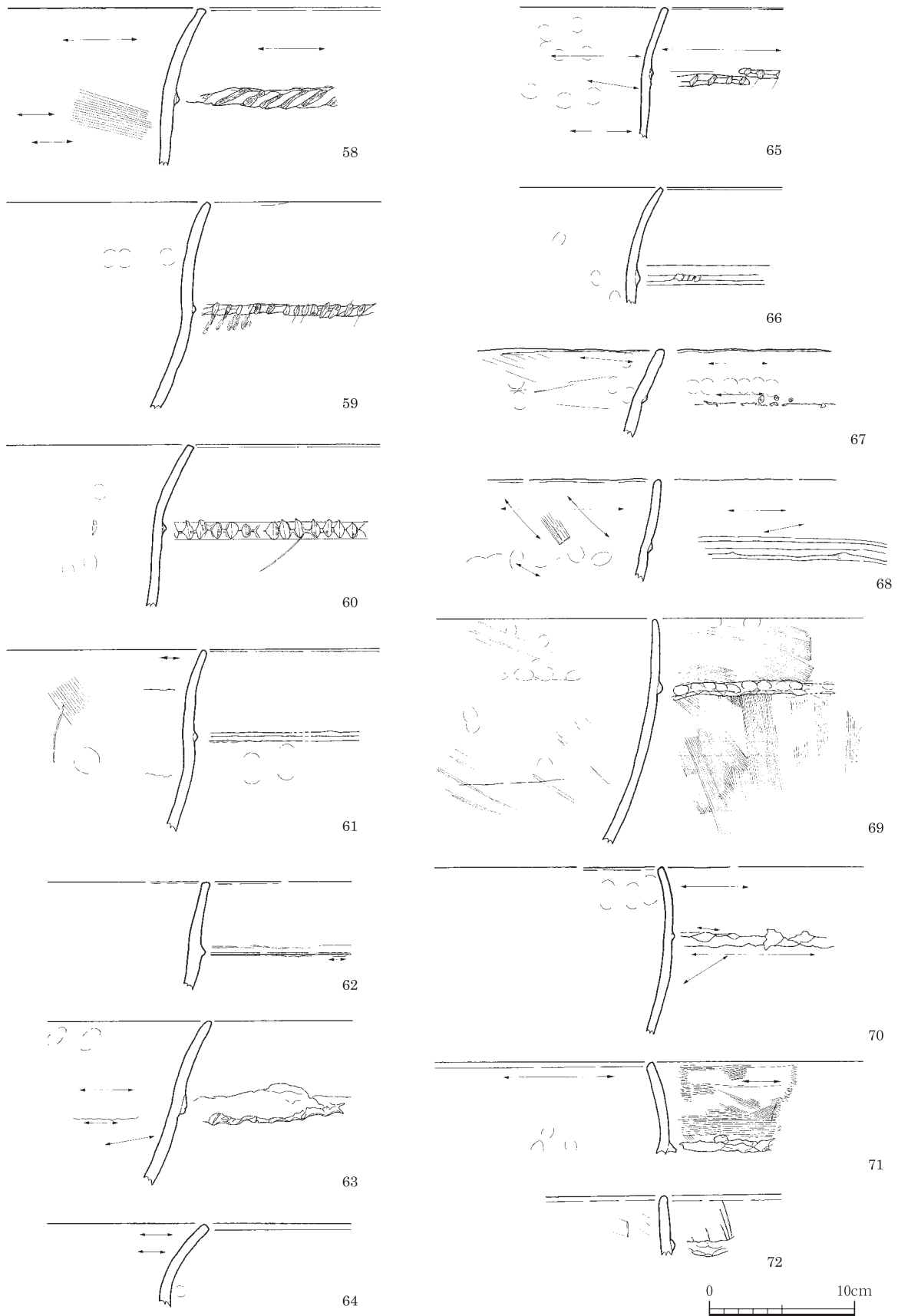


Fig.12 D地点:1層



PL.9 D地点:1層

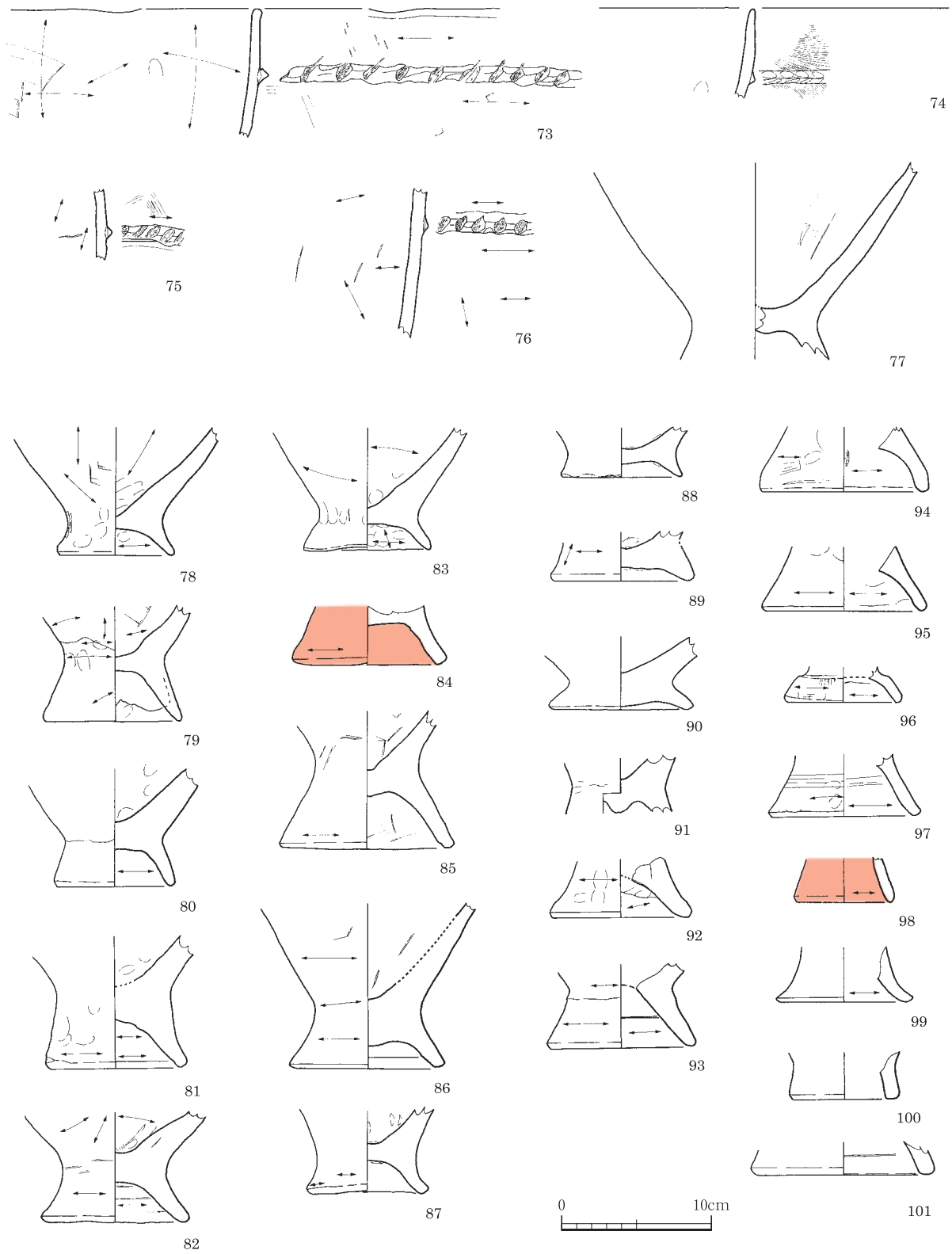


Fig.13 D地点:1層



PL.10 D地点:1層

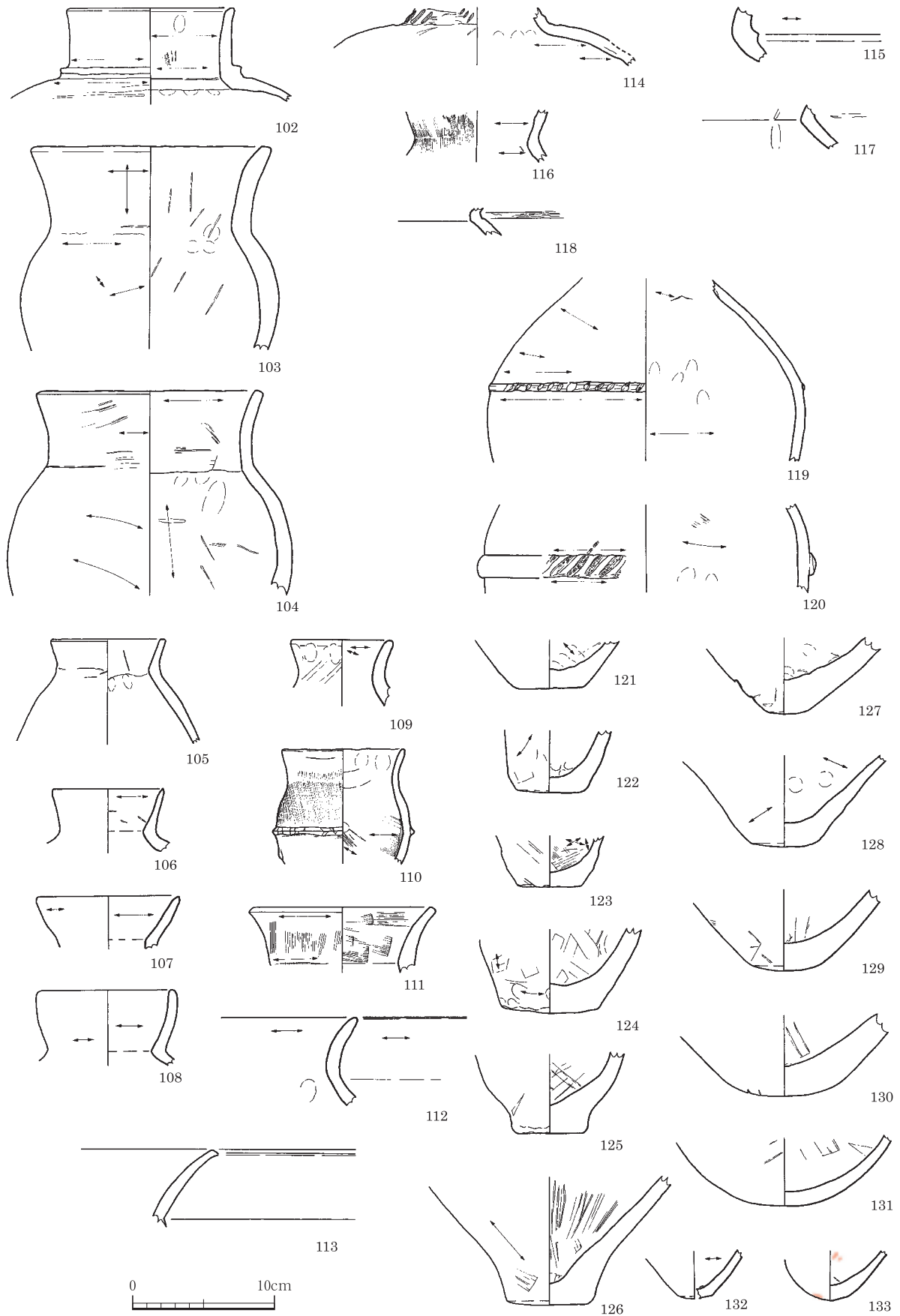
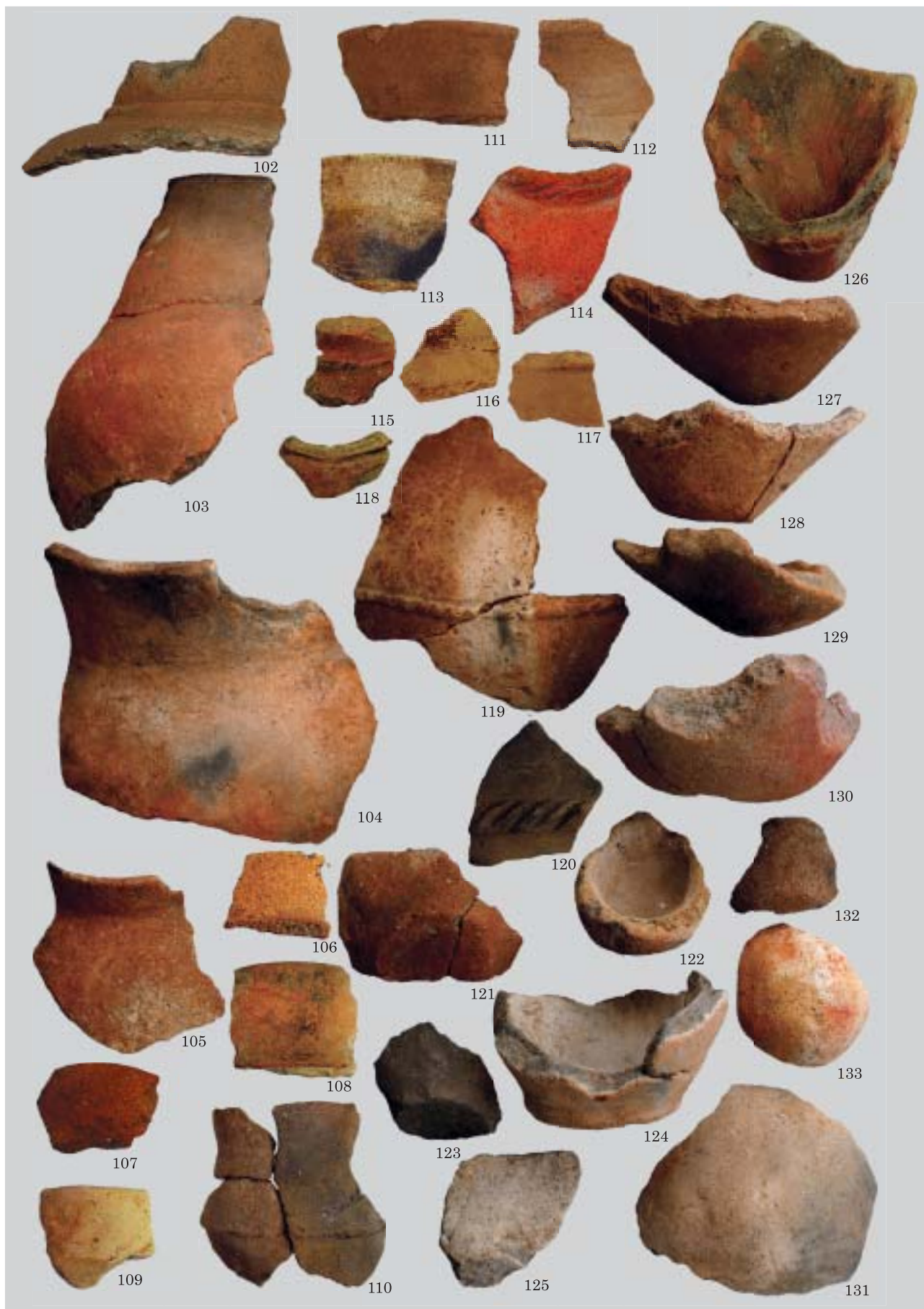


Fig.14 D地点:1層(103-133), 周辺採集(102)



PL.11 D地点:1層(103-133), 周辺採集(102)

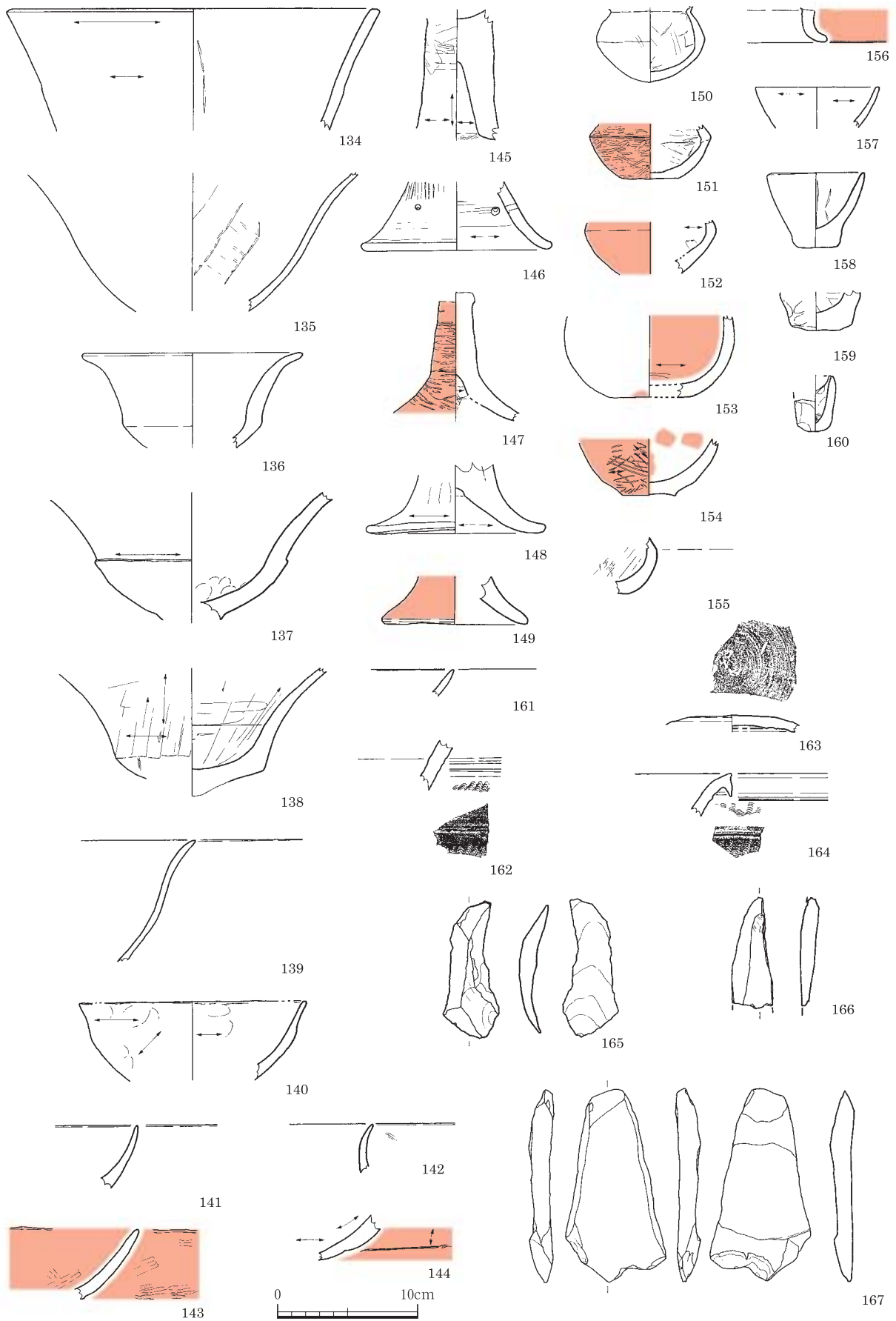


Fig.15 D地点:1層 (134-151・153-167), 5層 (152)



PL.12 D地点:1層 (134-151・153-167), 5層 (152)

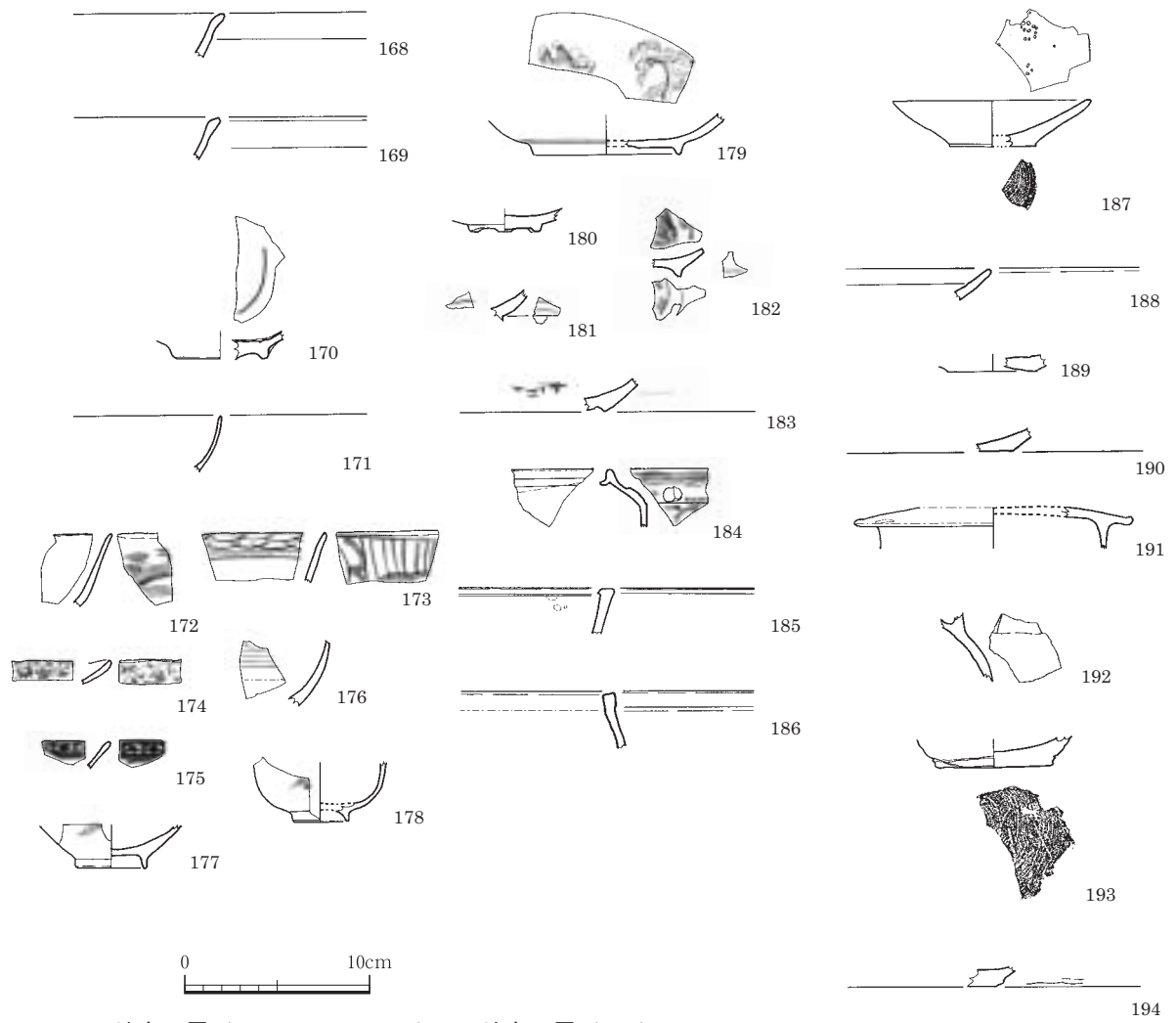


Fig.16 D地点:1層 (168-179・181-194), E地点:1層 (180)



PL.13 D地点:1層(168-179・181-194), E地点:1層(180)

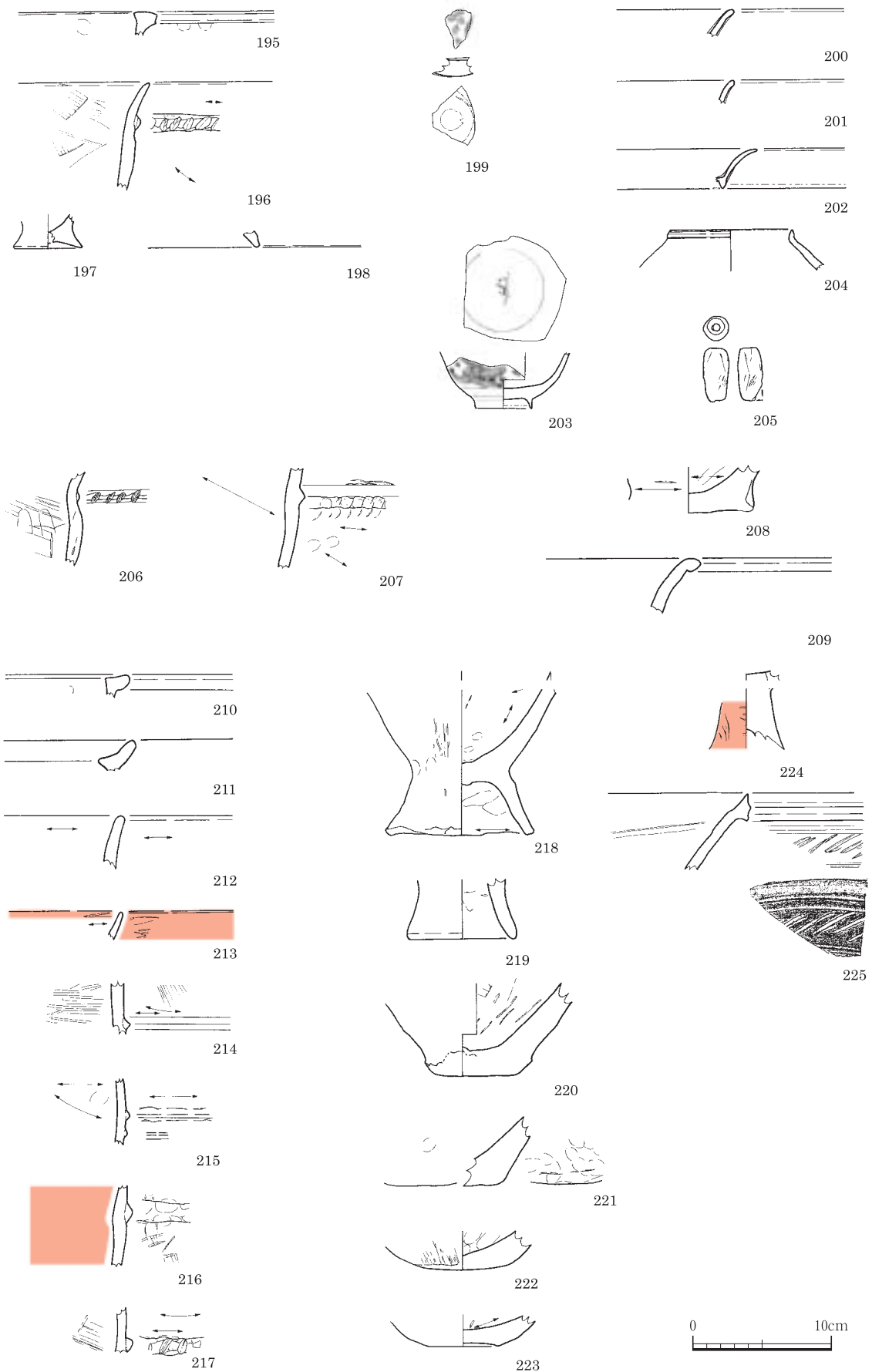


Fig.17 D地点:2層(195-205), 3層(206-209), 4層(210-225)



PL.14 D地点:2層(195-205), 3層(206-209), 4層(210-225)

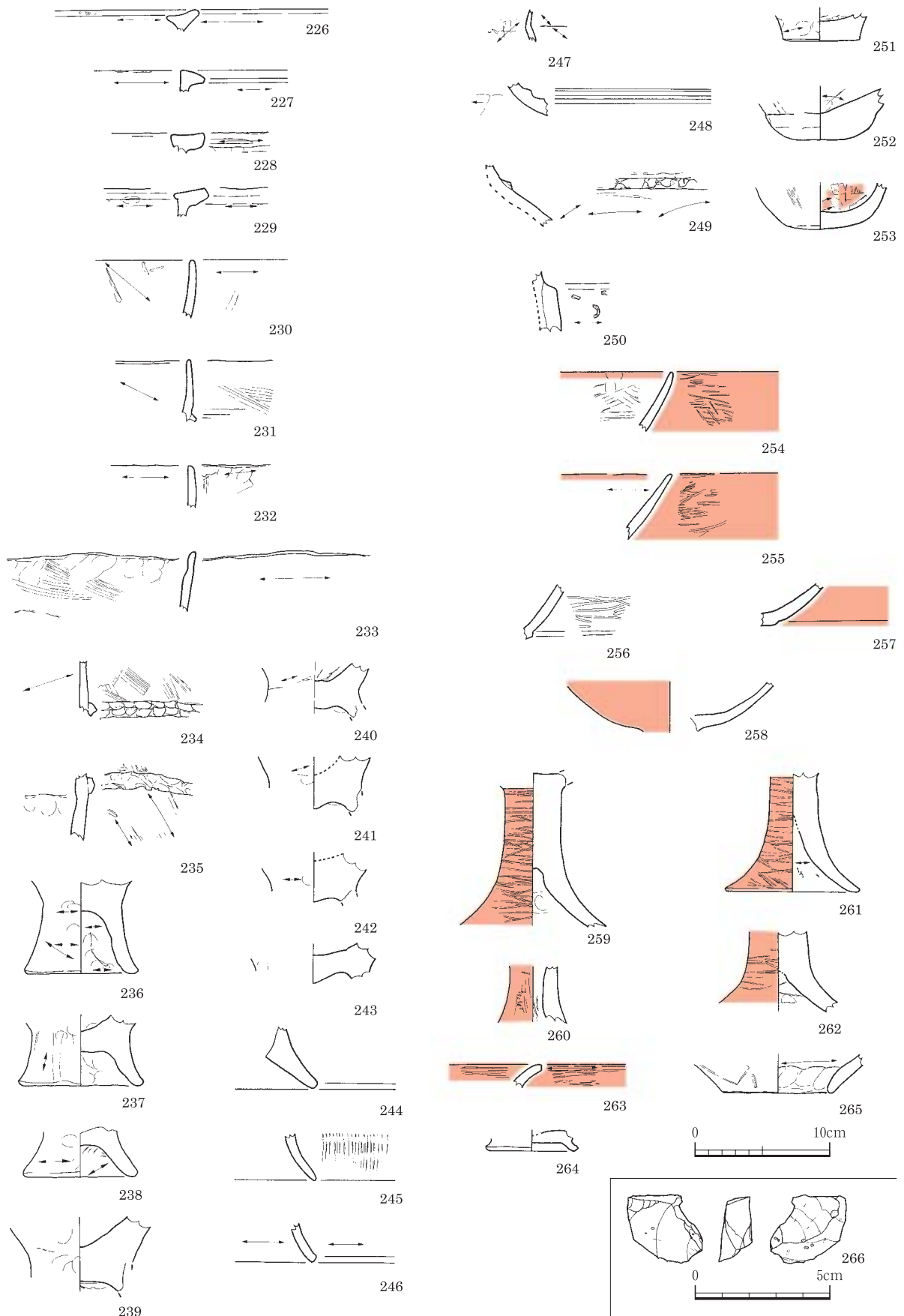


Fig.18 D地点:5層 (226-252・254-266), 1層 (253)



PL.15 D地点:5層(226-252・254-266), 1層(253)

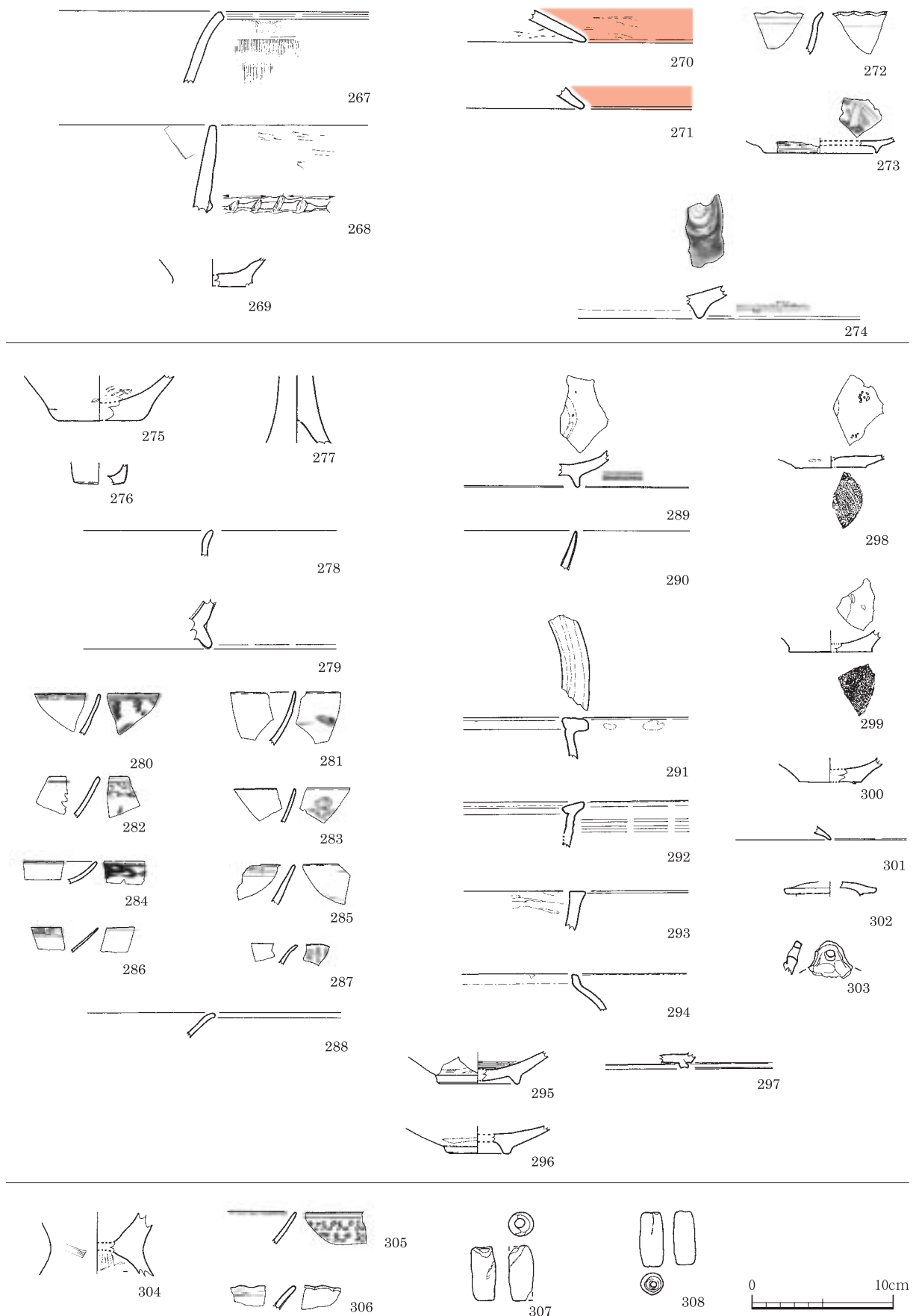


Fig.19 E地点:1層(267-274), 2層(275-303), 2b層(304-308)



PL.16 E地点:1層(267-274), 2層(275-303), 2b層(304-308)

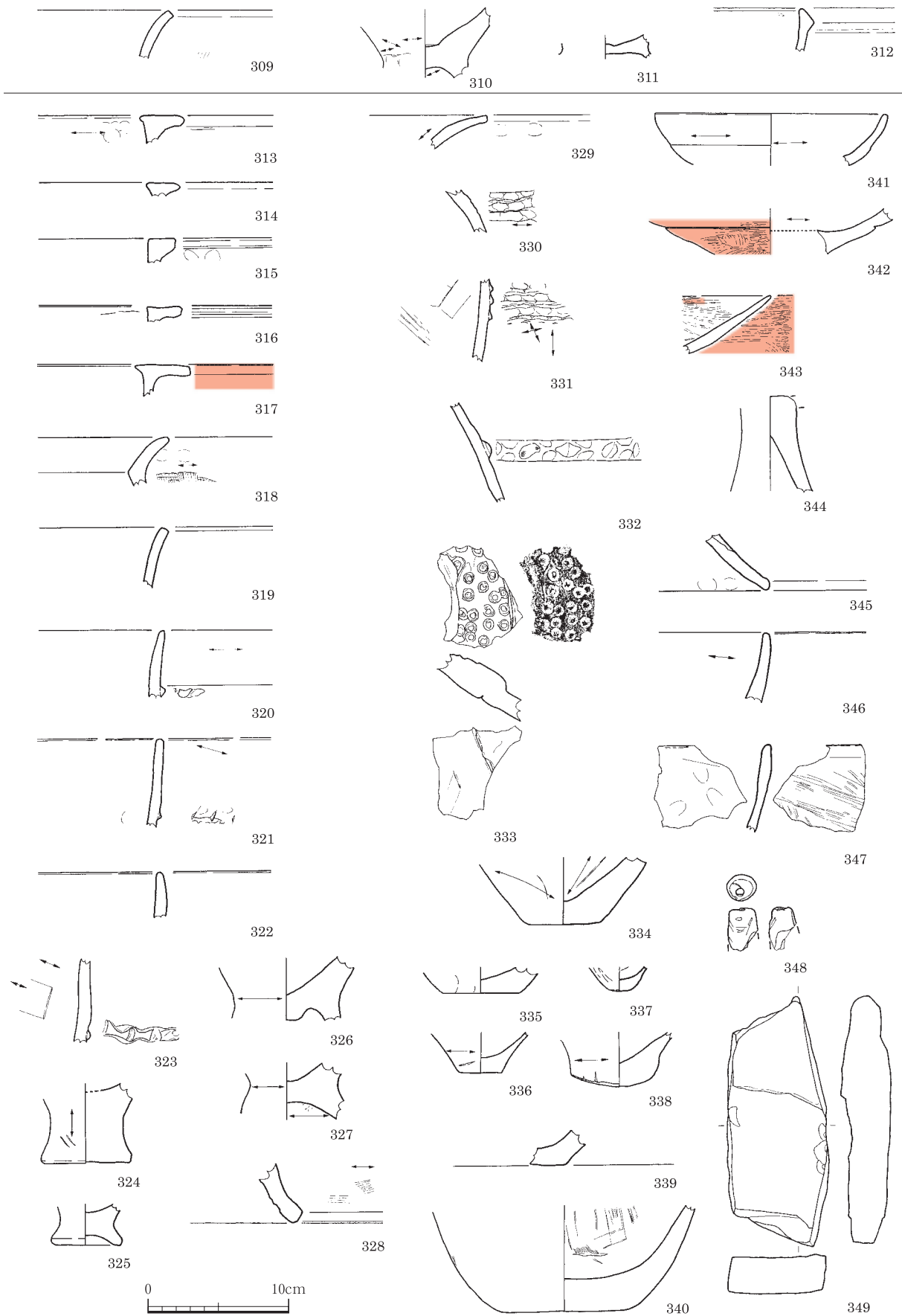


Fig.20 E地点:3層(309-312), 4a層(313-349)



PL.17 E地点:3層(309-312), 4a層(313-349)

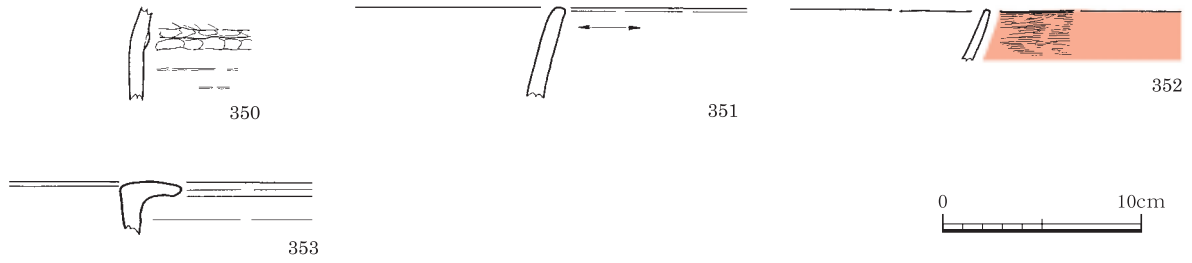


Fig.20 E地点:4a層(350-352) C地点:5層(353)

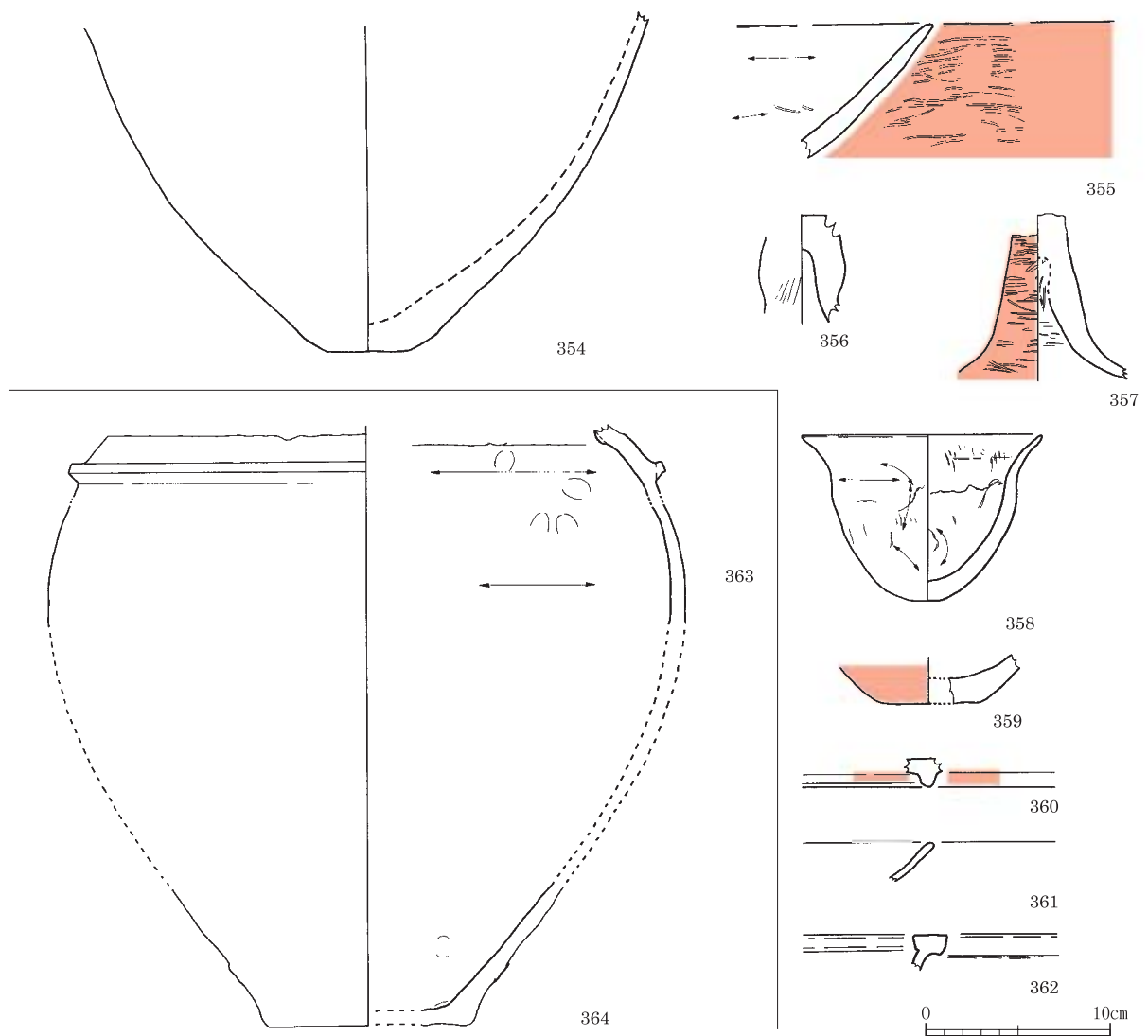
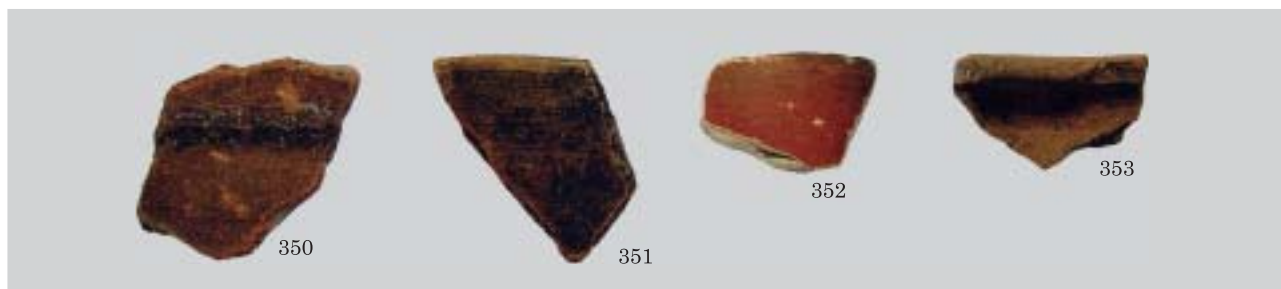


Fig.21 D地点:採集(359・362), 1層(360・362) E地点:4a層(363・364), 採集:(354-358)



PL.18 E地点:4b層(350-352) C地点:5層(353)



PL.19 D地点:採集(359・362), 1層(360・362) E地点:4a層(363・364), 採集:(354-358)

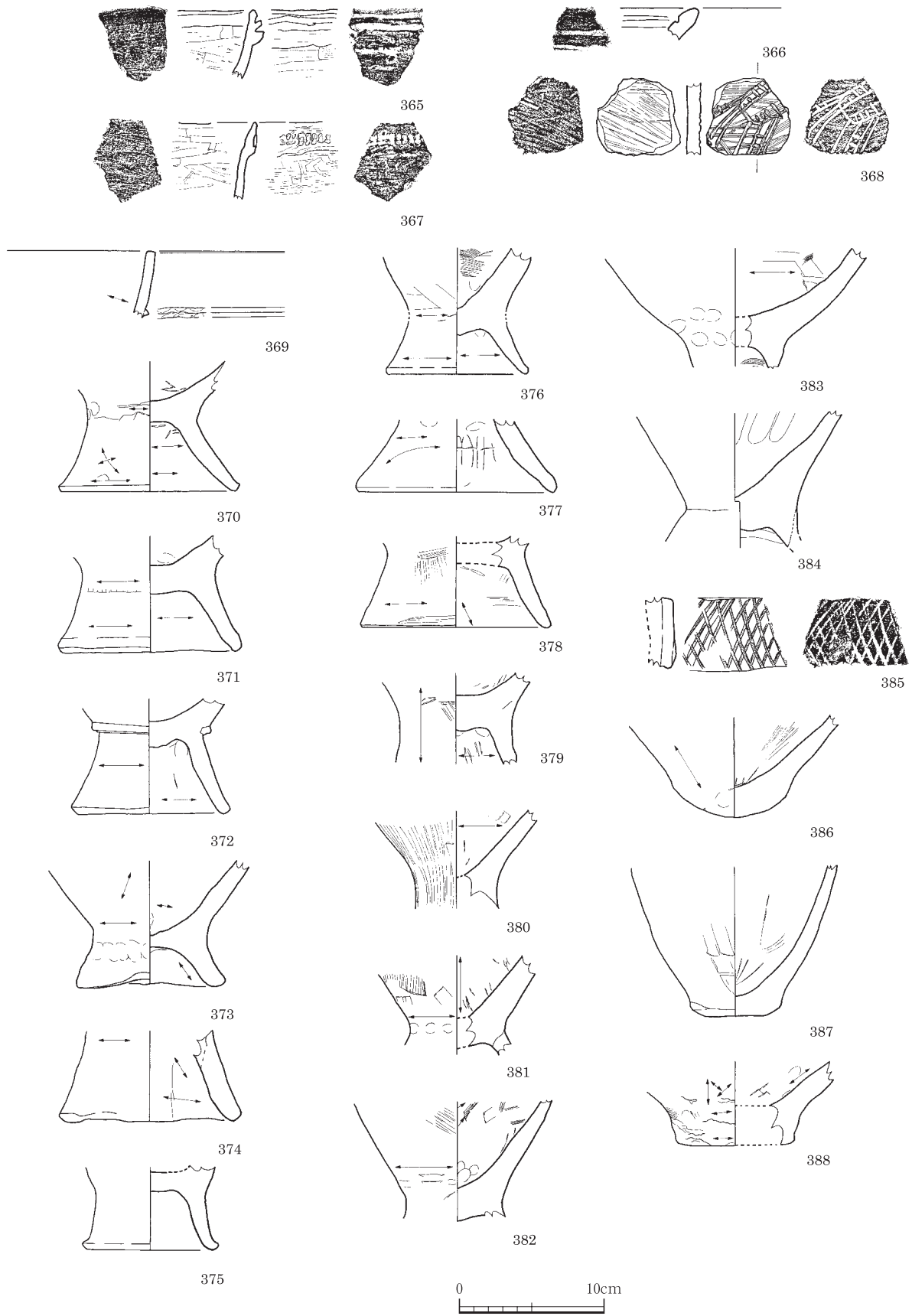


Fig.22 周辺採集 (365-368・370・377・378・384・385・388), 1980年採集 (369・371-376・379-383・386・387)



PL.20 周辺採集(365-368・370・377・378・384・385・388), 1980年採集(369・371-376・379-383・386・387)

Tab.7 遺物観察

No.	地点	層	種別	器種	部位	色調	胎土		調整	備考
							混和材	砂粒の多さ		
1	C	I	管貫式	甕	口	外面：橙 5YR7/6, 内面：橙 5YR7/6, 器肉：浅黄橙 7.5YR8/4	礫：白色粒，灰色粒，粗砂： 石英，角閃石，白色粒，灰色 粒，砂：石英，角閃石，白色粒， 灰色粒，細砂：白色粒，黑色 粒，透明粒	5	摩滅のため不明	刻目突帯1条
2	C	表土	成川式	甕	脚	外面：にぶい黄橙 10YR7/3, 内面：黄灰 2.5Y5/1, 器肉：橙 2.5YR7/6	礫：石英，白色粒，赤色粒， 灰色粒，粗砂：石英，角閃石， 白色粒，黑色粒，砂：石英， 角閃石，白色粒，赤色粒，細 砂：白色粒，黑色粒，透明粒	3	外面：ナデ（一）（ノ），ユ ビオサエ，内面：ナデ（一）	脚台内面：接合痕あり？
3	C	周辺 表探	成川式新	高杯	脚	外面：明赤褐 2.5YR5/6, 内面：浅黄橙 7.5YR8/4, 器肉：にぶい橙 7.5YR7/4	礫：白色粒，粗砂：白色粒，砂： 白色粒，黑色粒，細砂：白色 粒，黑色粒，透明粒	2	外面：ミガキ（一）（ノ）（ハ）， 内面：ナデ（一）	外面：赤色顔料塗布
4	C	I	青磁	皿	口	釉：灰白 10Y7/2 類似， 素地：灰白 5Y8/1 類似			全面施釉	中世，外面：ヘラ書きの文 様（連弁文？）あり，内外面： 貫入あり
5	C	I	陶器	鉢？	口	釉：暗灰黄 2.5Y5/2 類似， 素地：赤褐 2.5YR4/6	砂：白色粒，細砂：黒色粒		内外面施釉，但し，口唇部 内面はかき取られている	苗代川
6	C	IV	土師器	坏か碗	口	外面：灰白 Hue2.5Y7/1, 内面：灰黄 Hue2.5Y7/2, 器肉：浅黄 Hue2.5Y7/3	砂：黒色粒，細砂：黒色粒		1 外面：摩滅のため不明，内 面：回転ナデ	
7	C	IV	土師器	杯	底	外面：橙 Hue7.5YR7/6，内面： 橙 Hue7.5YR7/6，	砂：赤色粒，細砂：黒色粒		1 外面：回転ナデ，内面：摩 滅のため不明瞭	底径 (5.1) cm
8	C	V	入来Ⅱ式	甕	口	外面：にぶい黄褐 10YR5/3， にぶい橙 7.5YR6/4， 内面：灰黄褐 10YR5/2， 器肉：にぶい黄橙 10YR7/4	礫：白色粒，赤色粒，粗砂： 白色粒，黒色粒，透明粒，赤 色粒，砂：白色粒，黒色粒， 透明粒，赤色粒，細砂：白色 粒，黒色粒，透明粒	3	回転ナデ（一）	口唇部が内面に6mm位かぶ る，垂れた口唇部は厚みがあ る
9	C	V	入来Ⅱ式	甕	口	外面：にぶい橙 7.5YR7/4， 内面：にぶい黄橙 10YR6/3， 器肉：黄灰 2.5Y5/1	礫：白色粒，粗砂：白色粒，砂： 白色粒，黒色粒，細砂：白色 粒，黒色粒，透明粒	3	回転ナデ（一）	
10	C	V	入来Ⅱ式	甕	口	外面：暗灰黄 2.5Y4/2， 内面：にぶい橙 7.5YR6/4， 器肉：黄灰 2.5Y5/1	粗砂：白色粒，透明粒，砂： 白色粒，黒色粒，透明粒，赤 色粒，細砂：白色粒，黒色粒， 透明粒	3	回転ナデ（一）	
11	C	V	入来Ⅱ式	甕	口	外面：橙 5YR7/6， 内面：橙 5YR6/6， 器肉：黄灰 2.5Y6/1	礫：赤色粒，粗砂：白色粒， 透明粒，赤色粒，砂：白色粒， 黒色粒，透明粒，赤色粒，細 砂：白色粒，黒色粒，透明粒， 赤色粒	2	外面：ヨコナデ（一），内 面ヨコナデ（一），ハケ始 点（ハ），ハケ	外面口縁部の下端部がかけ ている
12	C	V	入来Ⅱ式	甕	口	外面：にぶい褐 7.5YR5/4， 内面：橙 7.5YR6/6， 器肉：灰黄褐 10YR6/2	礫：薄茶色礫，粗砂：角閃石， 白色粒，透明粒，赤色粒，砂： 白色粒，黒色粒，透明粒，赤 色粒，細砂：白色粒，黒色粒， 透明粒，赤色粒	3	ヨコ方向ナデ（一）	
13	C	V	入来Ⅱ式	甕	口	外面：にぶい褐 7.5YR5/4， 内面：にぶい赤褐 5YR5/4， 器肉：にぶい橙 7.5YR6/4	礫：赤色粒，粗砂：石英，白 色粒，黒色粒，赤色粒，砂： 石英，角閃石，細砂：黒色粒， 透明粒		外面：引っかきキズ，内面： ヨコナデ	
14	C	V・VI	黒髪式	甕	口	外面：にぶい黄橙類似 10YR7/3， 内面：浅黄橙 10YR8/3， 器肉：にぶい黄橙 10YR7/2	砂：白色粒，黒色粒，赤色粒， 細砂：白色粒，黒色粒，透明 粒，赤色粒	1	外面：ハケ（ハ），回転ナ デ（一），内面：ユビオサエ， 回転ナデ（一）	
15	C	V	須玖式	甕か鉢	口	外面：橙 5YR6/6，にぶい橙 7.5YR7/4， 内面：浅黄橙 10YR8/4， 器肉：灰白 10YR8/2	粗砂：角閃石，赤色粒，砂： 白色粒，黒色粒，赤色粒，細 砂：白色粒，黒色粒，赤色粒	3	外面ヨコナデ（一），内面： 摩滅のため不明	
16	C	V	黒髪式？	甕	口	外面：橙 5YR6/6，にぶい黄 橙 10YR7/4，内面：浅黄橙 10YR8/3，橙 5YR6/6， 器肉：浅黄橙 10YR8/3	粗砂：白色粒，砂：白色粒， 黒色粒，透明粒，細砂：白色 粒，黒色粒，透明粒，赤色粒	3	ヨコナデ（一）	外面・上面に赤色顔料付着
17	C	V	入来Ⅱ 式？	甕	胴	外面：にぶい黄褐 10YR5/3， 内面：にぶい褐 7.5YR5/4， 器肉：にぶい褐 7.5YR5/4	粗砂：白色粒，砂：白色粒， 黒色粒，赤色粒，細砂：白色 粒，黒色粒	3	外面：ナデ（方向不明）， 内面：ナデ（一）（ノ）	外面：3条の沈線
18	C	V	成川式	甕	口	外面：橙 5YR7/8，にぶい黄 橙 10YR7/3，暗灰 N3/0，内 面：橙 5YR7/6	粗砂：白色粒，砂：白色粒， 黒色粒，赤色粒，細砂：白色 粒，黒色粒，赤色粒	2	外面：ヨコナデ（一），内面： ヨコ方向ナデ（一），ヨコ ナデ（一），ユビオサエ	外面口縁部直下から全体的 にスス付着，外面・口縁部 上面：赤色顔料塗布
19	C	V	成川式	甕	口	外面：にぶい黄褐 Hue10YR4/3， 内面：橙 Hue5YR7/6， 器肉：にぶい黄褐 Hue10YR7/3	砂：白色粒，黒色粒，細砂： 透明粒	1	ナデ（一）	傾き不明
20	C	V	成川式	甕	突帯	外面：灰黄褐 10YR6/2， 内面：にぶい黄褐 10YR5/3， 器肉：にぶい黄褐 10YR6/3	礫：赤色粒，粗砂：白色粒， 透明粒，赤色粒，砂：白色粒， 透明粒，細砂：透明粒	2	外面：ナデ（ハ）（ノ）（一）， 内面：ハケ（ノ），ユビオ サエ	刻目突帯1条を施す， 刻目にハケ目痕が残る
21	C	V	成川式	甕	突帯	外面：灰黄褐 10YR5/3， 内面：にぶい黄橙 10YR6/3， 器肉：黄灰 2.5YR6/1	礫：赤色粒，粗砂：白色粒，砂： 白色粒，細砂：白色粒，黒色 粒	2	外面：ヨコナデ（一），内面： ユビオサエ	外面：1条（三角）突帯
22	C	V	成川式	甕	脚	外面：橙 Hue5YR6/6， 内面：にぶい橙 Hue5YR6/4， 脚台内部：橙 Hue2.5YR7/8， 器肉：橙 Hue2.5YR6/8	粗砂：白色粒，黒色粒，砂： 白色粒，黒色粒，透明粒，細 砂：白色粒，黒色粒，透明粒	4	外面：ナデ（一），内面： ユビオサエ，ナデ（ハ）， 脚台内部：ユビオサエ，ナ デ（一）	底径：(9.4) cm

III 郡元団地K・L-5・6区(中央図書館増築地C～E地点) 包含層出土遺物

Tab.8 遺物観察

No.	地点	層	種別	器種	部位	色調	胎土		調整	備考
							混和材	砂粒の多さ		
23	C	V	成川式	甕	脚	外面：にぶい黄橙 10YR7/3, 内面：にぶい黄褐 10YR5/4, 器肉：にぶい黄橙 10YR6/4	礫：白色粒, 粗砂：白色粒, 黑色粒, 砂：白色粒, 黑色粒, 細砂：白色粒, 黑色粒	1	外面：ナデ(一), ユビオサエ, 内面：ナデ(一)	底径：(9.4) cm
24	C	V	成川式?	高杯?	脚	内外面・器肉：灰白 7.5Y8/1 (鉄分付着のため)	粗砂：白色粒, 砂：黑色粒, 透明粒, 細砂：白色粒, 黑色粒, 透明粒	2	摩滅のため不明	
25	C	V	成川式新	壺	突帯	外面：にぶい橙 Hue7.5YR7/3, 内面：にぶい黄橙 Hue10YR7/3, 器肉：黄灰 Hue2.5Y6/1	粗砂：白色粒, 砂：白色粒, 黑色粒, 透明粒, 細砂：白色粒, 黑色粒	4	内面：ユビオサエ	外面：幅広突帯, ヘラがき斜め格子文を施す
26	C	V	成川式新	壺	突帯	外面：淡黄 2.5Y8/3, 内面：淡黄 2.5Y8/3, 器肉：淡黄 2.5Y8/3, 黄灰 2.5Y6/1	粗砂：黑色粒, 砂：黑色粒, 細砂：白色粒, 黑色粒, 透明粒	1	外面：ナデ(一)(\), 内面：摩滅のため不明	幅広突帯1条, ヘラがき斜めの格子文を施す
27	C	V	成川式新	壺	突帯	外面：にぶい黄褐 10YR5/3, 内面：明赤褐 5YR5/6, 器肉：にぶい橙 7.5YR6/4,	礫：白色粒, 赤色粒, 粗砂：白色粒, 砂：白色粒, 黑色粒, 細砂：白色粒, 黑色粒	3	外面：ヨコナデ(一) ヨコ方向ナデ(一), 内面：磨滅が激しい	傾き不明, 刻目突帯一条を施す, 刻目に布目痕が残る
28	C	V	成川式新	高杯	口	外面：明赤褐 5YR5/6, 内面：にぶい黄橙 10YR6/6, 器肉：浅黄橙 10YR8/3, 灰 N6/	粗砂：石英, 砂：石英, 角閃石, 白色粒, 細砂：石英, 白色粒, 黑色粒	2	外面：ヨコ方向ミガキ, 内面：ナナム方向ハケのちヨコ方向ナデ	外面：赤色顔料塗布, 磨滅が激しい, 内面：黒斑あり, 赤色顔料がはがれている
29	C	V	成川式新	罎	口	外面：明赤褐 2.5YR5/6, 内面：明赤褐 2.5YR5/6, 器肉：にぶい黄橙 10YR7/4	砂：石英, 白色粒, 灰色粒, 細砂：石英, 白色粒, 黑色粒	2	ヨコ方向ミガキ	外面：赤色顔料塗布
30	C	V	成川式新	罎	胴	外面：赤褐 5YR4/8, 内面：明黄褐 10YR6/6, 器肉：橙 7.5YR6/6	粗砂：白色粒, 砂：白色粒, 細砂：石英, 白色粒, 黑色粒	2	外面：ヨコ方向ミガキ, 内面：板(棒)状工具によるナデ, 上の方はヨコナデ	外面：赤色顔料塗布
31	C	VI	入来Ⅱ式	甕	口	外面：灰黄褐 10YR4/2, 内面：黒褐 10YR3/2, 器肉：褐灰 10YR6/1	砂：白色粒, 黑色粒, 細砂：白色粒, 黑色粒	1	ヨコナデ(一)	黒髪式との折衷型
32	C	VI	入来Ⅱ式?	甕	口	外面：橙 5YR6/6, 内面：褐 7.5YR4/4, 器肉：明褐 7.5YR5/6	粗砂：角閃石, 赤色粒, 砂：角閃石, 白色粒, 細砂：白色粒, 黑色粒, 透明粒	2	ヨコナデ(一)	黒髪式との折衷型
33	C	VI	入来Ⅱ式	甕	口	外面：にぶい褐 7.5YR5/3, 内面：にぶい褐 7.5YR5/4, 器肉：にぶい褐 7.5YR5/4	礫：赤色粒, 灰色粒, 粗砂：石英, 白色粒, 黑色粒, 砂：石英, 白色粒, 赤色粒, 細砂：白色粒		ヨコナデ	
34	C	VI	入来Ⅱ式	甕	口	外面：灰黄褐 10YR5/2 類似, 内面：灰白 10YR8/2, 器肉：褐灰 10YR5/1 類似	砂：角閃石, 細砂：黑色粒, 透明粒		外面：ユビオサエ, ヨコナデ, 内面：ヨコナデ	
35	C	VI	弥生	突帯	突帯	外面：にぶい褐 Hue7.5YR5/3, にぶい黄橙 Hue10YR7/2, 内面：にぶい黄橙 Hue10YR7/2, にぶい黄橙 Hue10YR6/3, 器肉：褐 Hue10YR5/1, 橙 Hue5YR7/6, にぶい橙 Hue7.5YR7/4	砂：黑色粒, 透明粒, 細砂：黑色粒, 透明粒	2	外面：ナデ(一), 内面：ハケ→ナデ	上下不明, 絡縄突帯3条, 内面：指紋あり
36	C	VI	弥生?	突帯	突帯	外面：橙 5YR6/6, 内面：にぶい褐 7.5YR5/4 類似, 器肉：橙 5YR6/6 類似	粗砂：石英, 砂：石英, 角閃石, 細砂：黑色粒, 透明粒		ヨコナデ	外面：2 + α条
37	C	VI	弥生～古墳	甕?	口	外面：にぶい黄橙 10YR7/2 類似, 内面：灰白 10YR8/2 類似, 器肉：黒 5Y2/1	粗砂：石英, 角閃石, 砂：石英, 角閃石, 細砂：黑色粒, 透明粒		ナデ(⇔)	
38	C	VI	成川式	甕	脚	外面：浅黄 2.5Y7/3, 内面：にぶい橙 7.5YR6/4, 器肉：橙 5YR6/6	礫：白色粒, 粗砂：透明粒, 砂：透明粒, 細砂：白色粒, 黑色粒, 透明粒	2	外面：回転ナデ(一), 内面：回転ナデ(一), スス付着	
39	C	VI	成川式	甕	脚	外面：浅黄橙 Hue10YR8/3, 内面：にぶい黄橙 Hue10YR7/3, 器肉：橙 Hue2.5YR7/6, 褐灰 Hue7.5YR4/1, 脚台内面：浅黄橙 Hue10YR8/3, 浅黄橙 Hue7.5YR8/4	粗砂：白色粒, 黑色粒, 透明粒, 砂：白色粒, 黑色粒, 透明粒, 赤色粒, 細砂：白色粒, 黑色粒, 透明粒	3	外面：ユビナデ() 胴部を接合するため指で撫で付けている, 内面：ナデ(一), 脚台内面：ユビオサエ, ナデ(一)	底径：(10.2) cm, 胴部への接合痕あり
40	D	攪乱	入来Ⅱ式	甕	口	外面：にぶい橙 7.5YR6/4, 内面：にぶい褐 7.5YR5/4, 口縁部外面：にぶい橙 7.5YR6/4	礫：角閃石, 赤色粒, 粗砂：黑色粒, 砂：黑色粒, 赤色粒, 細砂：黑色粒, 透明粒	3	外面：ナデ(一), 内面：摩滅のため不明	
41	D	攪乱	入来Ⅱ式	甕	口	外面：橙 2.5YR6/6, 内面：にぶい黄橙 10YR7/3, 器肉：黄灰 2.5Y6/1	粗砂：白色粒, 黑色粒, 透明粒, 砂：白色粒, 黑色粒, 細砂：白色粒, 黑色粒, 透明粒	2	外面：ナデ(一), 内面：ヘラ工具によるナデ, ナデ(一)	
42	D	攪乱	入来Ⅱ式	甕	口	外面：にぶい橙 7.5YR6/4, 内面：にぶい褐 7.5YR6/3, 器肉：灰白 7.5YR8/2	礫：灰色粒, 粗砂：白色粒, 黑色粒, 赤色粒, 砂：白色粒, 黑色粒, 細砂：白色粒, 黑色粒, 透明粒	2	特になし	
43	D	攪乱	入来Ⅱ式	甕	口	外面：灰白 10YR8/2, 内面：にぶい黄橙 10YR6/3, 器肉：にぶい黄橙 10YR6/3	礫：赤色粒, 粗砂：角閃石, 白色粒, 赤色粒, 砂：角閃石, 赤色粒, 細砂：黑色粒, 透明粒	3	ナデ(一)	傾き不明
44	D	攪乱	入来Ⅱ式	甕	口	外面：灰黄褐 10YR6/2, 内面：にぶい黄橙 10YR7/3, 口縁部上面：にぶい黄橙 10YR7/3	礫：白色粒, 粗砂：角閃石, 白色粒, 砂：白色粒, 黑色粒, 細砂：白色粒, 黑色粒, 透明粒, 赤色粒	3	外面：ナデ(⇔), 内面：ユビオサエ	
45	D	攪乱	入来Ⅱ式	甕	口	外面：橙 7.5YR6/8, 内面：明黄褐 10YR6/6, 器肉：にぶい橙 7.5YR6/4	礫：白色粒, 黑色粒, 粗砂：白色粒, 黑色粒, 砂：白色粒, 黑色粒, 細砂：白色粒, 黑色粒, 透明粒	3	外面：ナデ(一), ユビオサエ	

III 郡元団地K・L-5・6区（中央図書館増築地C～E地点）包含層出土遺物

Tab.9 遺物観察

No.	地点	層	種別	器種	部位	色調	胎土		調整	備考
							混和材	砂粒の多さ		
46	D	攪乱	山ノ口I式?	甕	口	外面：にぶい橙 7.5YR6/4, 内面：にぶい褐 7.5YR5/4, 器肉：褐灰 7.5YR6/1	粗砂：白色粒, 砂：黒色粒, 細砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒	2	外面：ヨコナデ(一), ナデ(⇔), 内面：ヘラによる押し引き	
47	D	攪乱	弥生	甕	口	外面：にぶい褐 7.5YR5/4, 内面：灰白 10YR8/2, 橙 2.5YR6/6, にぶい橙 7.5YR6/4, 器肉：橙 5YR6/6	粗砂：角閃石, 白色粒, 黒色粒, 透明粒, 砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒, 細砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒	2	外面：ヨコナデ(一), 内面：ナデ(一)	
48	D	攪乱	弥生	甕?鉢	口	外面：にぶい黄橙 10YR6/3類似, 内面：にぶい黄橙 10YR7/2類似, 器肉：灰白 10YR8/2	粗砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒, 赤色粒, 砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒, 赤色粒, 細砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒, 赤色粒	4	外面：ハケ, 内面：ハケ(一)	
49	D	1	弥生	甕	口	外面：灰白 10YR8/2, 内面：灰白 10YR8/2, 器肉：灰白 10YR8/2	粗砂：赤色粒, 砂：黒色粒, 透明粒, 細砂：黒色粒, 透明粒	2	外面：ヨコナデ(一)	
50	D	攪乱	弥生中期	甕	底	外面：にぶい橙 5YR6/6, 内面：にぶい橙 5YR6/4, 器肉：にぶい橙 5YR6/6	礫：白色粒, 粗砂：角閃石, 白色粒, 砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒, 細砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒	3	外面：ハケ(＼), 底面：ハケ(＼)	底径：(6.3) cm, 接合痕あり
51	D	攪乱	弥生	壺	突帯	外面：橙 5YR6/6, 内面：褐 7.5YR4/6, 器肉：明赤褐 5YR5/6	粗砂：白色粒, 黒色粒, 砂：白色粒, 黒色粒, 赤色粒, 細砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒	2	外面：ナデ, 内面：磨滅のため不明	多条突帯
52	D	攪乱	東原式	甕	ほぼ完形	外面：浅黄橙 7.5 YR 8/4 類似, 内面：橙 7.5 YR 7/6 類似, 器肉：灰白 10 YR 8/2	礫：石英, 白色粒, 灰色粒, 粗砂：石英, 角閃石, 白色粒, 砂：石英, 角閃石, 白色粒, 細砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒	5	外面：ハケ(＼)(), ナデ(＼)(一), 内面：ハケ(＼), ナデ(一)(＼)	刻目突帯1条(布目圧痕あり), 口径：(27) cm, 器高 27.4 cm, 底径：(9.4) cm
53	D	攪乱	東原式	甕	口～胴	外面：赤橙 Hue10YR6/8, 橙 Hue2.5YR7/6, 橙 Hue2.5YR6/8, 内面：赤褐 Hue2.5YR4/6, 橙 Hue5YR7/6, 器肉：明赤褐 Hue5YR5/6, 橙 Hue2.5YR6/6	粗砂：白色粒, 赤色粒, 砂：角閃石, 白色粒, 黒色粒, 赤色粒, 細砂：透明粒	3	外面口縁部：ナデ(一), 外面胴部：ナデ(＼), 内面口縁部：ナデ(一), 内面胴部：ナデ(＼)	絡縄突帯1条, 外面：スス付着, 内面：剥落あり, 口径：(32.8) cm
54	D	攪乱	辻堂原式	甕	口	外面：にぶい赤褐 5YR4/4, 内面：赤褐 5YR4/8, にぶい黄褐 10YR6/4	礫：軽石, 粗砂：白色粒, 赤色粒, 透明粒, 砂：白色粒, 黒色粒, 細砂：白色粒, 黒色粒	3	外面：ヨコナデ(一), ナデ, 刻目突帯：布目圧痕, ナデ(方向不明), 内面：ヨコナデ(一), ナデ(＼)	外面：刻目突帯1条(布目圧痕あり), 口径：(28.6) cm
55	D	攪乱	東原式	甕	口	外面：にぶい橙 7.5YR6/4, 内面：橙 7.5YR6/6類似, 器肉：にぶい橙 7.5YR6/4	礫：角閃石, 粗砂：角閃石, 白色粒, 黒色粒, 砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒, 細砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒	5	外面：ツメおさえ, 横位のナデ, 内面：ユビオサエ, ハケ(＼)	外面：刻目突帯1条, 内面：黒斑あり, 口径：(31) cm
56	D	攪乱	東原式	甕	口	外面：浅黄橙 10 YR 8/4 類似, 内面：にぶい黄橙 10 YR 7/4, 器肉：浅黄橙 10 YR 8/3	礫：白色粒, 灰色粒, 粗砂：石英, 角閃石, 白色粒, 赤色粒, 灰色粒, 砂：石英, 角閃石, 白色粒, 黒色粒, 細砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒	5	剥落のため不明	外面：三角突帯1条, 境目が不明瞭, 口径：(32.6) cm
57	D	攪乱	辻堂原式	甕	口	外面：にぶい赤褐 5 YR 5/4, 内面：赤褐 5 YR 4/6, 器肉：橙 5 YR 6/6	礫：灰色粒, 粗砂：石英, 角閃石, 白色粒, 砂：石英, 角閃石, 白色粒, 細砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒	1	外面：ナデ(一), 内面：丁寧なナデ(一)	外面：刻目突帯1条, 口径：(34.6) cm
58	D	攪乱	東原式	甕	口	外面：にぶい黄橙 10YR7/4, 内面：黒 5Y2/1, 橙 7.5YR7/6, 器肉：橙 7.5YR7/6	礫：角閃石, 白色粒, 透明粒, 赤色粒, 粗砂：角閃石, 白色粒, 透明粒, 砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒, 細砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒	3	外面：ヨコナデ(一), ナデ, 刻目突帯(布目), 内面：ヨコナデ(一)(＼)	外面, 内面に黒斑あり, 外面：刻目突帯1条(布目圧痕あり)
59	D	攪乱	東原式	甕	口	外面：浅黄橙 10YR8/3, 褐 10YR5/1, 内面：にぶい黄橙 10YR7/3, 器肉：暗灰 N3/0	礫：軽石, 粗砂：軽石, 砂：白色粒, 細砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒	2	外面：横位のナデ(一), ナデ, 内面：ユビオサエ, ナデ	外面に黒斑あり, 突帯より下の位置スス付着, 外面：刻目突帯1条(布目圧痕あり)
60	D	攪乱	東原式	甕	口	外面：にぶい橙 7.5YR7/4, にぶい褐 7.5YR5/4, 内面：橙 7.5YR6/6, 器肉：橙 5YR6/6	礫：軽石, 角閃石, 粗砂：角閃石, 黒色粒, 透明粒, 赤色粒, 砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒, 赤色粒, 細砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒	4	外面：ナデ, 内面：ユビオサエ, ナデ, ハケの始点あり	内面に黒斑あり, 全体的に丁寧なナデ, 外面：三角突帯1条
61	D	攪乱	東原式	甕	口	外面：明赤褐 2.5YR5/6, 赤 10YR5/6, 内面：にぶい橙 7.5YR7/4, 赤褐 10Y5/4, 器肉：浅黄橙 10YR8/4	粗砂：角閃石, 白色粒, 黒色粒, 砂：白色粒, 黒色粒, 赤色粒, 細砂：白色粒, 黒色粒, 赤色粒	3	外面：ユビオサエ, 三角突帯つめ痕?, 内面：ナデ(＼)(一), ユビオサエ, ハケの始点あり	外面：三角突帯1条あり, 内面にひび割れと接合痕あり
62	D	攪乱	辻堂原式?	甕	口	外面：にぶい褐 7.5YR5/3, 内面：にぶい黄褐 10YR5/3, 器肉：にぶい黄橙 10YR7/4	礫：白色粒, 粗砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒, 赤色粒, 砂：白色粒, 黒色粒, 赤色粒, 細砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒, 赤色粒	5	外面：ヨコナデ(一), 内面：ヨコナデ(一), ナデ, 突帯上部境目が不明瞭	外面：三角突帯1条
63	D	攪乱	東原式	甕	口	外面：にぶい橙 7.5YR6/4, 内面：橙 7.5YR6/6	礫：角閃石, 透明粒, 赤色粒, 粗砂：角閃石, 白色粒, 透明粒, 砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒, 細砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒	4	外面：ヨコナデ(一), ナデ, 刻目突帯：粘土が貼り付けてある, 内面：ナデ(一)(＼) ユビオサエ	外面：スス付着, 刻目突帯1条の上に補修のためか粘土が貼り付けてある。ヒビは確認できず
64	D	攪乱	東原式	甕	口	外面：黒褐 10YR3/1, 褐灰 10YR5/1, にぶい黄橙 10YR7/4, 内面：褐灰 10YR4/1, にぶい黄橙 10YR7/3, 明赤褐 5YR5/6, 器肉：黄灰 2.5Y5/1	礫：透明粒, 粗砂：角閃石, 白色粒, 透明粒, 砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒	3	外面：ヨコナデ(一), ユビオサエ, 内面：ヨコナデ(一)	外面：黒斑あり, 内面：黒斑あり
65	D	攪乱	東原式	甕	口	外面：浅黄橙 10YR8/3, にぶい黄橙 10YR7/4, 内面：にぶい黄橙 10YR7/4, 器肉：浅黄橙 10YR8/3	礫：角閃石, 粗砂：角閃石, 白色粒, 赤色粒, 砂：白色粒, 黒色粒, 赤色粒, 細砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒, 赤色粒	3	外面ヨコナデ(一), 三角突帯(刻目), 内面：ユビオサエ, ユビオサエ(一)	外面：刻目突帯1条, 突帯結合部がずれている。

III 郡元団地K・L-5・6区（中央図書館増築地C～E地点）包含層出土遺物

Tab.10 遺物観察

No.	地点	層	種別	器種	部位	色調	胎土		調整	備考
							混和材	砂粒の多さ		
66	D	攪乱	東原式	甕	口	外面：橙 7.5YR7/6、 内面：明褐 7.5YR5/6、 器肉：にぶい褐 7.5YR6/3	礫：透明粒，粗砂：角閃石、 透明粒，赤色粒，砂：白色粒、 黒色粒，透明粒，細砂：白色粒、 黒色粒	6	外面：ナデ，内面：ユビオサエ，ナデ	外面：刻目突帯1条
67	D	攪乱	成川式？	甕	口	外面：浅黄橙 10YR8/3、 内面：にぶい黄橙 10YR7/2、 器肉：黄灰 2.5Y6/1	礫：白色粒，粗砂：角閃石、 白色粒，透明粒，砂：白色粒、 黒色粒，透明粒，細砂：白色粒、 黒色粒，透明粒	3	外面：刻目突帯ユビオサエ、 ヨコナデ，内面：ハケ工具による調整のちナデ，ユビオサエ、 ヨコナデ（←）砂流の動き（→）	外面：刻目突帯1条，磨減が著しい，布目圧痕わずかに認められる
68	D	攪乱	笹貫式	甕	口	外面：にぶい黄橙 10 YR 7/4、 内面：浅黄橙 10 YR 8/3、 器肉：灰黄 2.5 Y 7/2	礫：白色粒，粗砂：白色粒，砂： 石英，角閃石，白色粒，細砂： 白色粒，黒色粒，透明粒	3	外面：ナデ（←），内面：ユビオサエ，ナデ（←）→（←）	外面：三角突帯1条，外面に黒斑あり
69	D	攪乱	笹貫式	甕	口	外面：にぶい黄褐 10 YR 5/4、 内面：にぶい橙 7.5 YR 6/4、 器肉 7.5 YR 6/4	礫：灰色粒，粗砂：石英，角閃石、 白色粒，赤色粒，灰色粒，砂：石英、 角閃石，白色粒，赤色粒、 灰色粒，細砂：白色粒、 黒色粒，透明粒	5	外面：ハケ（\）（ ），ユビオサエ， 内面：ハケ（\），ユビオサエ	外面：絡縄突帯1条，黒斑あり， スス付着，内面：全体に剥落気味， 接合痕がうっすらと残る
70	D	攪乱	笹貫式	甕	口	外面：黄灰 2.5Y5/1，明赤褐 5YR5/6、 橙 7.5YR6/4、 内面：にぶい黄橙類似 10YR6/4、 器肉：にぶい黄橙 10YR6/4	礫：白色粒，黒色粒，赤色粒， 粗砂：角閃石，白色粒，赤色粒、 灰色粒，砂：白色粒，黒色粒、 赤色粒，細砂：白色粒、 黒色粒，透明粒，赤色粒	3	外面：ヨコナデ（←），ナデ（←）（/）， 内面：ナデ（方向不明），ユビオサエ	外面：三角突帯1条
71	D	攪乱	笹貫式	甕	口	外面：橙 7.5YR7/6、 内面：にぶい黄橙 10YR7/3、 器肉：褐灰 10YR6/1	粗砂：角閃石，黒色粒，透明粒、 砂：白色粒，黒色粒，透明粒、 赤色粒，細砂：白色粒、 黒色粒，透明粒	5	外面：ナデ（←）（/），内面：ナデ（←）， ユビオサエ	外面：三角突帯1条
72	D	攪乱	成川式新	甕か鉢	口	外面：にぶい橙 7.5YR7/4、 内面：橙 7.5YR7/6、 器肉：褐灰 5YR6/1	粗砂：黒色粒，砂：白色粒、 黒色粒，透明粒，細砂：黒色粒、 透明粒	2	外面：工具による強いケズリ、 ナデ，内面：ハケによる始点、 ナデ	
73	D	攪乱	笹貫式	甕	口	外面突帯以上：橙 7.5YR6/6、 褐 10YR4/4、 外面突帯以下：にぶい黄橙 10YR6/4、 黄褐 10YR5/8、 突帯全面：褐 10YR4/4、 内面：にぶい黄橙 10YR7/4、 にぶい黄橙 10YR7/2（青灰色を帯びる）、 器肉：浅黄橙 10YR8/3	礫：石英，角閃石，白色粒、 粗砂：軽石，石英，角閃石、 白色粒，砂：軽石，石英、 角閃石，細砂：石英，白色粒	5	外面：ハケ（ ）（←）のちヨコ方向のナデ、 突帯境目：強いナデ、 突帯：ヘラ状工具で刻目、 布目痕，内面：ハケ（←）（\）のちナデ、 ユビオサエ	外面：スス付着
74	D	攪乱	成川式新	甕	口	外面：褐灰 Hue10YR4/1、 内面：にぶい黄褐 Hue10YR5/4、 器肉：灰黄 Hue2.56/2	粗砂：白色粒，砂：白色粒、 黒色粒，透明粒，細砂：白色粒、 黒色粒，透明粒		外面：ハケ目，内面：ユビオサエ， ナデ	絡縄突帯1条， 左手で突帯を作っているようである
75	D	攪乱	成川式	甕か壺	突帯	外面：橙 2.5YR7/6、 内面：灰白 10YR8/2、 浅黄橙 7.5YR8/4、 器肉：灰白 2.5Y8/2	礫：石英，粗砂：石英、 角閃石，砂：石英、 角閃石，白色粒、 細砂：白色粒、 黒色粒，透明粒	3	外面：ナデ（←）（\），内面：ナデ（/）	外面：赤色顔料塗布、 刻目突帯1条、 布目圧痕あり、 内面：接合痕あり、 赤変部あり
76	D	攪乱	成川式	甕	突帯	外面：明赤褐 5YR5/6、 内面：赤褐 5YR5/6、 器肉：明赤褐 5YR5/6YR	粗砂白色粒，透明粒，砂：白色粒、 黒色粒，透明粒，細砂：白色粒、 黒色粒，透明粒	2	外面：ヨコナデ（←），ナデ刻目突帯（布目）、 内面：ハケのち丁寧なナデ	布目突帯1条
77	D	攪乱	成川式	甕	胴	外面：にぶい黄橙 10YR5/3、 明赤褐：5YR5/6、 黄灰 2.5Y4/1、 内面：にぶい黄橙 10YR5/3、 にぶい褐 7.5YR5/4、 器肉：にぶい褐 7.5YR5/4	礫：直径6mm大の礫あり、 白色粒，赤色粒，粗砂：白色粒、 黒色粒，赤色粒，砂：白色粒、 黒色粒，赤色粒，細砂：白色粒、 黒色粒，透明粒，赤色粒	6	外面：ナデ（方向不明）、 内面：ハケの始点（/）， ナデ（方向不明）	全体的に剥落している、 黒斑あり、 外面に一部光沢あり（ミガキ？）
78	D	攪乱	成川式	甕	脚	外面：にぶい黄橙 10YR7/4類似、 胴部内面：にぶい橙 7.5 YR 7/4、 脚台内面：明赤褐 5 YR 5/6	礫：白色粒，粗砂：石英、 角閃石，白色粒，黒色粒，砂： 石英，角閃石，白色粒、 黒色粒，透明粒、 細砂：白色粒、 黒色粒，透明粒	2	外面：ハケ（←），ユビオサエ、 ナデ（ ）（\），内面：ユビナデ（/）、 ユビオサエ、ナデ（/）（←）	底径：7.9 cm
79	D	攪乱	成川式	甕	脚	外面：橙 7.5 YR 6/6、 明赤褐 2.5 YR 5/8、 内面：橙 7.5 YR 6/6、 明赤褐 2.5 YR 5/8、 底面：青灰、 器肉：浅黄橙 7.5 YR 8/4	礫：石英，白色粒，粗砂：角閃石、 白色粒，砂：石英、 角閃石，細砂：白色粒	5	外面上部：ハケのちココ及びタデ方向のナデ、 外面中部：ユビオサエ及びタデ方向にケズリ後ヨコナデ、 外面下部：ハケのちココ方向のナデ、 胴部内面：ヨコナデ及びハケ、 脚部内面：ヨコナデ、 下部にユビオサエあり	脚部と胴部の境・ 脚部に接合痕あり、 接合痕に沿ってヒビが入る、 胴部内面：ハケの打ち込み痕あり、 底径：(9.3) cm
80	D	攪乱	成川式	甕	脚	外面：浅黄橙 7.5YR8/4、 橙 7.5YR7/6、 灰 7.5Y1/6、 胴部内面：浅黄橙 7.5YR8/4、 橙 7.5YR6/6、 脚部内面：にぶい橙 7.5YR7/4、 器肉：にぶい橙 7.5YR7/3	礫：軽石，白色粒，赤色粒、 粗砂：石英，白色粒、 黒色粒，赤色粒，砂：白色粒、 赤色粒，細砂：透明粒	5	胴部内面：ユビオサエ、 脚部内面：ナデ（←）	底径：8.2 cm、 外面：ヒビが入っている
81	D	攪乱	成川式	甕	脚	外面：橙 2.5 YR 7/6、 脚台内面：橙 2.5 YR 7/6、 底部内面：灰 5 Y 4/1、 器肉：にぶい褐 7.5 YR 6/3類似	礫：赤色粒，粗砂：白色粒、 赤色粒，灰色粒，砂：角閃石、 白色粒，細砂：黒色粒、 透明粒	2	ユビオサエ，ナデ（←）	底径：9.6 cm、 外面：剥落している
82	D	攪乱	成川式	甕	脚	外面：灰白：10 YR 8/2、 胴部内面：灰黄褐 10 YR 5/2、 脚部内面：にぶい黄橙 10 YR 7/4類似、 器肉内側：橙 5 YR 7/6、 器肉内側：褐灰 10 YR 4/1	礫：白色粒，灰色粒，粗砂：石英、 角閃石，白色粒，砂：白色粒、 黒色粒，透明粒，細砂：白色粒、 黒色粒	2	外面：ハケ（/）（ ）のちナデ（←）（/）、 胴部内面：ハケ（\）、 ユビオサエ、ナデ（\）、 脚部内面：ナデ（←）	底径：10.0 cm、 脚台内面に接合痕あり、 断面に接合痕あり
83	D	攪乱	成川式	甕	脚	外面：橙：5 YR 6/6類似、 胴部内面：にぶい黄橙 10 YR 7/4類似、 脚部内面：橙 5 YR 6/6、 器肉：浅黄橙 10 YR 8/3	粗砂：白色粒，砂：白色粒、 黒色粒，細砂：黒色粒	1	外面：ハケ（ ）、ユビオサエ、 ナデ（←）、内面：ユビオサエ、 ナデ（\）（ ）（←）	底径：8.6 cm、 脚部端が非常にびつである

Tab.11 遺物観察

No.	地点	層	種別	器種	部位	色調	胎土		調整	備考
							混和材	砂粒の 多さ		
84	D	攪乱	成川式	甕	脚	外面：にぶい赤褐 2.5YR4/4、 内面：橙 7.5YR6/6、赤 10R5/8（赤色顔料）、 器肉：灰褐 7.5YR6/2	礫：軽石、石英、角閃石、粗砂： 軽石、石英、角閃石、赤色粒、 砂：白色粒、黒色粒、透明粒、 赤色粒、細砂：白色粒、黒色 粒、透明粒	5	外面：ヨコ方向ナデ（―）、 内面：ヨコナデ（―）	底径：10.4 cm、外面：胴部 との接合部に一部黒斑あ り、全体的に表面が摩滅し ている。赤色顔料塗布
85	D	攪乱	成川式	甕	脚	外面：褐 7.5 Y R 4/4 類似、 胴部内面：にぶい黄橙 10 Y R 7/3 脚部内面：にぶい黄褐 10 Y R 5/3、 器肉外側：橙 2.5 Y R 6/6、 器肉内側：にぶい黄褐 10 Y R 5/3	礫：石英、白色粒、粗砂：石 英、角閃石、白色粒、透明粒、 砂：白色粒、黒色粒、透明粒	5	外面：ハケ（ノ）（―）、胴 部内面：ハケ（ノ）（ ）、 脚台内面：ハケ（ ）ヨコ 方向ナデ	底径：(11.7) cm
86	D	攪乱	成川式	甕	脚	外面：明赤褐 2.5 Y R 5/6、 内面：明赤褐 2.5 Y R 5/6、 器肉：にぶい橙 2.5 Y R 6/4	礫：石英、白色粒、灰色粒、 粗砂：石英、角閃石、白色粒、 砂：石英、角閃石、白色粒、 細砂：白色粒	5	外面：ハケ、丁寧なナデ （―）、胴部内面：ハケ、ハ ケの打ち込み痕あり、脚台 内面：ハケ、ナデ（―）	底径：(10.5) cm、胴部内面： 剥落が著しい
87	D	攪乱	成川式	甕	脚	外面：橙 5 Y R 6/6、 胴部内面：浅黄橙 7.5 Y R 8/6、 脚部内面：浅黄橙 7.5 Y R 8/6、 器肉：黄灰 2.5 Y 5/1	礫：軽石、白色粒、粗砂：石 英、角閃石、白色粒、砂：白 色粒、黒色粒、透明粒、細砂： 白色粒、黒色粒、透明粒	2	外面：ヨコ方向ナデ、内面： ヨコナデ（―）、ユビオサ エ	底径：(8.2) cm、外面：一 部剥落、脚台内面：接合痕 あり、角閃石が少ない
88	D	攪乱	成川式	甕	胴～ 底	外面：橙 5YR6/8、 胴部内面：橙 5YR6/8、 脚部内面：橙 5YR7/6、 器肉：橙 5YR7/8	礫：軽石、粗砂：白色粒、黒 色粒、細砂：白色粒、黒色 粒、透明粒	3	外面：摩滅のため不明、内 面：ユビオサエ	底径：(8.2) cm、脚部端は ユビオサエのため稜線が上 下している
89	D	攪乱	成川式	甕?	低	外面：灰白 10YR8/2、橙 5YR7/6、 胴部内面：にぶい橙 7.5YR7/4、褐 10YR4/1、にぶい橙 7.5YR6/4、 脚部内面：浅黄橙 10YR8/4、 橙 2.5YR6/6、 器肉：にぶい橙 7.5YR7/4、 橙 2.5YR6/6	礫：角閃石、白色粒、赤色粒、 灰色粒、粗砂：角閃石、白色 粒、砂：白色粒、黒色粒、細 砂：白色粒、黒色粒、透明粒	5	外面：打ち込み、ナデ（―） （ ）、胴部内面：ナデ（ノ）、 ユビオサエ、脚部内面：ナ デ（―）、ユビオサエ	底径：(9.7) cm、外面：一 部剥落している、荒くヨコ タテ方向に撫でられている
90	D	攪乱	成川式	甕	胴～ 脚	外面：浅黄橙 7.5YR8/4、灰 白 10YR8/2、 胴部内面：灰白 10YR8/2、 脚部内面：橙 2.5YR6/6、浅黄 橙 10YR8/4、灰白 10YR8/2、 器肉：灰白 2.5Y8/1	礫：赤色粒、粗砂：角閃石、砂： 白色粒、黒色粒、細砂：黒色 粒、透明粒、赤色粒	2	外面：摩滅のため不明、胴 部内面：ハケ（―）	底径：(9.8) cm
91	D	攪乱	成川式	甕	胴～ 脚	外面：浅黄橙 10YR8/4、 胴部内面：にぶい橙 7.5YR7/4、 脚部内面：灰白 10YR8/2、 器肉：黄灰 2.5Y6/1	礫：軽石、粗砂：軽石、角閃 石、白色粒、砂：白色粒、黒 色粒、細砂：白色粒、黒色粒、 透明粒	3	外面：ハケ、胴部内面：ユ ビオサエ、脚部内面：なし て押さえつける	脚部と体部の接合のため、 粘土貼付け後ハケ工具のよ って押さえつける
92	D	攪乱	成川式	甕か鉢	脚	外面：灰白 2.5Y8/2、 内面：にぶい橙 7.5YR7/4、 灰黄 2.5Y7/2、 器肉：にぶい橙 7.5YR6/4	礫：石英、灰色粒、粗砂：石 英、白色粒、灰色粒、砂：石英、 角閃石、白色粒、細砂：白色 粒、黒色粒、透明粒	3	ユビオサエ、ナデ（―）	底径：9.5 cm、接合痕あり、 内面上部（脚台）に粘土を 貼り付ける
93	D	攪乱	成川式	甕	脚	外面：にぶい橙 7.5YR7/4 類似、 内面：にぶい橙 2.5YR6/4、 器肉：橙 2.5YR6/6	礫：石英、白色粒、粗砂：石 英、角閃石、白色粒、砂：石英、 角閃石、白色粒、細砂：白色 粒、黒色粒、透明粒		外面：ナデ（―）、内面： ヨコナデ	底径：(10.0) cm、接合痕あ り
94	D	攪乱	成川式	甕か鉢	脚	外面：にぶい黄橙 10YR7/4、 内面：にぶい橙 7.5YR7/4、 器肉：灰黄褐 10YR6/2 類似	礫：白色粒、粗砂：角閃石、 白色粒、灰色粒、砂：角閃石、 白色粒、黒色粒、灰色粒、細 砂：白色粒、黒色粒		外面：ハケ（―）、ユビオ サエ、ナデ（―）、内面： ハケ（―）、ナデ（―）	底径：(11.4) cm、接合痕あ り
95	D	攪乱	成川式	甕	脚	外面：にぶい黄橙 10YR7/4 類似、内面：浅黄橙 7.5YR8/4 類似、器肉：淡橙 5YR8/4	礫：石英、角閃石、白色粒、粗砂： 石英、角閃石、白色粒、灰色 粒、砂：石英、角閃石、白色粒、 細砂：白色粒、黒色粒、透明 粒	3	ナデ（―）、ユビオサエ	底径：(11.1) cm、接合痕あ り
96	D	攪乱	成川式	甕か鉢	脚	外面：橙 2.5 Y R 6/6、 内面：にぶい黄橙 10 Y R 7/3、明赤褐 2.5 Y R 5/6、 器肉：灰白 10 Y R 8/2	礫：白色粒、粗砂：石英、角 閃石、白色粒、黒色粒、砂： 石英、角閃石、白色粒、細砂： 白色粒、黒色粒、透明粒	2	外面：ハケ（ ）、ユビオ サエ、ナデ（―）、内面： ナデ（ナデ）	底径：(8.0) cm、接合痕あ り
97	D	攪乱	成川式	甕	脚	外面：浅黄橙 7.5YR8/4 類似、 内面：黒 7.5Y2/1、 器肉：灰 7.5Y5/1	礫：石英、白色粒、粗砂：石 英、白色粒、砂：石英、角閃石、 白色粒、細砂：白色粒、黒色 粒、透明粒	4	外面：工具によるナデ（―）、 ユビオサエ、ナデ（―）、 内面：工具によるナデ（―）、 ナデ（―）	底径：(10.2) cm、内面：ス ス付着
98	D	攪乱	成川式	鉢	脚	外面：浅黄橙 10YR8/3、橙 5YR6/6、 内面：橙 5YR7/6、 器肉：浅黄橙 10YR8/3	細砂：白色粒、黒色粒、透明 粒	1	内面：ヨコナデ（―）	底径：(6.7) cm、内・外面： 赤色顔料付着、割れ口にも 赤色顔料が付着しているこ とから、他の用途に利用し たのではないかと
99	D	攪乱	成川式	甕か鉢	脚	外面：にぶい黄橙 10YR7/4 類似、 内面：にぶい黄橙 10YR7/4 類似、 器肉：橙 5YR7/6	礫：灰色粒、粗砂：石英、白 色粒、灰色粒、砂：石英、角 閃石、白色粒、灰色粒、細砂： 白色粒、黒色粒、透明粒	4	外面：丁寧なナデ、内面： ヨコナデ、ユビオサエ（接 合面）	底径：(9.2) cm、接合痕あ り
100	D	攪乱	成川式	甕か鉢	脚	外面：浅黄橙 10YR8/3、 内面：灰白 10YR8/2、 器肉：灰白 10YR8/2	粗砂：角閃石、砂：黒色粒、 細砂：白色粒、黒色粒、透明 粒	2	外面：ナデ、内面：ナデ、 ユビオサエ	底径：(7.4) cm、接合痕あ り
101	D	攪乱	成川式	甕	脚	外面：浅黄橙 10 Y R 8/4、 内面：灰白 10 Y R 8/2、 器肉：橙 2.5 Y R 7/6	礫：石英、白色粒、粗砂：石 英、角閃石、白色粒、砂：石英、 角閃石、白色粒、細砂：白色 粒、黒色粒、透明粒	4	外面：剥落のため不明、内 面：ナデ（―）	底径：(12.3) cm
102	周辺 採集		成川式	壺	口	外面：黄橙 7.5YR7/8、 内面：橙 7.5YR6/8、 器肉：褐灰 7.5YR4/1	礫：軽石、粗砂：白色粒、透 明粒、赤色粒、砂：白色粒、 黒色粒、透明粒、細砂：白色 粒、黒色粒、透明粒	5	外面：ナデ（―）、内面：ナ デ（―）、ユビオサエ、粘 土帯：接合をならす為上か らのナデあり	口径：(12.2) cm、外面：か なり強くナデた痕あり

Tab.12 遺物観察

No.	地点	層	種別	器種	部位	色調	胎土		調整	備考
							混和材	砂粒の 多さ		
103	D	攪乱	成川式	壺	口～ 胴	外面：橙 2.5YR7/8, にぶい 黄橙 10YR7/3, 内面：にぶい黄橙 10YR6/3, にぶい橙 7.5YR6/4, 器肉：橙 2.5YR6/6, 黄灰 2.5Y5/1	礫：角閃石, 白色粒, 粗砂： 角閃石, 白色粒, 黒色粒, 砂： 角閃石, 白色粒, 赤色粒, 細 砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒	4	ヨコナデ (―), ナデ () (\)(―), 粘土がヨシテ いる, 内面：ヨコナデ (―), ハケの始点 (ノ), ユビオ サエ	口径：(17.6) cm, 胴部最大 径：(18.8) cm
104	D	攪乱	成川式	壺	口～ 胴	外面：にぶい橙 7.5 YR 7/4, 内面：にぶい黄橙 10 Y R 7/4類似 器肉：黄灰 2.5 Y 6/1 類似	粗砂：黒色粒, 砂：石英, 角 閃石, 白色粒, 黒色粒, 細砂： 白色粒, 黒色粒, 透明粒	4	外面：ハケ (ノ) (―), ナ デ (\)(―), 内面：ハケ (\) (―), ユビオサエ, ナデ () (―)	口径：(16.4) cm, 胴部最大径： (20.6) cm, 外面：黒斑あり
105	D	攪乱	成川式	壺	口	外面：橙 5YR7/8, 内面：にぶい橙 7.5YR6/4, 器肉：黄灰 2.5Y5/1	礫：白色粒, 灰色粒, 粗砂： 角閃石, 白色粒, 黒色粒, 透 明粒, 砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒, 細砂：白色粒, 黒色 粒, 透明粒	5	外面：ハケ, 内面：ハケ, 絞り痕あり	口径：(8.4) cm
106	D	攪乱	成川式	壺	口	外面：橙 7.5YR6/6, 内面：橙 5YR6/6, 器肉：褐灰 10YR6/1	礫：白色粒, 粗砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒, 砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒, 細砂：白色 粒, 黒色粒, 透明粒	3	外面：なし, 内面：ヨコナ デ (―), 工具による砂粒 の動き	口径：(8.1) cm
107	D	攪乱	成川式	壺	口	外面：褐 7.5YR4/3, 内面：橙 5YR7/6, 器肉：灰 5Y5/1	礫：白色粒, 粗砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒, 砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒, 細砂：白色 粒, 黒色粒, 透明粒	5	摩擦のためヨコナデのみ	口径：(10.5) cm
108	D	攪乱	成川式	埴	口	外面：橙 7.5YR6/6, 内面：にぶい橙 7.5YR6/4, 器肉：にぶい黄橙 10YR7/2	粗砂：白色粒, 黒色粒, 赤色 粒, 砂：白色粒, 黒色粒, 細 砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒	2	ヨコナデ (―)	口径：(10.3) cm
109	D	攪乱	成川式	壺	口	外面：浅黄橙 10YR8/3, 内面：浅黄橙 10YR8/3, 器肉：浅黄橙 10YR8/3	粗砂：黒色粒, 砂：白色粒, 黒色粒, 赤色粒, 細砂：白色 粒, 黒色粒, 透明粒, 赤色粒	2	外面：ユビナデ?内面：ヨ コナデ (―), ナデ (\)	口径：(7.4) cm
110	D	攪乱	成川式	小壺	口～ 胴	外面：にぶい橙 Hue7.5YR7/4, 内面：にぶい褐 Hue7.5YR5/4, 橙 Hue7.5YR6/6, 器肉：にぶい橙 Hue7.5YR7/3,	粗砂：白色粒, 透明粒, 赤色 粒, 砂：白色粒, 黒色粒, 透 明粒, 赤色粒, 細砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒	4	外面：ハケ, 粘土の貼り付 け痕あり, 突帯下部：ツメ 痕あり, 内面：ユビオサエ, ハケ, 工具によるナデ	口径：(9.0) cm, 胴部最大径： (10.4) cm, 内外面：黒斑あ り
111	D	攪乱	弥生?	壺	口	外面：にぶい橙 7.5YR7/4, 内面：にぶい橙 7.5YR6/4, 器肉：浅黄橙 7.5YR8/4	礫：白色粒, 粗砂：石英, 角 閃石, 白色粒, 灰色粒, 砂： 石英, 角閃石, 白色粒, 灰色粒, 細砂：白色粒, 黒色粒, 透明 粒	2	外面：ハケ (―) (), ナ デ (―), 内面：ハケ (―) (\), ナデ (―)	口径：(13.6) cm
112	D	攪乱	成川式	壺	口	外面：橙 7.5YR7/6, 浅黄橙 10YR8/3, 内面：浅黄橙 10YR8/3, 器肉：灰 5Y5/1	礫：透明粒, 粗砂：角閃石, 白色粒, 黒色粒, 砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒, 細砂：白色 粒, 黒色粒, 透明粒	3	外面：ヨコナデ (―), 内面： ユビオサエ, (ヨコナデ)	
113	D	攪乱	成川式?	甕	口	外面：にぶい黄橙 10YR7/4, 黒 N2/0, 内面：にぶい褐 7.5YR5/4, 器肉：にぶい黄橙 10YR7/4類似	礫：白色粒, 粗砂：白色粒, 黒色粒, 砂：白色粒, 黒色粒, 細砂：白色粒, 黒色粒, 透明 粒	5	ヨコナデ (―)	外面：黒斑あり
114	D	採集	成川式	壺	突帯	外面：橙 2.5YR6/8, 内面：橙 5YR6/6	粗砂：角閃石, 透明粒, 砂： 白色粒, 透明粒, 細砂：黒色 粒, 透明粒	3	外面：ナデ, ハケの始点, 内面：ナデ (―) ユビナデ	破断面に接合線あり, 刻目 突帯
115	D	攪乱	弥生～古 墳	壺	突帯	外面：明赤褐 5YR5/6, 内面：赤褐 5YR4/6, 器肉：黒褐 5YR3/1	礫：白色粒, 粗砂：白色粒, 砂： 白色粒, 黒色粒, 赤色粒, 細 砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒	5	外面：ナデ (―), 内面： 磨滅のため不明	三角突帯
116	D	攪乱	中津野 式?	小壺	胴	外面：にぶい黄橙 Hue10YR7/4, 内面：明褐 Hue7.5YR5/6, 器肉：褐 Hue7.5YR4/4	砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒, 細砂：黒色粒, 透明粒	2	外面：ハケ, ナデ (―), 内面： ハケの始点, ナデ (―)	径：4.5 cm
117	D	攪乱	弥生～古 墳	壺	頸	外面：にぶい黄橙 10YR7/3, 内面：浅黄橙 10YR8/3, 器肉：浅黄橙 10YR8/3	粗砂：角閃石, 黒色粒, 透明 粒, 砂：白色粒, 黒色粒, 透 明粒, 細砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒	2	外面：ハケ工具による (―), 内面：ハケ (ノ), 絞り痕	成川式?
118	D	攪乱	成川式	埴	同	外面：にぶい橙 7.5YR6/4, 内面：灰白 10YR8/2, 器肉：灰 5Y6/1	粗砂：白色粒, 砂：黒色粒, 透明粒, 細砂：白色粒, 黒色 粒, 透明粒	2	外面：ヘラ工具によるナデ (―),	
119	D	攪乱	中津野 式?	壺	胴	外面：明褐 7.5YR5/6, 浅黄 橙 7.5YR8/4, 内面：橙 7.5YR7/6, 明褐 7.5YR5/6, 器肉：灰黄褐 10YR5/2	礫：黒色粒, 粗砂：黒色粒, 透明粒, 赤色粒, 砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒, 細砂：白色 粒, 黒色粒, 透明粒	4	外面：ナデ (\)(―), 内面： ユビオサエ, ナデ (\)(―)	胴部最大径：(23.1) cm, 鉄 分の汚れの付着あり, 外面： 黒斑あり, 内面：接合線あ り
120	D	攪乱	成川式	壺	突帯	外面：灰白 10YR8/2, 内面：橙 7.5YR7/6, 器肉：褐灰 10YR6/1	礫：白色粒, 粗砂：石英, 白 色粒, 黒色粒, 砂：角閃石, 白色粒, 黒色粒, 細砂：白色 粒, 黒色粒, 透明粒	2	外面：ナデ (―), 内面： ハケ (\), ユビオサエ, ナデ (―)	胴部最大径：(24.6) cm, 外 面：スス付着, 刻目突帯1条, 布目圧痕あり
121	D	攪乱	成川式	壺	底	外面：橙 5YR7/8, 内面：橙 5YR6/6, 器肉：橙 5YR7/8	礫：軽石, 石英, 角閃石, 灰 色粒 (6 mm大), 粗砂：軽石, 石英, 角閃石, 赤色粒, 砂： 軽石, 角閃石, 黒色粒, 透明粒, 赤色粒, 細砂：白色粒, 黒色 粒, 透明粒	5	外面：なし, 内面：ハケ (ノ), ナデ (\), ユビオサエ	底径：(4.9) cm, 外面：摩 滅が著しい
122	D	攪乱	成川式	鉢	底	外面：浅黄橙 7.5YR8/4, 内面：にぶい橙 7.5YR6/4, 器肉：橙 7.5YR6/6	礫：白色粒, 透明粒, 粗砂： 白色粒, 透明粒, 砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒, 細砂：白色 粒, 黒色粒, 透明粒	2	外面：ハケのちナデ, 内面： ユビオサエ	底径：4.8 cm
123	D	採集	成川式	壺	底	外面：黄灰 2.5Y5/1, 内面：灰 N4/0, 器肉：黄灰 2.5Y6/1	礫：白色粒, 粗砂：角閃石, 白色粒, 黒色粒, 砂：角閃石, 白色粒, 黒色粒, 赤色粒, 細 砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒	3	外面：ハケ (\), 内面： ハケ (―) (\)	底径：(4.6) cm

Tab.13 遺物観察

No.	地点	層	種別	器種	部位	色調	胎土		調整	備考
							混和材	砂粒の 多さ		
124	D	攪乱	成川式	壺	底	外面：浅黄橙 7.5YR8/6, 内面：灰白 10YR8/2, 器肉：褐灰 10YR4/1	粗砂：白色粒, 黒色粒, 透明 粒, 赤色粒, 砂：白色粒, 黒 色粒, 透明粒, 赤色粒, 細砂： 白色粒, 黒色粒, 透明粒	5	外面：ナデ, ユビオサエ, 内面：ナデ, ユビオサエ	底径：7.0 cm
125	D	攪乱	成川式	壺	底	外面：淡黄 2.5YR8/3, 内面：灰白 2.5YR8/2, 器肉内側：灰白 2.5YR8/2, 灰白 2.5YR7/1	礫：角閃石, 粗砂：角閃石, 砂： 石英, 白色粒, 黒色粒, 赤色 粒, 細砂：黒色粒, 透明粒	4	外面：ハケ (ノ), 内面： ハケ	底径：(5.1) cm
126	D	攪乱	成川式	壺?	底	外面：浅黄橙 10 Y R 8/3, 淡赤橙 2.5 Y R 7/4 (赤変部), 内面：橙 2.5 Y R 6/6, 黄灰 2.5 Y 4/1 (黒変部), 器肉：灰 5 Y 6/1	礫：白色粒, 粗砂：石英, 白 色粒, 砂：石英, 白色粒, 黒 色粒, 細砂：白色粒, 黒色粒	2	外面：ハケ (ノ), ナデ (ノ), 内面：ハケ (ノ) (ノ) (一), ユビオサエ	底径：6.0 cm, 底部の形態 から考えると弥生中期の壺 だが, 胎土の質は古墳に近 い。また, 強い火熱を受け ているため甕とも考えられ る。よって時期・器種とも に断定できない
127	D	攪乱	中津野式	壺	底	外面：にぶい橙 5YR7/4, 底面：にぶい黄橙 10YR7/2 類似, 内面：にぶい橙 7.5YR7/4, 器肉：橙 7.5YR7/8	礫：軽石, 黒色粒, 赤色粒, 粗砂：軽石, 石英, 角閃石, 黒色粒, 赤色粒, 砂：軽石, 角閃石, 黒色粒, 透明粒, 赤 色粒, 細砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒	5	外面：ハケ (一), 内面： ユビオサエ, ハケ始点あり	底径：2.8 cm, 内面：黒斑 あり, 底面：10 円玉のよ うな感じ
128	D	攪乱	成川式	壺	底	外面：橙 7.5YR7/6, 内面：浅黄橙 10YR8/3, 器肉：浅黄橙 10YR8/3	礫：石英, 角閃石, 礫, 粗砂： 軽石, 石英, 角閃石, 砂：軽 石, 角閃石, 黒色粒, 透明粒, 細砂：白色粒, 黒色粒, 透明 粒, 赤色粒	5	外面：ナデ (ノ), 内面： ナデ (ノ)	底径：4.8 cm, レンズ状の 底面, 全体に剥落している
129	D	1	成川式	壺	底	外面：にぶい黄橙 10YR7/3, 内面：にぶい橙 7.5YR7/4, 器肉：灰白 5Y7/2	礫：軽石, 石英, 粗砂：軽石, 角閃石, 白色粒, 黒色粒, 砂： 白色粒, 黒色粒, 細砂：白色 粒, 黒色粒, 透明粒	5	外面：ハケ (ノ), 内面： 工具によるナデ (ノ)	底径：4.8 cm
130	D	攪乱	成川式	壺	底	外面にぶい橙 7.5YR7/3, 橙 2.5YR6/8, 内面：灰白 10YR7/1, 器肉：浅黄橙 7.5YR8/4, 灰 5Y6/1	礫：軽石, 白色粒, 粗砂：軽石, 角閃石, 黒色粒, 透明粒, 砂： 軽石, 角閃石, 黒色粒, 透明粒, 赤色粒, 細砂：白色粒, 黒色 粒, 透明粒	5	外面：ハケ (ノ), 内面： ハケ (ノ), ユビオサエ	底径：7.5 cm, 内面：一部 剥落している
131	D	攪乱	成川式	壺	底	外面：にぶい黄橙 10YR7/3, 内面：暗黄 2.5Y4/2, にぶ い黄褐 10YR6/3, 器肉：灰黄 2.5Y7/2	礫：直径 7mm 大の礫, 白色粒, 透明粒, 赤色粒, 粗砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒, 赤色粒, 砂： 白色粒, 黒色粒, 透明粒, 細 砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒	3	外面：ナデ (方向不明), ハケの始点, 内面：一部板 状工具による調整のちハケ	
132	D	攪乱	成川式	小壺か 埴	底	外面：にぶい黄橙 10YR6/4 類似, 内面：にぶい黄橙 10YR6/4 類似, 明赤褐 2.5YR5/6, 器肉：灰 5Y6/1	礫：白色粒, 粗砂：角閃石, 白色粒, 黒色粒, 透明粒, 砂： 白色粒, 黒色粒, 透明粒, 細 砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒	5	外面：磨滅のため不明, 内 面：ナデ (一), 打ち込み 痕 (一)	底径：(2.5) cm
133	D	攪乱	成川式	壺	底	外面：明黄褐 10YR7/6, 灰 白 10YR8/1, 橙 2.5YR6/6, 内面：橙 2.5YR6/6, 灰黄 2.5YR7/2, 器肉：灰白 2.5YR8/1	礫：透明粒, 赤色粒, 粗砂： 黒色粒, 透明粒, 赤色粒, 砂： 白色粒, 黒色粒, 透明粒, 赤 色粒, 細砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒, 赤色粒	3	外面：磨滅のため不明, 内 面：工具による圧痕	断面に赤色顔料付着 (破損 後パレットとして使用した のか?)
134	D	攪乱	成川式	鉢	口	外面：明赤褐 5YR5/6, 褐 7.5YR4/3, 黒褐 7.5YR3/1, 内面：にぶい赤橙 10R6/4, 暗 灰 N3/0, 明赤褐 2.5YR5/6, に ぶい黄橙 10YR6/3, もう一色?, 器肉：橙 5YR6/6	礫：灰色粒, 粗砂：角閃石, 白色粒, 黒色粒, 砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒, 赤色粒, 細 砂：白色粒, 透明粒	5	外面：ココナデ (一), ナ デ (⇒), 内面：打ち込み 痕 (ノ)	口径：(27) cm
135	D	攪乱	成川式	鉢か 台付鉢	底	外面：浅黄橙 7.5YR8/6, 灰 白 10YR, 内面：橙 7.5YR7/6, 器肉：褐灰 10YR5/1, 灰白 2.5Y	礫：石英, 角閃石, 白色粒, 灰色粒, 粗砂：石英, 角閃石, 白色粒, 赤色粒, 砂：角閃石, 白色粒, 黒色粒, 赤色粒, 細 砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒, 赤色粒	3	外面：磨滅のため特になし, 内面：ハケ (ノ)	口径：(23.6) + α cm
136	D	攪乱	東原式	高杯か 埴	口~ 胴	外面：灰白 2.5Y8/2, 灰 N4/0, 橙 5YR6/8, 内面：灰白 10YR8/1, 器肉：灰白 10YR8/1	礫：白色粒, 粗砂：白色粒, 黒色粒, 赤色粒, 砂：白色粒, 黒色粒, 細砂：白色粒, 黒色 粒	5	外面：ハケ (一), 内面： 磨滅のため不明	口径：(16.1) cm, 黒斑あり
137	D	攪乱	東原式	高杯	胴	外面：にぶい黄橙 10 Y R 5/3, 内面：淡橙 5 Y R 8/4, 器肉：浅黄橙 10 Y R 8/4	礫：白色粒, 粗砂：石英, 角 閃石, 白色粒, 灰色粒, 砂： 石英, 角閃石, 白色粒, 細砂： 白色粒, 黒色粒, 透明粒	1	外面：ナデ (一), 内面： ナデ	口径：(20.4) + α cm
138	D	攪乱	東原式	高杯	胴	外面：橙 5 Y R 6/6, 内面：にぶい橙 7.5 Y R 6/4, 器肉：橙 5 Y R 6/6	礫：白色粒, 粗砂：石英, 白 色粒, 砂：石英, 角閃石, 白 色粒, 細砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒	4	外面：ナデ (ノ) (ノ) (一), 内面：ナデ (ケズリ状一), (ノ)	口径：(19.4) + α cm 外面： 製作時のワラ痕? あり, 接 合線あり
139	D	攪乱	東原式	甕	口	外面：明赤褐 2.5YR5/8, 内面：にぶい黄褐 10YR7/3, 橙 5YR6/6, 器肉：にぶい黄橙 10YR7/3	礫：軽石, 透明粒, 粗砂：軽 石, 黒色粒, 透明粒, 砂：白 色粒, 黒色粒, 透明粒, 細砂： 白色粒, 黒色粒	3	剥落のため不明	
140	D	攪乱	成川式	高杯?	口	外面：にぶい橙 7.5YR7/4, 内面：灰黄褐 10YR5/2, 器肉：浅黄橙 7.5YR8/3	礫：白色粒, 粗砂：石英, 角 閃石, 白色粒, 砂：石英, 角 閃石, 白色粒, 細砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒	4	外面：ユビオサエ, ナデ (一) (ノ), 内面：ハケ (ノ), ユビオサエ, ナデ (一)	口径：(16.4) cm
141	D	攪乱	成川式	高杯	口	外面：灰白 10YR8/2, 内面：にぶい黄橙 10YR6/3, 器肉：黄灰 2.5Y5/1	細砂：白色粒, 透明粒	1	外面：磨滅のため不明, 内 面：ハケの始点あり	
142	D	攪乱	成川式	鉢	口	外面：浅黄橙 10YR8/4, 内面：浅黄橙 10YR8/3, 器肉：浅黄橙 10YR8/3	粗砂：白色粒, 砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒, 細砂：白色 粒, 黒色粒, 透明粒, 赤色粒	2	外面：ハケ (ノ), 内面： なし	

Ⅲ 郡元団地K・L-5・6区（中央図書館増築地C～E地点）包含層出土遺物

Tab.14 遺物観察

No.	地点	層	種別	器種	部位	色調	胎土		調整	備考
							混和材	砂粒の 多さ		
143	D	攪乱	成川式新	高杯	口	外面：明赤褐 2.5YR5/6、 内面：明赤褐 2.5YR5/6、 器肉：浅黄橙 10YR8/4	礫：灰色粒、粗砂：角閃石、 白色粒、砂：石英、角閃石、 白色粒、細砂：石英、白色粒	3	外面：ナナメ方向ハケのち ヨコ方向ミガキ、内面：ミ ガキ（磨滅のため方向不明）	内外面：赤色顔料塗布
144	D	攪乱	成川式新	高杯	胴	外面：明赤褐 2.5YR5/6、 内面：灰 7.5Y6/1、 器肉：浅黄橙 10YR8/4、 内面側：灰 7.5Y6/1	粗砂：白色粒、砂：角閃石、 白色粒、黒色粒、細砂：白色 粒、黒色粒	2	外面：ヨコ方向ミガキ、タ テ方向ナデ、内面：ヨコ方 向ナデ	外面：赤色顔料塗布、摩滅 激しい
145	D	攪乱	成川式	高杯	脚	外面：橙 2.5YR6/8、 脚部：オリーブ黒 7.5Y3/1、 内面：橙 2.5YR7/6、 器肉：赤橙 10R6/6、にぶい 黄橙 10YR7/3	礫：白色粒、粗砂：石英、砂： 白色粒、石英、角閃石、黒色 粒	3	外面：ハケのちナデ、内面： ヨコナデ、稜線より下はハ ケ、脚部：ナデのちミガキ	
146	D	攪乱	成川式古	高杯	脚	外面：橙 2.5YR6/6、 内面：にぶい橙 5YR7/4、 器肉：にぶい赤橙 10R6/4	砂：石英、角閃石、白色粒、 灰色粒細砂：白色粒、黒色粒、 透明粒	3	外面：ハケ（ ）（←）→ ヨコナデ、内面：ハケ（←） （\）→ナデ（←）	底径：(13.6) cm、直径 2 mm の穿孔あり（目的不明）
147	D	攪乱	成川式新	高杯	脚	外面：赤褐 2.5YR4/8、 内面上部：にぶい褐 7.5YR5/4、 内面下部：灰 5Y6/1、 器肉：灰白 2.5Y7/1	粗砂：石英、角閃石、白色粒、 砂：角閃石、白色粒、細砂： 白色粒	3	外面：ヨコ方向ミガキ、上 部に強いヘラの痕あり、内 面：ヨコナデ、ハケ	外面：赤色顔料塗布、接合 痕あり
148	D	攪乱	成川式新	高杯	脚	外面：浅黄橙 10YR8/3、橙 5YR7/6、 内面：灰白 10YR8/2、橙 5YR7/6、 器肉：灰黄 2.5Y7/2	礫：白色粒、赤色粒、粗砂： 石英、角閃石、白色粒、砂： 石英、角閃石、白色粒、細砂： 白色粒、黒色粒、透明粒	2	外面：ナデ（←）、ユビナ デ（ ）、内面：ナデ（←）	底径：13.0 cm、割れ口が接 合部か？
149	D	攪乱	成川式新	高杯	脚	外面：赤褐 5YR4/6、 内面：灰白 10YR8/1、 器肉：灰 N4/0	粗砂：黒色粒、赤色粒、砂： 白色粒、黒色粒、赤色粒、細 砂：透明粒	1	摩滅のため不明	底径：(10.6) cm、外面：赤 色顔料塗布
150	D	攪乱	東原式	小型丸 底壺	胴～ 底	外面：浅黄橙 10YR8/3、内 面：浅黄橙 10YR8/4、器肉： 褐 7.5YR4/4	礫：なし、粗砂：透明粒、砂、 黒色粒、透明粒、細砂：黒色 粒、透明粒、赤色粒	1	外面：打ち込み痕（\）、 内面：ユビオサエ、ナデ（ \）（/）（←）	外面に黒斑あり、内面に接 合痕あり
151	D	攪乱	成川式新	埴	胴～ 底	胴部外面：にぶい赤褐 5YR4/4、 赤褐 5YR4/8、 底部外面：にぶい赤褐 5YR4/4、 底面：赤褐 2.5YR4/6、 内面：褐 10YR4/6、 器肉：にぶい黄橙 10YR7/4	粗砂：黒色粒、砂：白色粒、 黒色粒、細砂：石英、白色粒	1	胴部外面：ヨコ方向ミガキ、 底部外面：ヨコ方向ハケの ちヨコ方向ミガキ（ハケの 打ち込み痕あり）、底面： ハケのちミガキ、底部内面： ヨコ方向ハケ、胴部内面： ヘラナデのちユビオサエ	底径：(4.0) cm、外面：赤 色顔料塗布、一部黒斑あり
152	D	V	成川式新	埴	胴	外面：赤褐 Hue5YR4/8、 内面：褐灰 Hue10YR6/1、 器肉：にぶい黄橙 Hue10YR7/4	砂：白色粒、黒色粒、細砂： 透明粒	1	外面：磨滅のため不明、内 面：ナデ（←）、ハケ（←）	胴部最大径：(9.5) cm、外面： 赤色顔料塗布
153	D	攪乱	成川式新	埴	底	外面：にぶい赤褐 2.5YR4/3、 内面：にぶい赤褐 2.5YR4/4、 器肉：黄灰 2.5Y5/1 類似	礫：白色粒、粗砂：白色粒、砂： 白色粒、黒色粒、細砂：白色 粒、黒色粒、透明粒	2	外面：磨滅のため不明、内 面：ナデ（←）、ハケ（←）	(6.1) cm、内外面ともに赤 色顔料塗布、顔料容器か？
154	D	攪乱	成川式新	埴	底	外面：赤褐 2.5YR4/8、 内・底面：赤褐 2.5YR4/8、 器肉：浅黄橙 10YR8/4	粗砂：石英、黒色粒、砂：石英、 角閃石、白色粒、細砂：石英	2	外面：ナデ（←）（\）の ちミガキ（←）（\）、底面： ナデ（磨滅している）、内面： 磨滅のため不明	底径：(3.8) cm、内外面と もに赤色顔料塗布、内・底 面の胎土の色は磨滅してい るため外面から推測したもの である
155	D	攪乱	成川式新	埴	胴～ 底	外面：灰白 10YR8/2、 内面：浅黄橙 10YR8/3、 器肉：灰白 10YR8/2	砂：白色粒、黒色粒、細砂： 白色粒、黒色粒、透明粒	1	外面：ナデ（←）	外面：黒斑あり
156	D	攪乱	成川式新	甗	脚	外面：明赤褐 5YR5/6、 内面：褐灰 10YR4/1、 器肉：灰黄褐 10YR6/2	礫：赤色粒、粗砂：黒色粒、砂： 白色粒、黒色粒、細砂：白色 粒、透明粒	1	外面：赤色顔料塗布	109 と 112 は同一個体
157	D	攪乱	成川式	埴	口	外面：橙 5YR7/6、 内面：にぶい橙 7.5YR7/4、 器肉：にぶい橙 7.5YR7/4	礫：赤色粒、粗砂：赤色粒、砂： 黒色粒、赤色粒、細砂：黒色 粒、透明粒	2	ヨコナデ（←）	口径：(9.2) cm
158	D	攪乱	成川式	手づく ね	完形	外面：浅黄橙 10YR8/3、オ リーブ黒 7.5Y3/2、赤褐 5YR4/6、 内面：灰白 10YR8/2、 器肉：灰白 10YR8/2	礫：軽石、粗砂：角閃石、白 色粒、黒色粒、透明粒、砂： 白色粒、黒色粒、透明粒、細 砂：白色粒、黒色粒、透明粒	3	外面：磨滅のため不明、内 面：ハケ（/）（\）、ハケ の始点あり	口径：7.1 cm、器高：5.5 cm、 底径：2.9 cm
159	D	攪乱	成川式	鉢	底	外面：浅黄橙 7.5YR8/4、 内面：浅黄橙 7.5YR8/6、 器肉：褐灰 7.5YR5/1	礫：なし、粗砂：黒色粒、砂： 黒色粒、透明粒、細砂：黒色 粒、透明粒	4	外面：指ナデ、内面：工具 によるナデ（\）（=）	底径：(2.3) cm、外面に黒 斑あり
160	D	攪乱	弥生～古 墳	ミニチ ユア	底	外面：橙 Hue5YR7/6、橙 Hue5YR6/6、 内面：にぶい赤褐 Hue5YR5/3、 器肉：にぶい橙 Hue5YR6/4	粗砂：黒色粒、砂：黒色粒、 透明粒、細砂：透明粒	2	外面：ユビオサエ、内面： 粘土の貼付け	口径：(2.6) cm、器高：4.0 cm、 底径：2.4 cm外面：黒斑あ り
161	D	I	須恵器	碗	口	外面：灰 N5/、 内面：灰 7.5Y5/1、 器肉：灰 N5/	砂：石英、細砂：石英、白色 粒、黒色粒	1	外面：回転ナデ、内面：ヨ コナデ	
162	D	攪乱	須恵器	甗	胴	外面：灰 7.5 Y 4/1、 内面：灰 7.5 Y 5/1、 器肉：紫灰 5 P 5/1	粗砂：白色粒、砂：白色粒、 黒色粒、細砂：石英、白色粒	3	外面：回転ナデ、波状沈線 文、内面：回転ナデ	
163	D	攪乱	須恵器	杯	蓋	外面：灰 10Y5/1、 内面：青灰 10BG5/1、 器肉外側：紫灰白 5RP6/1、 器肉内側：灰色 10Y5/1	礫：なし、粗砂：白色粒、砂： 白色粒、細砂：白色粒	2	外面：回転ヘラケズリ、内 面：回転ナデ	
164	D	攪乱	須恵器	甗	口	口縁部：灰 5 Y 6/1、 頸部：灰 N6/1、 内面：灰 7.5 Y 6/1、 器肉：暗赤灰 5 R 4/1	粗砂：白色粒、砂：白色粒、 細砂：石英	2	外面：回転ナデ、波状沈線 文、内面：回転ナデ	
168	D	攪乱	青磁	碗	口	釉：オリーブ灰 2.5GY6/1、 素地：灰 N6/0	細砂：白色粒、黒色粒、透明 粒	1	外面：ナデ（←）	中世、14～15世紀、中国 産

III 郡元団地K・L-5・6区（中央図書館増築地C～E地点）包含層出土遺物

Tab.15 遺物観察

No.	地点	層	種別	器種	部位	色調	胎土		調整	備考
							混和材	砂粒の 多さ		
169	D	攪乱	青磁	碗	口	釉：オリーブ灰 2.5GY6/1, 素地：灰 N6/0	粗砂：白色粒, 砂：白色粒, 細砂：白色粒, 黒色粒	1	ナデ (—)	中世, 14～15 世紀, 中国産
170	D	攪乱	青磁	碗	底	外面：オリーブ Hue5Y5/4, 内面：オリーブ Hue5Y5/4, 高台：オリーブ黄 Hue7.5Y6/3, 素地：浅黄 Hue2.5Y7/3,	砂：赤色粒, 細砂：黒色粒, 透明粒	1	回転ナデ	中世, 底径：(5.2) cm, 14～15 世紀, 中国産
171	D	攪乱	磁器	碗	口	釉：透明釉, 素地：Value9/0 白	細砂：白色粒?, 黒色粒	1	全面施釉, ロクロによる回 転ナデ (—)	近現代
172	D	攪乱	磁器	碗	口	釉：透明釉, 素地：灰白 10Y8/ に似る	細砂：黒色粒	1	全面施釉 (口縁端部のみ露 胎)	薩摩磁器端碗, 19 世紀へ, 染付
173	D	攪乱	磁器	碗	口	釉：透明釉 (多少灰色かかる), 素地：灰白色 (2.5GY8/1)	細砂：黒色粒	1	全面施釉	肥前・近世, 呉須による染 付 (鮮やかではない)
174	D	攪乱	磁器	皿	口	釉：透明釉, 素地：灰白 5Y8/2 に似る	細砂：黒色粒	1	全面施釉	肥前・近世, 染付
175	D	攪乱	磁器	碗	口	釉：透明釉, 素地：灰白 7.5Y8/	細砂：黒色粒	1	全面施釉	肥前・近世, 染付, 外面の み細かい貫入あり
176	D	攪乱	磁器	碗	胴	釉：透明釉, 素地：白 N9/0	細砂：白色粒, 黒色粒	1	施釉, 回転ナデ (—), 内面: 見込み付近一部露胎	肥前? 薩摩磁器? 呉須による 絵付, 内面：圏線 1 条? その他の線は模様か不明
177	D	攪乱	磁器	碗	底	釉：透明釉, 素地：白 Value9/	細砂：白色粒	1	回転ナデ, 高台部：露胎	近現代, 底径：(3.9) cm, 汚れ付着
178	D	攪乱	磁器	碗	底	釉：透明釉, 素地：Value8/ 灰白	細砂：白色粒	1	高台部：露胎	近代以降, 底径：(3.1) cm
179	D	攪乱	磁器	皿	底	釉：透明釉, 素地：灰白 7.5Y8/ より明るい	細砂：茶色粒	1	高台外面下部～高台内：無 釉	近代以降, 底径：(7.8) cm, 染付, 外面：二条圏線あり
180	E	攪乱	白磁	皿	挟入 高台	外面：灰白 5 Y 8/1, 内面：灰白 5 Y 8/1, 器肉：灰白 5 Y 8/1	砂：黒色粒, 細砂：白色粒, 黒色粒	1	ロクロによる回転ナデ (—), 外面：稜線 2 本	中世, 14 世紀後半～, 底径: 4.0 cm, 脚台内面中心が盛 り上がる
181	D	攪乱	磁器	底	底	釉：透明釉, 素地：灰白 2.5Y8/2	細砂：白色粒	1	ロクロによる回転ナデ (—), 全面施釉, 外面高台 部：露胎	明末～清初?, 両面に貫入 あり, 外面：呉須による絵 付, 高台付近：圏線 1 条?, 内面：圏線 1 条 (呉須)
182	D	攪乱	磁器	底	底	釉：透明釉, 素地：灰白 5Y8/1 より白っぽい	砂：黒色粒, 細砂：黒色粒, キラキラした粒	1	全面施釉	「長春富貴」?, 染付
183	D	攪乱	磁器	皿	呉須 底	釉：透明釉, 素地：灰白 N8/0	細砂：白色粒, 黒色粒	1	内外面：施釉, 底面内部: 無釉, 回転ナデ (—)	明末～清初, 外面：圏線 1 条, 内面：呉須による草花文の 絵付, 貫入あり
184	D	攪乱	磁器	急須?	口	釉：透明釉, 素地：灰白 N8/0	砂：黒色粒, 赤色粒, 細砂: 白色粒, 黒色粒	1	全面施釉, ロクロによる回 転ナデ (—), 外面：一部 割れあり	近代以降, 呉須による絵付 (模様は不明)
185	D	攪乱	陶器	口	口	釉：黒 7.5YR2/1, 素地：橙 5YR6/6	砂：白色粒, 黒色粒, 細砂: 白色粒, 黒色粒	1	外面のみ施釉, ロクロによ る回転ナデ (—)	加治木・始良系
186	D	攪乱	陶器	土瓶?	口	外面：灰白 5Y7/2, 内面：赤褐 5YR4/6, にぶい 赤褐 5YR5/4, 器肉：明赤褐 5YR5/6	礫：黒色粒, 粗砂：白色粒, 砂: 白色粒, 細砂：白色粒, 黒色 粒, 透明粒	2	外面：全体に施釉, 内面: ロクロによる回転ナデ, 施 釉	苗代川・18 c 後半～19 c
187	D	採集	陶器	小皿	口～ 底	釉薬：灰オリーブ類似 7.5Y4/2, 素地：灰黄褐 10YR5/2	砂：白色粒, 細砂:	1	全面：ロクロによる回転ナ デ, 内外面口唇部のみ施釉, 底部外面：糸切り痕あり	加治木・始良系, 底径：(4.8) cm, 底部内面に (目痕) 砂 目積みの砂粒付着 (10 mm 大 の物)
188	D	攪乱	陶器	皿	口	外面：灰黄褐 10YR6/2, 内面：黒褐 10YR3/2, 器肉：褐灰 10YR5/1	細砂：白色粒, 黒色粒	1	全面施釉, 内外面：ロクロ による回転ナデ	加治木・始良系
189	D	攪乱	陶器	底	底	外面：にぶい褐 7.5YR5/4, 内面：黒褐 10YR3/2, 灰白 5Y7/2, 底面：にぶい褐 7.5YR5/4, 器肉：明赤褐 5YR5/6	粗砂：赤色粒, 砂：白色粒, 黒色粒, 赤色粒, 細砂：白色 粒, 黒色粒, 透明粒	2	外面：ロクロによる回転ナ デ (—), 内面：ロクロによ る回転ナデ, 施釉, 底面: 糸切り痕?	苗代川・18 c 後半～19 c, 底径：(4.9) cm
190	D	攪乱	陶器	皿	底	外面：にぶい褐 7.5YR5/4, 内面：灰オリーブ 5Y5/2, 器肉：にぶい褐 7.5YR5/4	砂：黒色粒, 赤色粒, 細砂: 白色粒, 黒色粒, 赤色粒	1	外面：ナデ (—), 内面：施釉, 底面：糸切り痕	加治木・始良系
191	D	攪乱	陶器	蓋付碗	蓋	釉：灰オリーブ 7.5Y6/2, 素地：にぶい赤褐 5YR5/4	砂：白色粒, 黒色粒, 赤色粒, 細砂：白色粒, 黒色粒, 透明 粒	1	ロクロによる回転ナデ (—), 外面上部：施釉 (一 部分は無釉)	苗代川・18 c 後半～19 c, 径：12.7 cm (1/7 弱)
192	D	攪乱	陶器	土瓶	胴 (耳)	外面：褐 7.5YR4/3, 内面：にぶい褐 7.5YR5/3, 器肉：にぶい橙 5YR7/4	粗砂：白色粒, 黒色粒, 砂: 白色粒, 黒色粒, 細砂：白色 粒, 黒色粒	4	全面施釉, 内面：回転ナデ	苗代川・18 c 後半～19 c
193	D	攪乱	土師器	皿	底	外面：浅黄橙 7.5YR8/3, 内面：浅黄橙 10YR8/3, 底面：浅黄橙 10YR8/3, 器肉：にぶい黄橙 10YR7/4	粗砂：角閃石, 赤色粒, 砂: 黒色粒, 赤色粒, 細砂：黒色 粒, 透明粒, 赤色粒	2	内外面：回転ナデ, 底面: 糸きり底	底径：(6.4) cm, 12 世紀～
194	D	攪乱	土師器	皿	底	外面：灰黄褐 10YR6/2, 内面：にぶい黄褐 10YR7/3, 褐灰 10YR5/1, 底面：褐灰 10YR4/1, にぶ い黄橙 10YR7/3, 器肉：灰白 5Y7/1, 浅黄橙 10YR8/3	礫：灰色粒, 粗砂：赤色粒, 砂: 角閃石, 赤色粒, 細砂：黒色 粒, 透明粒	2	外面：ヨコナデ, 内面：回 転ナデ, 底面：糸きり底	内面と底面にスス付着?, 12 世紀～

Tab.16 遺物観察

No.	地点	層	種別	器種	部位	色調	胎土		調整	備考
							混和材	砂粒の 多さ		
195	D	II 2	入来Ⅱ式	甗	口縁部	外面：にぶい黄褐 10 YR 5/4, 内面：明褐 7.5 Y R 5/6, 器肉：褐 7.5 Y R 4/6	粗砂：角閃石, 白色粒, 黑色粒, 透明粒, 赤色粒, 茶色粒, 砂：角閃石, 白色粒, 黑色粒, 透明粒, 細砂：白色粒, 黑色粒, 透明粒	3	ナデ (—), ユビオサエ	全体的に鉄分付着
196	D	II 2	成川式	甗	口縁部	外面：灰黄 2.5Y7/2, 内面上部：暗灰黄 2.5Y5/2, 内面下部：にぶい橙 7.5YR6/4, 器肉：にぶい黄橙 10YR7/4	礫：灰色粒, 粗砂：角閃石, 黒曜石, 白色粒, 黑色粒, 砂：石英, 白色粒, 黑色粒, 細砂：石英	2	外面：刻み目突帯貼付け, 突帯より上：ヨコナデ, 突帯直下：強いヨコナデ, 突帯より下：ナデ (＼), 内面：口縁・口縁直下：ヨコナデ, 口縁より下：粗いハケ目 (＼) (一部ナデ)	成形：突帯貼付け→ヨコナデ→刻み目, スス付着
197	D	II 1	土師器	内黒碗	底部	外面：浅黄橙 Hue10YR8/4, 内面：黄灰 Hue2.5Y4/1	砂：赤色粒, 細砂：透明粒	1	回転ナデ	底径：4.9 cm, 「黒色土器 A 類」
198	D	II 2	土師器	碗	高台	外面：灰白 2.5Y8/2, 内面：灰白 2.5Y8/2, 器肉：灰白：2.5Y8/2	砂：黒色粒, 細砂：白色粒, 黑色粒	1	不明	破断面に接合線あり
199	D	II 2	青磁	碗	高台底部	釉：オリーブ灰 10 Y 5/2, 素地：灰白 N7/0, 淡黄 2.5 Y 8/3	砂：黒色粒, 細砂：白色粒, 黑色粒	1	施釉	中世, 14 世紀末～15 世紀中葉, 内面：草花文の文様あり, 底面：蛇の目釉剥ぎ (高台内面), 一部白濁?
200	D	II 2	青磁	碗	口縁部	釉：オリーブ灰 5GY6/1, 素地：灰白 7.5Y8/1	砂：黒色粒, 細砂：白色粒, 黑色粒	1	全面施釉, 丁寧なナデ (方向不明)	中世, 14 世紀末～15 世紀中葉
201	D	II 2	青磁	碗	口縁部	釉：オリーブ灰 10Y6/2, 素地：灰白 7.5Y8/1	細砂：白色粒, 黑色粒	1	全面施釉	中世, 14 世紀末～15 世紀中葉, 全体的に貫入あり
202	D	II 2	磁器	杯	口縁部～底部	釉：透明釉, 素地：灰白 7.5Y7/1	粗砂：黒色粒, 砂：白色粒, 黑色粒, 細砂：白色粒, 黑色粒	1	全面施釉, 一部底部に無釉あり, 丁寧なナデ (方向不明)	
203	D	II 1	磁器	碗	胴部～高台	釉：透明釉, 素地：灰白 N8/0	粗砂：黒色粒, 砂：黒色粒, 細砂：白色粒, 黑色粒	1	全面施釉	薩摩磁器端反碗・19 c 中～幕末, 底径：4.0 cm, 外面：呉須による絵付け (モチーフ不明), 胴部：圏線 1 条, 高台：圏線 2 条, 内底面：1 条の圏線, 中央部モチーフ不明, 魚か?
204	D	II 2	陶器	土瓶	口縁部	釉：灰オリーブ 5Y4/2, 素地：明褐灰 7.5YR7/2	粗砂：白色粒, 砂：白色粒, 細砂：白色粒, 黑色粒, 赤色粒	1	内外面：ロクロによる回転ナデ (—), 口唇部：一部無釉	苗代川系, 口径：(8.6) cm
205	D	II 2		土錘		にぶい黄橙 10YR7/2, にぶい橙 7.5YR6/4	砂：角閃石, 黑色粒, 細砂：白色粒, 黑色粒, 赤色粒	2	ナデ?	ひもズレあり, 最大径：3.75 cm, 長さ (幅)：1.8 cm, 重さ：12.8 g
206	D	III 2	東原式	甗	突帯	外面：灰 5Y5/1, にぶい黄橙 10YR6/4, 内面：にぶい橙類似 7.5YR7/4, 淡黄 2.5Y8/2, 器肉：淡黄 2.5Y8/2	粗砂：黒色粒, 赤色粒, 砂：黒色粒, 透明粒, 赤色粒, 細砂：黒色粒, 透明粒, 赤色粒	4	外面：ナデ (方向不明), ヨコナデ (—), 内面：ユビオサエ, ハケ (＼), ヨコナデ (＼)	刻み目突帯 (布目圧痕), 断面から内面にかけて接合痕あり
207	D	III	成川式	甗	突帯	外面：橙 Hue5YR7/6, にぶい褐 Hue7.5YR5/3, 内面：灰褐 Hue7.5YR4/2, 器肉：黄橙 Hue7.5YR7/8	砂：白色粒, 黑色粒, 透明粒, 赤色粒, 細砂：黒色粒, 透明粒	2	外面：ユビオサエ, ナデ (＼), つめ痕, 内面：工具によるナデ (＼)	絡縄突帯 1 条
208	D	III 2	成川式	甗	脚部	外面：橙 Hue5YR7/6, 内面：淡橙 Hue5YR8/4, 器肉：灰白：Hue10YR8/2	礫：軽石, 透明粒, 赤色粒, 粗砂：白色粒, 黑色粒, 透明粒, 砂：白色粒, 黑色粒, 透明粒, 赤色粒, 細砂：白色粒, 黑色粒, 透明粒	5	外面：ナデ (—), 打ち込み痕, 内面：ナデ (—), 工具によるナデ	破断面に接合線あり
209	D	III 2	須恵器	甗	口縁部	外面：黄灰 2.5Y6/1, 内面：灰白 2.5Y7/1, 器肉：灰白 2.5Y7/1	礫：軽石, 粗砂：白色粒, 黑色粒, 砂：白色粒, 黑色粒, 細砂：白色粒, 黑色粒	1	内外面：ロクロによる回転ナデ (—)	
210	D	IV	弥生中期	小型甗か鉢	口縁部	外面：灰黄褐 10YR4/2, 内面：灰黄褐 10YR4/2, 器肉：褐灰 10YR4/1 か?	粗砂：白色粒, 砂：白色粒, 黑色粒, 細砂：白色粒, 黑色粒, 透明粒	2	外面：ナデ (—), 内面：ユビオサエ, ナデ (—)	
211	D	IV	黒髪式	甗	口縁部	外面：浅黄橙 10YR8/4, 内面：灰白 10YR8/1 類似, 器肉：浅黄橙 10YR8/4	礫：石英, 粗砂：石英, 黑色粒, 砂：石英, 黑色粒, 細砂：黒色粒, 透明粒, 赤色粒	4	ナデ (—)	
212	D	IV	成川式	甗	口縁部	外面：にぶい黄橙 10YR7/3, 内面：にぶい橙 7.5YR7/3 類似, 器肉：灰白 10YR8/2 類似	粗砂：石英, 角閃石, 白色粒, 赤色粒, 砂：石英, 角閃石, 白色粒, 赤色粒, 細砂：白色粒, 黑色粒, 透明粒	2	ナデ (—)	外面：スス付着
213	D	IV	成川式	高杯	口縁部	外面：赤褐 2.5YR4/8, 内面：浅黄橙 10YR8/4, 器肉：浅黄橙 10YR8/4	細砂：黒色粒	1	外面：ミガキ (—) (＼) (＼), 内面：ナデ (—)	外面：赤色顔料塗布
214	D	IV	成川式	甗か壺	突帯	外面：灰白 10YR8/2, 内面：浅黄橙 7.5YR8/4 類似, 器肉：灰白 2.5Y8/2	粗砂：石英, 角閃石, 白色粒, 砂：石英, 角閃石, 白色粒, 細砂：白色粒, 黑色粒, 透明粒	3	外面：ハケ (＼), ナデ (—), 内面：ハケ (—) (＼)	外面：スス付着, 三角突帯 1 条
215	D	IV	弥生?	甗?	突帯	外面：にぶい橙 7.5YR7/3, 内面：浅黄橙 10YR8/3, 器肉：黄灰 2.5Y5/1	礫：白色粒, 粗砂：角閃石, 白色粒, 黑色粒, 赤色粒, 砂：石英, 角閃石, 白色粒, 黑色粒, 細砂：白色粒, 黑色粒, 透明粒	2	ユビオサエ, ナデ (—)	三角突帯 2 条 (現状)
216	D	IV	成川式	甗	突帯	外面：にぶい橙 7.5YR7/3 類似, 内面：灰白 10YR8/2, 明赤褐 2.5YR5/6, 器肉：灰白 2.5Y8/1 類似	粗砂：白色粒, 灰色粒, 砂：石英, 角閃石, 白色粒, 細砂：白色粒, 黑色粒, 透明粒	3	外面：ハケ (—), ユビオサエ, 内面：ナデ	外面：絡縄突帯 1 条, 内面：赤色顔料塗布 (内部に顔料が入っていたためか?), 突帯ウラが部分的に盛り上がる (ヒビ補修? など粘土を貼り付けたあとか?)
217	D	IV	成川式	甗?	突帯	外面：浅黄橙 10YR8/3, 内面：灰白 2.5Y6/1, 器肉：黄灰 2.5Y6/1	砂：石英, 角閃石, 細砂：白色粒, 黑色粒, 透明粒	2	外面：ナデ (—), 内面：ハケ (＼) →ナデ	外面：僅かにスス付着, 刻み目突帯 1 条

Tab.17 遺物観察

No.	地点	層	種別	器種	部位	色調	胎土		調整	備考
							混和材	砂粒の 多さ		
218	D	IV	成川式	甕	脚	外面：灰白 10 Y R 8/2, 胴部内面：浅黄橙 7.5 Y R 8/4, 脚台内部：浅黄橙 10 Y R 8/3, 器肉：褐灰 10 Y R 6/1	礫：白色粒, 黑色粒, 灰色粒, 粗砂：石英, 角閃石, 砂：白 色粒, 黑色粒, 透明粒, 細砂： 黑色粒, 透明粒	3	外面：ハケ() のちナデ (-), ユビオサエ, 胴部内 面：ハケ(/) ヨコ方向ナ デ, ユビオサエ	底径：10.4 cm
219	D	IV	成川式	甕か鉢	脚	外面：浅黄橙 10YR8/4 類似, 内面：灰白 2.5Y8/1, 器肉：灰白 2.5Y8/2	砂：黑色粒, 細砂：黑色粒, 透明粒	2	外面：摩滅により不明, 内 面：ハケ(-), ナデ(-)	底径：7.8 cm, 脚部端部が 赤変している
220	D	IV	成川式	壺	底	外面：にぶい黄橙 10 Y R 7/3, 内面：灰白 2.5 Y 7/1 類似, 器肉：灰白 2.5 Y 7/1 類似	粗砂：石英, 角閃石, 赤色粒, 砂：白色粒, 黑色粒, 透明粒, 赤色粒, 細砂：白色粒, 黑色 粒, 透明粒, 赤色粒	3	外面：板状工具によるナデ 上げのちナデ, 内面：ハケ (/) のちナデ, 底面：全 体的にナデ, 接地面以外は 荒いナデ	底径：5.9 cm
221	D	IV	成川式	壺	底	外面：にぶい橙 7.5YR7/4, 内面：浅黄橙 7.5YR8/4, 器肉：にぶい黄橙 10YR7/2	礫：白色粒, 灰色粒, 粗砂： 石英, 角閃石, 白色粒, 砂： 石英, 角閃石, 白色粒, 細砂： 白色粒, 黑色粒, 透明粒	3	外面：ユビオサエ, 内面： ハケ(/), ユビオサエ	外面：ユビオサエがかなり 凸凹している
222	D	IV	成川式	壺	底	外面：浅黄橙 10YR8/3, 内面：黄灰 2.5Y6/1 類似, 器肉：灰白 2.5Y7/1	礫：白色粒, 粗砂：石英, 角 閃石, 白色粒, 砂：石英, 角 閃石, 白色粒, 赤色粒, 細砂： 白色粒, 黑色粒, 透明粒		外面：ハケ(\), 内面： ユビナデ(), ユビオサエ, ナデ	底径：6.6 cm, 外面：剥落 している, スス付着
223	D	IV	成川式	埴	底	外面：橙 7.5YR6/6 類似, 内面：浅黄橙 7.5YR8/4, 器肉：黄灰 2.5Y7/2	粗砂：石英, 角閃石, 白色粒, 砂：石英, 角閃石, 白色粒, 細砂：白色粒, 黑色粒, 透明 粒	2	外面：ナデ, 内面：ハケの 始点, ハケ(), ナデ	底径：5.0 cm, 外面：黒斑 あり, 底面：若干上げ底
224	D	IV	成川式新	高杯	脚	外面：にぶい赤褐 2.5YR4/4, 内面：浅黄橙 10YR8/3, 器肉：にぶい黄橙 10YR7/4	砂：石英, 角閃石, 白色粒, 細砂：白色粒, 黑色粒, 透明 粒	2	外面：ハケ(\), ミガキ (-), 内面：欠損により不 明	接合痕あり, 外面：赤色顔 料塗布
225	D	IV	須恵器	大甕	口	外面：灰 N4/ と暗オリーブ 灰 2.5GY4/1 の中間色, 内面：灰白 N7/ 類似, 器肉：暗赤灰 5R4/1	粗砂：白色粒, 砂：白色粒, 細砂：白色粒, 黑色粒, 透明 粒	2	ロクロによる回転ナデ(-)	自然釉がかかる(内面は風 化が激しい), ヘラ状工具 による連続刺突文あり
226	D	V	黒髪式	甕?	口	外面：にぶい黄橙 10YR7/3, 内面：にぶい黄橙 10YR7/3, 器肉：灰白 10YR8/2	砂：石英, 角閃石, 赤色粒, 細砂：黑色粒, 透明粒	2	外面：ナデ(-), 内面： ハケ(/), ナデ(-)	
227	D	V	入来Ⅱ式	甕	口	外面：にぶい黄橙 10YR7/3, 内面：にぶい黄橙 10YR7/3, 器肉：褐灰 10YR6/1	粗砂：石英, 白色粒, 黑色粒, 砂：石英, 角閃石, 細砂：黒 色粒, 透明粒	3	ナデ(-)	
228	D	V	入来Ⅱ式	甕	口	外面：黄灰 2.5Y7/2 類似, 内面：黄灰 2.5Y7/2, 器肉：オリーブ黒 5Y3/1	礫：赤色粒, 粗砂：石英, 角 閃石, 白色粒, 赤色粒, 砂： 石英, 角閃石, 白色粒, 細砂： 白色粒, 黑色粒, 透明粒	4	外面：ユビオサエ, ナデ (-), 内面：ナデ	黒髪式との折衷型
229	D	V	入来 Ⅱ式?	甕	口	外面：にぶい橙 7.5YR7/4, 内面：橙 5YR7/6, 器肉：浅黄橙 10YR8/3	礫：白色粒, 粗砂：石英, 白 色粒, 黑色粒, 灰色粒, 砂： 石英, 角閃石, 白色粒, 赤色粒, 細砂：白色粒, 黑色粒, 透明 粒	3	外面：ナデ(-), 内面： ナデ(-), ユビオサエ	
230	D	V	笹貫式	甕	口	外面：にぶい橙 7.5YR7/4, 内面：浅黄橙 10YR8/3, 器肉：灰白 2.5Y8/2 類似	粗砂：赤色粒, 砂：石英, 角 閃石, 白色粒, 細砂：白色粒, 黑色粒	2	外面：ハケ, ナデ(-), 内面： ナデ(-)	
231	D	V	笹貫式	甕	口	外面：黄灰 2.5Y5/1, 内面：灰白 10YR8/2, 器肉：灰 5Y4/1 類似	礫：角閃石, 粗砂：石英, 砂： 石英, 角閃石, 白色粒, 細砂： 白色粒, 黑色粒, 透明粒	2	外面：ハケ(-) → (\), ユビナデ? 内面：ナデ(\)	三角突帯1条, スス付着
232	D	V	笹貫式	甕	口	外面：にぶい黄橙 10YR7/2, 黄灰 2.5Y4/1 (スス), 内面：灰白 10YR8/2, 器肉：灰白 10YR7/1	粗砂：石英, 赤色粒, 砂：石英, 角閃石, 細砂：黑色粒, 透明 粒	4	外面：ハケ(-) (), ユ ビオサエ, ナデ(-), 内面： ナデ(-)	外面：スス付着
233	D	V	成川式	甕	口	外面：浅黄橙 10YR8/3, 内面：にぶい黄橙 10YR7/3, 器肉：褐灰 10YR5/1	粗砂：石英, 角閃石, 白色粒, 黑色粒, 赤色粒, 砂：石英, 角閃石, 白色粒, 黑色粒, 赤 色粒, 細砂：白色粒, 黑色粒, 赤色粒	3	外面：ナデ(-), 内面： ユビオサエ, ハケ(-) (\)	外面：スス付着
234	D	V	成川式	突帯	突帯	外面：にぶい黄橙 10YR7/3, 内面：にぶい黄橙 10YR7/4, 器肉：灰 5Y5/1	砂：石英, 角閃石, 赤色粒, 細砂：黑色粒, 透明粒	4	外面：ハケ(\), 内面： ナデ(/)	絡縄突帯1条, 外面：スス 付着
235	D	V	成川式	甕	突帯	外面：黄灰 2.5Y7/2, 内面：灰白 2.5Y8/2, 器肉：黄灰 2.5Y6/1	礫：白色粒, 黑色粒, 灰色粒, 粗砂：石英, 角閃石, 白色粒, 灰色粒, 砂：石英, 角閃石, 白色粒, 細砂：黑色粒, 透明 粒	3	外面：ハケ(\), ナデ(\), 内面：ユビオサエ	絡縄突帯1条, 内面：剥落 している
236	D	V	成川式	甕	脚	外面：灰白 10YR8/1, 内面：灰白 10YR8/1, 器肉：褐灰 10YR5/1	粗砂：石英, 角閃石, 白色粒, 細砂：石英, 角閃石, 赤色粒	4	外面：ハケ? のちナデ, 内 面：ナデ	底径：8.4 cm
237	D	V	成川式	甕	脚	外面：浅黄橙 10YR8/3, 内面：にぶい橙 7.5YR7/4, 器肉：褐灰 10YR6/1	粗砂：角閃石, 白色粒, 赤色粒, 細砂：石英, 角閃石, 赤色粒	4	外面：ナデ, 内面：ナデ	底径：9.2 cm
238	D	V	成川式	甕か鉢	脚	外面：浅黄橙 10YR8/3, 内面：浅黄橙 7.5YR8/4, 器肉：灰 5Y5/1	粗砂：石英, 黑色粒, 砂：石英, 角閃石, 白色粒, 黑色粒, 細 砂：白色粒, 黑色粒, 透明粒	2	外面：ユビオサエ, ナデ (-), 内面：ハケ(/), ナデ(/)	底径：8.5 cm, 接合痕あり, 内面：黒斑あり

Ⅲ 郡元団地K・L-5・6区（中央図書館増築地C～E地点）包含層出土遺物

Tab.18 遺物観察

No.	地点	層	種別	器種	部位	色調	胎土		調整	備考
							混和材	砂粒の 多さ		
239	D	V	成川式	甗	脚	外面：灰白 10YR8/2, 内面：灰黄褐 10YR5/2, 器肉：褐灰 10YR6/1	礫：白色粒, 黒色粒, 粗砂： 石英, 白色粒, 細砂：石英, 角閃石, 白色粒	3	外面：ハケのちナデ, 内面： ナデ	接合線あり
240	D	V	成川式	甗	脚	外面：浅黄橙 10YR8/3, 内面：にぶい褐 7.5YR6/3, 器肉：明褐灰 7.5YR7/1	礫：黒色粒, 粗砂：石英, 角 閃石, 赤色粒, 細砂：石英, 角閃石	4	外面：ハケのちナデ, 内面： ハケのちナデ	内面：スス付着
241	D	V	成川式	甗	脚	外面：浅黄橙 7.5YR8/4, 内面：灰白 7.5YR8/2, 器肉：褐灰 10YR6/1	粗砂：石英, 角閃石, 白色粒, 細砂：石英, 角閃石, 白色粒	3	外面：ナデ, 内面：磨滅の ため不明	接合痕あり
242	D	V	成川式	甗	脚	外面：浅黄橙 10YR8/3, 内面：灰白 10YR8/2, 器肉：にぶい橙 7.5YR7/4	礫：白色粒, 黒色粒, 粗砂： 石英, 角閃石, 白色粒, 細砂： 石英, 角閃石, 白色粒	3	外面：ナデ, 内面：磨滅の ため不明	接合痕あり
243	D	V	成川式	甗	脚	外面：灰黄 2.5Y6/2, 内面：にぶい橙 7.5YR7/3, 器肉：にぶい橙 5YR7/4	礫：赤色粒, 粗砂：白色粒, 灰色粒, 砂：石英, 角閃石, 白色粒, 細砂：白色粒, 黒色 粒	2	外面：ユビオサエ, 胴部内 面：剥落のため不明, 脚部 内面：ユビオサエ, ナデ (一)	
244	D	V	成川式	甗	脚	外面：浅黄橙 7.5YR8/3, 内面：灰白 2.5Y8/1, 器肉：橙 2.5YR7/6, 接合部：にぶい橙 5YR7/3	粗砂：白色粒, 砂：角閃石, 白色粒, 黒色粒, 細砂：白色 粒, 黒色粒	2	摩滅のため不明	
245	D	V	中津野 式?	小型鉢 式?	脚	外面：にぶい橙 5YR6/4, 内面：にぶい橙 7.5YR7/4, 器肉：橙 5YR6/6	礫：灰色粒, 粗砂：石英, 白 色粒, 灰色粒, 砂：石英, 角 閃石, 白色粒, 細砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒	2	ハケ () のちヨコナデ	外面：黒斑あり
246	D	V	成川式	甗か鉢	脚	外面にぶい橙 7.5YR7/4, 内面：にぶい橙 7.5YR7/4, 器肉：灰白 10YR8/2	礫：白色粒, 灰色粒, 粗砂： 石英, 角閃石, 白色粒, 砂： 石英, 角閃石, 白色粒, 細砂： 黒色粒, 透明粒	2	ナデ (一)	
247	D	V	成川式	埴	頸	灰白 10YR8/2	砂：石英, 角閃石, 細砂：黒 色粒	2	外面：ナデ (＼), 内面： ケズリ (一) →ナデ (＼)	
248	D	V	弥生	壺	突帯	外面：橙 5YR7/6, 内面：にぶい橙 7.5YR7/4, 器肉：暗灰黄 2.5Y5/2	礫：白色粒, 灰色粒, 粗砂： 雲母, 白色粒, 灰色粒, 砂： 角閃石, 雲母, 白色粒, 灰色粒, 細砂：雲母, 白色粒, 黒色粒	4	外面：ナデ (一), 内面： ケズリ (一), ナデ	三角突帯2条（現存）, 接 合痕は確認できない, 雲母 を多量に含む
249	D	V	弥生	壺	突帯	外面：にぶい橙 5YR6/4, 内面：橙 5YR6/6, 器肉：にぶい橙 5YR6/4	粗砂：石英, 角閃石, 白色粒, 砂：石英, 角閃石, 白色粒, 細砂：白色粒, 黒色粒, 透明 粒	3	外面：ナデ (一) (＼), 内面： 剥落のため不明	刻目突帯1条, 突帯上部に 刺突痕あり, 偶発的につい たものか?
250	D	V	成川式	壺	突帯	外面：にぶい黄橙 10YR7/2 類似, 内面：にぶい褐 7.5YR6/3, 器肉：灰 5Y6/1	礫：白色粒, 粗砂：石英, 白 色粒, 黒色粒, 赤色粒, 砂： 石英, 白色粒, 黒色粒, 赤色 粒, 細砂：白色粒, 黒色粒	3	外面：ナデ (一), 内面： 剥落のため不明	壺の幅広突帯, 半裁竹管に よる刺突文
251	D	V	弥生	壺	底	外面：浅黄橙 10YR8/4, 内面：黄灰 2.5Y6/1, 器肉：黄灰 2.5Y5/1	粗砂：石英, 角閃石, 白色粒, 砂：石英, 角閃石, 白色粒, 細砂：白色粒, 黒色粒, 透明 粒	3	外面：ユビオサエ, ナデ (一), 内面：ハケ (一)	底径：5.1 cm
252	D	V	成川式	壺	底	外面：灰白 10YR8/2, 内面：灰白 10YR8/2, 器肉：黄灰 2.5Y5/1	粗砂：石英, 角閃石, 白色粒, 赤色粒, 砂：角閃石, 赤色粒, 細砂：黒色粒	4	外面：ハケ (＼), ユビオ サエ, 内面：ハケ (), ユビオサエ, ナデ (一)	底径：3.5 cm, 接合線あり
253	D	攪乱	成川式	壺	底	外面：黄灰 2.5Y6/1, 内面：にぶい黄橙 10YR7/2 類似, 器肉：灰黄褐色 10YR6/2	礫：角閃石, 白色粒, 赤色粒, 粗砂：石英, 角閃石, 白色粒, 砂：石英, 角閃石, 白色粒, 細砂：白色粒, 黒色粒, 透明 粒	3	外面：ハケ, 内面：ユビオ サエ, ユビナデ, ハケの始 点 (＼)	底径：5.2 cm, 外面：摩滅 している, 底面：一部黒斑 あり, 内面：赤色顔料塗布
254	D	V	成川式新	高杯	口	外面：赤 10R5/6, 内面：浅黄橙 7.5YR8/3 類似, 器肉：褐灰 10YR6/1	砂：角閃石, 赤色粒, 細砂： 黒色粒, 透明粒	1	外面：ミガキ (一), 内面： ハケ (一) (＼) (＼), ユ ビオサエ	外面：赤色顔料塗布
255	D	V	成川式新	高杯	口	外面：明赤褐 2.5YR5/6, 内面：浅黄橙 7.5YR8/3, 器肉：灰白 2.5Y7/1	砂：石英, 角閃石, 赤色粒, 細砂：白色粒, 黒色粒, 透明 粒	2	外面：ミガキ (一) (＼), 内面：ナデ (一)	外面：赤色顔料塗布
256	D	V	成川式新	高杯	胴	外面：橙 5YR7/6, 内面：浅黄橙 7.5YR8/4, 器肉：橙 5YR7/6	砂：白色粒, 黒色粒, 細砂： 白色粒, 黒色粒, 透明粒	1	外面：ミガキ (一), 内面： 丁寧なナデ	内面：黒斑あり
257	D	V	成川式新	高杯	胴	外面：にぶい赤褐 2.5YR4/4, 内面：浅黄橙 7.5YR8/4, 器肉：灰白 2.5Y8/1	粗砂：石英, 角閃石, 白色粒, 赤色粒, 砂：石英, 角閃石, 白色粒, 細砂：白色粒, 黒色 粒, 透明粒	3	やや摩滅しており不明	外面：赤色顔料塗布
258	D	V	成川式新	高杯	胴	外面：赤 10R5/6, 内面：灰白 10YR8/2, 器肉：黄灰 2.5Y6/1	礫：黒色粒, 粗砂：石英, 角 閃石, 砂：石英, 角閃石, 白 色粒, 赤色粒, 細砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒	3	外面：ミガキ (＼) (一), 丁寧なナデ, 内面：摩滅の ため不明	接合痕あり, 外面：赤色顔 料塗布
259	D	V	成川式新	高杯	脚	外面：明赤褐 2.5YR5/6, 内面：灰白 10YR7/1, 器肉：浅黄橙 10YR8/4	粗砂：白色粒, 細砂：石英, 角閃石	2	外面：ヨコ方向ミガキ, 内 面：ナデ	底径：(10.9) + α cm, 接合 痕あり, 外面：赤色顔料塗 布
260	D	V	成川式新	高杯	脚	外面：橙 2.5YR6/6, 内面：にぶい黄橙 10YR7/4, 器肉：褐灰 10YR6/1	細砂：石英, 角閃石	1	外面：ミガキ, 内面：ナデ	外面：赤色顔料塗布
261	D	V	成川式新	高杯	脚	外面：明赤褐 2.5YR5/6, 内面：褐灰 10YR6/1, 器肉：浅黄橙 10YR8/3	粗砂：白色粒, 細砂：石英, 角閃石, 白色粒, 赤色粒	2	外面：ミガキ (一) (＼) (＼), 内面：ナデ	底径：(10.0) cm, 外面：赤 色顔料塗布, 内面：つめ痕? あり
262	D	V	成川式新	高杯	脚	外面：明赤褐 2.5YR5/6, 内面：褐灰 10YR6/1, 器肉：褐灰 10YR6/1	細砂：石英, 角閃石, 白色粒	1	外面：ミガキ, 内面：ナデ	外面：赤色顔料塗布

Tab.19 遺物観察

No.	地点	層	種別	器種	部位	色調	胎土		調整	備考	
							混和材	砂粒の 多さ			
263	D	V	成川式新	高杯	口	外面：明赤褐 Hue2.5YR5/6, 内面：橙 Hue2.5YR6/6, 器肉：淡黄 Hue2.5YR8/3	細砂：黒色粒，透明粒	1	外面：ミガキ，ナデ（―）， 内面：ミガキ	内・外面：赤色顔料塗布	
264	D	V	土師器	碗	高台	浅黄橙 7.5YR8/3 類似	砂：黒色粒，赤色粒，細砂： 黒色粒，透明粒	2	丁寧なナデ（―）	高台直径：6.8 cm	
265	D	V	成川式？	甌	底	外面：灰白 10YR8/1 類似， 内面：灰白 10YR8/2， 器肉：黄灰 2.5Y5/1	礫：灰色粒，砂：石英，角閃 石，細砂：黒色粒，透明粒	2	外面：ハケ（―）（\）， ユビオサエ，ナデ，内面：ケ ズリ（―），ナデ（―）	底部径：8.4 cm，胎土が粉 っぽい，把手のないタイプ の甌に似る	
267	E		攪乱	成川式	甕	口	外面：灰黄褐 10YR5/2， 内面：にぶい黄褐 10YR5/4， 器肉：黄灰 2.5Y4/1	礫：白色粒，粗砂：角閃石， 白色粒，砂：白色粒，黒色粒， 赤色粒，細砂：白色粒，黒色 粒，透明粒	2	外面：ハケ（\），（ ），内面： ユビオサエ，ヨコ方向ナデ （―）	
268	E		攪乱	笹貫式	甕	口	外面：にぶい橙 5YR6/4，褐 灰 10YR4/1， 内面：にぶい黄橙 10YR7/3， 器肉：にぶい黄橙 10YR7/3， 橙 5YR6/6	礫：白色粒，黒色粒，粗砂： 角閃石，白色粒，透明粒，砂： 白色粒，黒色粒，透明粒，細 砂：白色粒，黒色粒，透明粒	4	外面：ナデ（―），丁寧な ナデ（方向不明），砂粒の 動き（←），内面：丁寧な ナデ（方向不明），ハケ（\）， ハケの始点	笹貫式，刻目突帯一条
269	E		表層	土師器	杯	外面：浅黄橙 Hue10YR8/3， 内面：浅黄橙 Hue10YR8/4	砂：黒色粒，赤色粒，細砂： 黒色粒，透明粒	1	摩滅のため不明		
270	E		表層	成川式新	高杯	脚	外面：明赤褐 2.5YR， 内面：不明， 器肉外面側：浅黄橙 10YR8/4， 器肉内面側：灰 5Y5/1	粗砂：黒色粒，灰色粒，砂： 石英，角閃石，白色粒，黒色 粒，細砂：石英，白色粒	2	外面：ヨコ方向ミガキ，内 面：摩滅が激しい，ハケの 始点あり，ハケ（\），口 唇部：ヨコ方向ミガキ？	外面～口唇部：赤色顔料塗 布
271	E		攪乱	成川式新	高杯	脚	外面：にぶい赤褐 5YR5/4， 内面：灰白 2.5Y8/2， 器肉：橙 7.5YR7/6，灰白 2.5Y8/2，灰 5Y6/1	砂：黒色粒，赤色粒，細砂： 白色粒，黒色粒，赤色粒	1	外面：ミガキ（方向不明）， 内面：ナデ（方向不明）	外面：赤色顔料塗布
272	E	1	磁器	皿	口	釉：透明釉，素地：白 N9/0	細砂：白色粒，黒色粒	1	全面施釉，ヨコナデ	肥前・近世，外面：圏線 1 条， 内面：圏線 2 条か 3 条，呉 須による絵付（モチーフ不 明）	
273	E	2	磁器	皿	底	釉：透明釉， 素地：灰白 10Y8/ に似る	砂：白色粒，細砂：黒色粒， キラキラ粒	1	高台：一部無釉	明末～清初，底径：(8.0) cm， 高台内面に砂粒多し	
274	E		表層	磁器	底	釉：透明釉， 素地：灰白 2.5 Y 8/2	細砂：白色粒，黒色粒	1	全面施釉，高台部露胎	明末～清初，外面・上面： 呉須による絵付（モチーフ 不明）	
275	E	2	成川式？	壺	底	外面：灰白 Hue10YR8/2， 内面：黄橙 Hue10YR8/6， 器肉：灰黄 Hue2.5Y7/2	砂：白色粒，黒色粒，透明粒， 赤色粒，細砂：黒色粒，透明 粒	1	外面：工具の後摩滅のため 不明，内面：ハケ，工具が あたってた痕あり	底径：5.7 cm	
276	E	2	成川式	埴	底	外面：にぶい橙 Hue7.5YR7/3， 内面：にぶい橙 Hue7.5YR7/6， 器肉：明褐灰 Hue7.5YR7/2	細砂：透明粒	1	外面：摩滅のため不明，内 面：粘土の貼り付け	底径：(3.6) cm	
277	E	2	成川式	高杯	脚	外面：灰白 Hue10YR8/2， 内面：にぶい黄橙 Hue10YR6/4， 器肉：褐灰 Hue10YR5/1	砂：黒色粒，透明粒，細砂： 黒色粒，透明粒	1	摩滅のため不明		
278	E	2	青磁	碗	口	釉：透明釉， 素地：灰白 N7/6	砂：白色粒，黒色粒，細砂： 白色粒，黒色粒	1	全面施釉，ロクロによる回 転ナデ	中世，14～15 世紀，細か な貫入あり	
279	E	2	青磁	碗	底	釉：オリーブ灰 10Y6/2， 素地：灰白 5Y7/1	砂：黒色粒，細砂：黒色粒	1	全面施釉	全体的に貫入あり	
280	E	2	磁器	碗	口	釉：透明釉， 素地：灰白 7.5Y8/	砂：白色粒，茶色粒，細砂： 白色粒	1	全面施釉	明末～清初	
281	E	2	磁器	碗	口	釉：透明釉， 素地：灰白 10Y8/ に似る	細砂：黒色粒	1	全面施釉	薩摩磁器，内外面に貫入あ り	
282	E	2	磁器	碗	口	釉：透明釉（少し青みがかかる）， 素地：灰白 7.5Y8/ に似る	砂：茶色粒，細砂：黒色粒， 茶色粒，キラキラ粒	1	全面施釉	明末～清初，口縁のみ釉厚 め	
283	E	2	磁器	碗	口縁 部	釉：透明釉， 素地：灰白 7.5Y8/ より白	細砂：黒色粒，茶色粒	1	全面施釉	肥前・近世	
284	E	2	磁器	皿	口縁 部	釉：透明釉（灰色がかかる）， 素地：灰白 7.5Y8/	細砂：黒色粒，茶色粒，キラ キラ粒	1	全面施釉	肥前・近世	
285	E	2	磁器	碗	口縁 部	釉：透明釉， 素地：灰白 7.5Y7/1	砂：白色粒，細砂：白色粒， 黒色粒	1	全面施釉，ロクロによる回 転ナデ（―）	肥前・近世，呉須による絵 付，外面：口縁直下に圏線 2 条（かなり薄い），内面： 口縁直下に圏線 4 条	
286	E	2	磁器	皿？	口縁 部	釉：透明釉，素地：灰白 8/0		1	全面施釉	明末～清初	
287	E	2	磁器		口縁 部	釉：透明釉， 素地：灰白 5Y7/1	砂：白色粒，黒色粒，細砂： 白色粒，黒色粒	1	全面施釉，ロクロによる回 転ナデ（―）	呉須による染付（絵柄不明）	
288	E	2	磁器	皿	口縁 部	釉：透明釉， 素地：灰白類似 Hue7.5Y8/1		1	全面施釉		
289	E	2	磁器	碗	高台	釉：透明釉， 素地：灰白 N8/0	粗砂：黒色粒，砂：白色粒， 黒色粒，細砂：白色粒，黒色粒	1	回転ナデ（―），施釉，畳 付のみ露胎，内面見込み露 胎	肥前・近世，外面高台に三 条の圏線あり，高台畳付・ 内面見込み：露胎のため砂 粒付着	
290	E	2	磁器	碗	口縁 部	釉：灰白 7.5Y8/1， 素地：透明	砂：黒色粒，細砂：白色粒， 黒色粒	1	全面施釉，回転ナデ（―）		
291	E	2	陶器	深鉢	口縁 部	釉：褐灰 7.5YR4/1（不透明釉）， 灰白 5Y7/2（白濁した釉）， 素地：黒 5Y2/1	粗砂：白色粒，砂：白色粒， 黒色粒，細砂：白色粒，黒色 粒	2	内外面：ロクロによる回転 ナデ（―），白濁した釉付 着施釉，口縁部上面に沿っ てかきとった痕あり，口唇 部：一部無釉	苗代川 18～19 c	
292	E	2	陶器	鉢	口縁 部	外面：黒 Value1.5/0， 内面：黒 Value1.5/0， 口縁部上面：黒 Value2/0， 器肉：灰 Value6/0	粗砂：白色粒，赤色粒，砂： 白色粒，細砂：白色粒，透明 粒	1	内外面：施釉，口縁部上面： 一部施釉，あとはふき取っ てある	苗代川 18～19 c	

Tab.20 遺物観察

No.	地点	層	種別	器種	部位	色調	胎土		調整	備考
							混和材	砂粒の 多さ		
293	E	2	陶器	鉢	口縁部	釉:黒褐 7.5YR3/2 (不透明釉), 素地:黒 N15/0, 赤褐 5YR4/8	粗砂:白色粒, 赤色粒, 砂: 白色粒, 赤色粒, 細砂:白色 粒, 赤色粒	2	内外面:ロクロによる回転 ナデ(一), 外面:施釉, ヨコナデ(一), 内面:施釉, 一部無釉(拭き取ったもの か?), 口縁部上面:釉を 拭き取った?	
294	E	2	近世	小壺	口縁部	釉:透明釉, 素地:暗褐 10YR3/3	細砂:白色粒, 黒色粒	1	ロクロによる回転ナデ (一), 全面施釉, 口唇部上 部のみふき取ってある	苗代川・18～19 c, 全体 的に釉が白濁している
295	E	2	陶器	碗	高台	釉:灰白類似 10Y8/1, 素地:明赤褐 2.5YR5/6	砂:黒色粒, 赤色粒, 細砂: 白色粒, 黒色粒, 赤色粒	1	回転ナデ(一), 外面一部 施釉	加治木・始良系・18 c 後半 ～, 底径:(6.0) cm, 外面: 白濁した釉が付着している
296	E	2	陶器	碗	高台	釉:褐灰 5YR5/1 (不透明釉), 素地:橙 5YR6/6	粗砂:白色粒, 砂:白色粒, 細砂:白色粒, 黒色粒, 赤色 粒	1	外面:施釉(一部無釉の箇 所あり), 内面:口縁部付 近施釉, 回転ナデ(一)	加治木・始良系・18 c 後半 ～, 底径:(4.7) cm
297	E	2	須恵質	坏か碗	高台	外面:灰 N5/0, 内面:灰 N6/0, 器肉:灰白 N7/0	粗砂:白色粒, 砂:白色粒, 細砂:白色粒, 黒色粒	1	回転ナデ(一)	接合線あり
298	E	2	陶器	皿	底部	釉:暗褐色類似 7.5YR3/4, 素地:にぶい橙 5YR6/4	粗砂:白色粒, 砂:白色粒, 細砂:白色粒, 黒色粒, 赤色 粒	1	外面底部:糸切り痕, 内面: ロクロによる回転ナデ, 全 面施釉, 一部外面上部に釉 が垂れる	加治木・始良系・18 c 後半 ～, 底径:(5.0) cm, 内底 面に(目痕)砂目積みの砂 粒(8mm大)が付着してい る
299	E	2	陶器	皿	底部	外面:灰褐 7.5YR5/2, 外面底部:褐 7.5YR4/3, 内面:褐 5YR4/3, 器肉:褐 7.5YR4/3	砂:白色粒, 黒色粒, 赤色粒, 細砂:白色粒, 黒色粒	1	ナデ(方向不明), 素地のみ, 外面底部:糸切り痕あり	底径:(5.7) cm, 内底面: 白濁した釉葉の付着あり
300	E	2	陶器	皿	底部	外面:にぶい褐 7.5YR5/3, 内面:橙 5YR6/6, 器肉:にぶい橙 5YR6/4	砂:白色粒, 黒色粒, 赤色粒, 細砂:白色粒, 黒色粒, 赤色 粒	1	内外面:回転ナデ(一), 底面:糸切り痕	加治木・始良系・18 c 後半 ～, 底径:(4.5) cm, 底面 の糸切り痕は無理に外した 感じがする
301	E	2	陶器	蓋		釉:透明釉, 素地:灰黄褐 10YR5/2	砂:黒色粒, 細砂:白色粒, 黒色粒	1	全面施釉, ロクロによる回 転ナデ(一)	龍門司・白化粘土
302	E	2	陶器	土瓶	蓋	釉:黒褐 7.5YR2/2 (外面上部), 素地:にぶい黄橙 10YR7/2	細砂:白色粒, 黒色粒	1	ロクロによる回転ナデ, 外 面全部と外面口唇部付 近まで施釉	最大径:(6.5) cm, 苗代川
303	E	2	近代?	急須	把手	釉:オリーブ黒 7.5 Y 3/1, 素地:赤褐 5 Y R 4/6	粗砂:白色粒, 砂:白色粒, 黒色粒, 茶色粒, 細砂:白色 粒, 黒色粒	2	全面施釉, 内外面とも白濁, 外面:ユビオサエ	苗代川, 18～19 c, 内面 に接合痕あり
304	E	2b	成川式	甕か鉢	胴部	外面:橙 Hue5YR6/8, 橙 Hue7.5YR7/6, 内面:浅黄橙 Hue10YR8/4, 器肉:灰白 Hue2.5Y8/2	粗砂:透明粒, 砂:角閃石, 白色粒, 黒色粒, 透明粒, 細 砂:黒色粒, 透明粒	5	外面:ナデ(＼), 内面: 摩滅のため不明瞭, 脚台内 部:あて具痕	
305	E	2b	磁器	碗	口	釉:透明釉, 素地:灰白 5Y8/1	細砂:白色粒, 黒色粒	1	全面施釉	明末～清初, 外面:呉須に よる絵付け(模様は不明), 内・外面:口縁直下に圈線 2条
306	E	2b	青磁	皿	口	釉:オリーブ灰 10 Y 6/2, 素地:灰白 2.5 Y 8/1	細砂:白色粒, 黒色粒	1	全面施釉	中世, 14世紀末～15世紀 中葉, 稜花皿, 全体に貫入 あり, 外面:白濁している, 内面:モチーフ不明模様あり
307	E	2b	土錘			にぶい黄橙 Hue10YR6/4	粗砂:白色粒, 黒色粒, 砂: 黒色粒, 透明粒, 細砂:黒色 粒, 透明粒			ひもズレ, 黒斑あり, 長さ: 3.95 cm, 最大径:1.8 cm, 重さ: 11.6 g
308	E	2b	土錘			明赤褐 Hue5YR5/6	砂:白色粒, 黒色粒, 細砂: 透明粒			ひもズレあり, 最大径:1.7 cm, 長さ:3.9 cm, 重さ: 12.1 g
309	E	3	中津野式 ～東原式	甕	口	外面:にぶい黄橙 10YR7/4, 内面:浅黄 2.5Y7/3, 器肉: 2.5Y7/3	礫:白色粒, 赤色粒, 灰色粒, 粗砂:白色粒, 黒色粒, 赤色 粒, 灰色粒, 砂:白色粒, 黒 色粒, 赤色粒, 灰色粒, 細砂: 白色粒, 黒色粒, 赤色粒	4	外面:ハケ(＼), ヨコナ デ(一), 丁寧なナデ(方 向不明), 内面:ナデ?(鉄 分付着のため方向不明)	
310	E	3	成川式	甕	胴	外面:橙 5YR6/6, 内面:灰黄 2.5Y7/2, 脚部:にぶい橙 7.5YR7/4, 器肉:橙 2.5YR6/6, 灰白類 似 2.5YR8/2	礫:透明粒, 赤色粒, 茶色粒, 粗砂:黒色粒, 透明粒, 赤色 粒, 砂:白色粒, 黒色粒, 透 明粒, 赤色粒, 細砂:白色粒, 黒色粒, 透明粒, 赤色粒	3	外面:ナデ(＼)(一), ユ ビオサエ, ツメ痕, 内面: ナデ(鉄分付着のため方向 不明), 脚部:ナデ(＼)	胴径:6.15 cm
311	E	3	土師器	内黒碗	底	外面:明黄褐 Hue10YR7/6, 内面:黒 Hue5Y2/1, 底:灰白 Hue10YR8/2	細砂:透明粒	1	外面:回転ナデ, 内面:鉄 分付着	「黒色土器 A 類」
312	E	3	陶器	鉢	口	釉:黒 Value2/0 (自然釉), 素地:灰 Value6/0	礫:白色粒, 黒色粒, 粗砂: 白色粒, 黒色粒, 砂:白色粒, 細砂:白色粒, 黒色粒, 透明 粒	2	内外面:回転ナデ(一), 外面:口縁部に施釉	東播系, 内面:一部に釉付 着あり
313	E	4a	弥生中期	甕	口	外面:にぶい橙 7.5YR6/4, 灰黄褐 10YR4/2, 内面:にぶい黄褐 10YR5/4, 器肉:褐灰 10YR6/1	礫:白色粒, 粗砂:白色粒, 黒色粒, 黄色粒, 砂:白色粒, 黒色粒, 赤色粒, 細砂:白色 粒, 黒色粒, 透明粒	2	外面:ロクロによる回転ナ デ(一), ハケの始点(一), 内面:ユビオサエ, ヨコナ デ(一)	
314	E	4a	黒髪式	甕	口	外面:黄褐 10YR5/6, 内面:橙 7.5YR6/6, 器肉:黄灰 2.5Y5/1	粗砂:角閃石, 白色粒, 黒色 粒, 黄色粒, 砂:角閃石, 白 色粒, 赤色粒, 細砂:白色粒, 黒色粒, 透明粒, 赤色粒	2	ヨコナデ(一)	
315	E	4a	入来Ⅱ式	甕	口	外面:灰 5Y4/1, にぶい黄 橙 10YR6/4, 内面:浅黄橙 10YR8/3, 器肉:淡黄橙 10YR8/3	礫:黒色粒, 赤色粒, 粗砂: 白色粒, 黒色粒, 赤色粒, 砂: 白色粒, 黒色粒, 赤色粒, 細 砂:白色粒, 黒色粒, 赤色粒	4	ナデ(方向不明)	

Ⅲ 郡元団地K・L-5・6区（中央図書館増築地C～E地点）包含層出土遺物

Tab.21 遺物観察

No.	地点	層	種別	器種	部位	色調	胎土		調整	備考
							混和材	砂粒の 多さ		
316	E	4a	弥生中期	甕	口	外面：にぶい橙 7.5YR6/4, 内面：にぶい橙 7.5YR7/4, 器肉：にぶい黄橙 10YR7/3	礫：白色粒, 黒色粒, 粗砂： 白色粒, 黒色粒, 透明粒, 砂： 白色粒, 黒色粒, 透明粒, 細 砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒	2	ヨコナデ（一）	内面に接合痕（？）あり
317	E	4a	須玖Ⅱ式	高杯	口	外面：明赤褐 2.5YR5/8, 橙 5YR6/8, 内面：5YR6/6	礫：白色粒, 粗砂：白色粒, 砂： 白色粒, 黒色粒, 細砂：白色 粒, 黒色粒	2	ナデのちミガキ（方向不明）	外面：赤色顔料付着
318	E	4a	弥生後期	甕	口	外面：灰黄褐 10YR4/2, 内面：にぶい黄褐 10YR5/4, 器肉：オリーブ黒 5Y1/3, 明褐 7.5YR5/6	礫：赤色粒, 粗砂：白色粒, 黒色粒, 砂：白色粒, 黒色粒, 細砂：白色粒, 黒色粒, 透明 粒	2	外面：ハケ工具によるナデ （一）、ハケの始点, 内面： ヨコナデ（一）	
319	E	4a	成川式	甕	口	外面：にぶい黄橙 10YR7/3, 黄灰 2.5Y4/1, 内面：にぶい黄橙 10YR7/4, 器肉：浅黄橙 10YR8/4	粗砂：角閃石, 白色粒, 透明 粒, 赤色粒, 砂：白色粒, 黒 色粒, 透明粒, 細砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒	2	ヨコナデ（一）	外面：スス付着
320	E	4a	成川式	甕	口	外面：にぶい黄橙 10YR7/4, 内面：橙 7.5YR6/6, 器肉：浅黄橙 10YR8/3	粗砂：黒色粒, 透明粒, 砂： 白色粒, 黒色粒, 細砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒, 赤色粒	1	外面：ヨコナデ（一）、丁 寧なナデ（方向不明）、内面： ヨコナデ（一）	外面：三角突帯（？）あり、 内面：鉄分付着のためか汚 い
321	E	4a	笹貫式	甕	口	外面：にぶい黄橙 10YR7/4, 灰 5Y5/1, 内面：にぶい黄橙 10YR7/3, 器肉：灰白 5Y7/1	粗砂：白色粒, 砂：白色粒, 細砂：白色粒, 黒色粒, 透明 粒	2	外面：ナデ（\）、内面： ユビオサエ, 丁寧なナデ（方 向不明）	口唇部が歪んでいる、外面： 刻目突帯一条, 黒斑あり
322	E	4a	成川式新	甕	口	外面：にぶい黄橙 10YR7/4, 内面：浅黄橙 10YR8/3, 器肉：浅黄橙 10YR8/3	礫：赤色粒（5mm大）、粗砂： 軽石, 白色粒, 黒色粒, 透明 粒, 砂：白色粒, 黒色粒, 透 明粒, 赤色粒, 細砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒, 赤色粒	4	ナデ（方向不明）	
323	E	4a	成川式新	甕	突帯	外面：灰黄褐 10YR4/2, 内面：橙：7.5YR7/6, 器肉：淡黄 2.5Y8/3	礫：白色粒, 透明粒, 茶色粒, 粗砂：角閃石, 白色粒, 透明 粒, 砂：白色粒, 黒色粒, 細 砂：白色粒, 黒色粒	2	外面：ナデ（方向不明）、 内面：ハケ（/）のちナデ （\）	外面に刻目突帯一条
324	E	4a	弥生中期	甕	脚	外面：浅黄橙 Hue10YR8/4, 内面：橙 Hue7.5YR6/6, 器肉：橙 Hue5YR6/8	粗砂：黒色粒, 透明粒, 砂： 白色粒, 黒色粒, 透明粒, 細 砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒	3	外面：ハケの始点, ナデ （↑）、内面：ナデ	底径：6.6 cm
325	E	4a	弥生後期	小型甕 か鉢	底	外面：明褐 Hue7.5YR5/6, 内面：黄橙 Hue7.5YR7/8, 器肉・脚台内：鉄分付着のため 不明	礫：透明粒, 砂：白色粒, 透 明粒, 細砂：白色粒, 透明粒	2	鉄分付着のため不明	底径：(5.2) cm
326	E	4a	成川式	甕	脚	外面：橙 Hue7.5YR7/6, 内面：橙 Hue7.5YR6/8, 器肉：橙 Hue5YR7/8, 暗灰 黄 Hue2.5Y4/2	砂：角閃石, 黒色粒, 透明粒, 赤色粒, 細砂：黒色粒, 透明 粒	5	外面：ナデ（一）、内面： 摩滅のため不明, 脚台内面： 鉄分付着のため不明	
327	E	4a	成川式	甕	脚	外面：橙 Hue2.5YR7/8, 内面：橙 Hue2.5YR6/8, 脚台内部：暗灰黄 Hue2.5YR5/2, 器肉：赤灰 Hue2.5YR5/1	礫：軽石, 白色粒, 粗砂：白 色粒, 砂：角閃石, 白色粒, 黒色粒, 細砂：白色粒, 黒色 粒, 透明粒	5	外面：ナデ（一）、内面： ナデ（?）、脚台内部：工 具後? ツメ痕あり, ナデ （一）	
328	E	4a	成川式	甕	脚	外面：橙 5YR6/6, 灰白 2.5Y8/2, 内面：浅黄橙 10YR8/3, 器肉：灰白 2.5Y8/2	礫：黒色粒, 粗砂：白色粒, 黒色粒, 砂：角閃石, 白色粒, 黒色粒, 赤色粒, 細砂：白色 粒, 黒色粒	3	外面：ヨコ方向ハケ（/）、 ヨコナデ（一）、内面：ヨ コ方向ナデ（一）	外面：赤色箇所は二次的火 熱とみられる
329	E	4a	中津野 式?	鉢か高 杯	口	外面：にぶい黄橙 10YR7/4, 内面：オリーブ黒 7.5Y3/1, 器肉：灰 5Y5/1		2	外面：ヨコ方向ナデ, ユビ オサエ, 内面：ヨコナデ（一）	
330	E	4a	弥生	壺	突帯	外面：にぶい橙 Hue7.5YR7/4, 内面：橙 Hue7.5YR6/6, 器肉：褐灰 Hue7.5YR6/1	砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒, 細砂：白色粒, 黒色粒, 透明 粒	2	外面：ナデ（一）、内面： ナデ（?）	刻目多条突帯3条
331	E	4a	弥生	突帯	突帯	外面：褐灰 10YR4/1 類似, 内面：暗灰黄 2.5Y4/2 類似, 器肉：にぶい黄褐 10YR5/4 類似	礫：灰色粒, 粗砂：石英, 白 色粒, 砂：石英, 角閃石, 白 色粒, 細砂：黒色粒, 透明粒		外面：ツメ痕, ナデ（ ）, 内面：ナデ, ハケ	No.1390, 三角貼付突帯3条 （上下に明瞭な指頭痕あり）
332	E	2,3,4a	成川式	壺	突帯	外面：明褐 Hue7.5YR5/6, 内面：橙 Hue7.5YR7/6, に ぶい黄橙 Hue10YR7/4, 器肉：橙 Hue7.5YR7/6, 橙 Hue7.5YR6/8	砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒, 細砂：白色粒, 黒色粒, 透明 粒	2	外面：ツメ痕, 内面：ナデ	刻目突帯1条, 摩滅してい る, No.523,529,680,758.? の 5個を接合
333	E	4a	成川式新	突帯	突帯	外面：にぶい黄橙 10YR6/3, 内面：にぶい黄橙 10YR7/3, 器肉：褐灰 10YR5/1	礫：白色粒, 黄色粒, 粗砂： 白色粒, 赤色粒, 砂：白色粒, 黒色粒, 赤色粒, 細砂：白色 粒, 黒色粒	4	外面：ナデ, ヨコナデ（一）、 内面：ナデ, ハケ（\）	外面：肩部に幅広突帯1条, 竹管文を施す（竹管径0.9 cm）（内径0.45cm）、内面： ナデ
334	E	4a	中津野式	壺	底	外面：浅黄橙 Hue7.5YR8/6, 内面：橙 Hue5YR7/6, 器肉：にぶい黄橙 Hue10YR7/2	粗砂：赤色粒, 砂：白色粒, 透明粒, 赤色粒, 細砂：白色 粒, 黒色粒, 透明粒	2	外面：ナデ（\）、内面： ハケの始点, ナデ（↑）	底径：5.5 cm, 外面に黒斑 あり
335	E	4a	成川式新	埴	底	外面：橙 Hue7.5YR7/6, 内面：浅黄橙 Hue7.5YR8/6, 器肉：にぶい褐色 Hue7.5YR5/3	礫：赤色粒, 砂：白色粒, 黒 色粒, 透明粒, 赤色粒, 細砂： 白色粒, 黒色粒, 透明粒	2	外面：指?か板状のもので ナデ上げ, 内面：磨滅のため 不明	底径：(5.6) cm

Tab.22 遺物観察

No.	地点	層	種別	器種	部位	色調	胎土		調整	備考
							混和材	砂粒の 多さ		
336	E	4a	弥生?	壺	底	外面：にぶい橙 Hue7.5YR7/4, 内面：不明, 器肉：にぶい黄橙 Hue10YR7/4	粗砂：白色粒, 透明粒, 砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒, 細砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒	2	外面：ナデ, ハケの始点あり, 内面：鉄分付着により不明	底径：(3.0) cm, 底部から黒斑あり
337	E	4a	弥生～古墳	ミニチュア	底	外面：浅黄橙 Hue7.5YR8/6, 内面：にぶい橙 Hue7.5YR7/4, 器肉：鉄分付着により不明	粗砂：白色粒, 透明粒, 砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒, 細砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒	1	外面：板状の工具	底径：1.5 cm
338	E	4a	成川式	壺	底	外面：黄橙 Hue7.5YR7/8, 内面：にぶい黄橙 Hue10YR5/4, 橙 Hue7.5YR6/8, 器肉：にぶい黄褐 Hue10YR5/4, 橙 Hue5YR7/8	礫：軽石, 粗砂：白色粒, 黒色粒, 砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒, 細砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒	5	外面：ケズリ, ナデ (—), 内面：不明	底径：6.2 cm
339	E	4a	成川式	壺	底	外面：橙 Hue5YR7/6, 内面：橙 Hue2.5YR7/6, 器肉：橙 Hue2.5YR6/8	粗砂：透明粒, 砂：白色粒, 黒色粒, 細砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒	2	ナデ	
340	E	4a	成川式?	壺	底	外面：浅黄橙 Hue10YR8/4, 内面：にぶい黄橙 Hue10YR2/7, 器肉：淡橙 Hue5YR8/4	礫：透明粒, 粗砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒, 砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒, 細砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒	4	外面：ナデ (?), ハケの始点あり, 内面：ハケ (), ナデ, 打ち込み痕 (ケズリっぽい) あり	底径：(9.5) cm, 内外面：黒斑あり
341	E	4a	成川式新	高杯	口	外面：浅黄橙 10YR8/4, 橙 7.5YR7/6, 内面：浅黄橙 10YR8/4, 暗灰 N3/0, 器肉：浅黄橙 10YR8/4	礫：赤色粒, 粗砂：角閃石, 白色粒, 透明粒, 赤色粒, 砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒, 赤色粒, 細砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒, 赤色粒	2	指か皮のようなものを使ったヨコナデ (—), 丁寧なナデ (方向不明)	口径：(16.8) cm, 内面：黒斑あり
342	E	4a	成川式新	高杯	胴	外面：赤褐 5YR4/6, 内面：灰オリーブ 5Y5/2 に似る, 器肉 外面側：浅黄橙 10YR8/3, 器肉内面側：灰 5Y6/1 に似る	粗砂：角閃石, 白色粒, 砂：石英, 角閃石, 白色粒, 細砂：石英, 白色粒	2	外面：ヨコ (一部タテ) 方向ミガキ, 内面：ヨコ方向ナデ	外面：赤色顔料塗布
343	E	4a	成川式新	高杯	胴	外面：褐 7.5 Y R 4/6, 内面：褐 7.5 Y R 4/6, 器肉：にぶい黄橙 10 Y R 6/4	礫：石英, 粗砂：石英, 角閃石, 白色粒, 灰色粒, 砂：石英, 白色粒, 黒色粒, 細砂：石英, 白色粒, 黒色粒	3	外面：ヨコ方向ミガキ, 脚部との接合部は丁寧である, 内面：ハケのちミガキ (剥落が激しくよく見えない)	外面：赤色顔料塗布
344	E	4a	成川式新	高杯	脚	外面：明赤褐 Hue5YR5/6, 内面：橙 Hue5YR6/6, 器肉：にぶい褐 Hue7.5YR5/4	礫：白色粒, 砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒, 細砂：黒色粒, 透明粒	2	外面：ナデ, ミガキ (方向不明), 内面：ナデ	摩滅・汚れ付着のため調整の方向は不明, 接合痕あり
345	E	4a	東原式	高杯?	脚	外面：灰黄褐 10YR4/2, 内面：にぶい褐 7.5YR5/4, 褐灰 10YR4/1, 器肉：にぶい黄褐 10YR4/3	礫：5mm 大の軽石, 粗砂：白色粒, 砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒, 細砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒	2	全体的にヨコナデ (—), 内面：ユビオサエ	破断面に接合線あり
346	E	4a	成川式	鉢	口	外面：にぶい黄橙 10YR7/3, 内面：にぶい黄橙 10YR7/4, 器肉：浅黄 2.5Y7/3	礫：白色粒, 透明粒, 薄茶色粒, 粗砂：角閃石, 白色粒, 細砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒	3	外面：ナデ (方向不明), 内面：ヨコナデ (—)	
347	E	4a	成川式?	鉢?	口	外面：橙 Hue7.5YR6/6, 内面：浅黄橙 Hue10YR8/4, 器肉：浅黄橙 Hue10YR8/4	粗砂：赤色粒, 砂：角閃石, 黒色粒, 透明粒, 赤色粒, 細砂：黒色粒, 透明粒	3	外面：板状のハケ目 (＼) →ナデ, ナデ (—), 擦過痕あり, 内面：ユビオサエ, ナデ (＼)	
348	E	4a		土錘		外面：にぶい黄橙 10YR7/3, 黄灰 2.5Y5/1, 器肉：黄灰 2.5Y4/1 (黒斑)	砂：白色粒, 黒色粒, 赤色粒, 細砂：白色粒, 黒色粒, 赤色粒	1	ナデ	ひもズレ, 最大径：3.15 cm, 長さ：2.25 cm, 重さ：10.66 g
350	E	4b	成川式?	甕か鉢	突帯	外面：橙 5YR6/6, 内面：にぶい黄橙 10YR7/4 類似, 器肉：灰白 10YR8/2	粗砂：石英, 白色粒, 砂：石英, 角閃石, 細砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒		外面：ハケ, ナデ (—) ?, 内面：丁寧なナデ	No.2583, 低い絡繩突帯 (上下に指頭痕あり)
351	E	4b	成川式?	甕か鉢	口	外面：にぶい赤褐 5YR5/4, 内面：にぶい橙 7.5YR7/4 類似, 器肉：橙 5YR6/6	礫：黒色粒, 赤色粒, 粗砂：石英, 赤色粒, 砂：白色粒, 細砂透明粒		外面：ヨコ方向ナデ, 内面：丁寧なナデ	No.2592
352	E	4b	成川式新	高坏か埴	口	外面：赤褐 2.5YR4/6 類似, 内面：灰黄 2.5Y7/2 類似, 器肉：灰白 2.5Y8/2 類似	砂：白色粒, 細砂：黒色粒, 透明粒		外面：ミガキ, 内面：ナデ	外面：赤色顔料塗布, No.1130
353	C	5	弥生中期	甕	口	外面：にぶい橙 7.5YR6/4, 内面：橙 7.5YR6/6, 器肉：黄灰 2.5Y6/1	粗砂：白色粒, 砂：白色粒, 黒色粒, 細砂：白色粒, 黒色粒, 赤色粒	1	内外面：ヨコナデ (—)	須玖式の模倣
354	1980 採集		成川式	壺	底	外面：にぶい黄橙 Hue10YR7/3, 内面：浅黄橙 Hue10YR8/3, 器肉：浅黄橙 Hue10YR8/3, 黄灰 Hue2.5Y4/1	礫：軽石, 白色粒, 黒色粒, 粗砂：軽石, 角閃石, 黒色粒, 透明粒, 赤色粒, 砂：角閃石, 白色粒, 黒色粒, 透明粒, 細砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒	6	外面：丁寧なナデ, 内面：剥落のため不明	底径：(4.3) cm, 底部外面に黒斑あり, 胎土に礫大の多様な石が含まれる
355	周辺採集		成川式新	高杯	口	外面：赤黒 10R2/1, 赤褐 2.5YR4/8, 内面：黄灰 2.5Y4/1, にぶい黄褐 10YR5/4, 橙 5YR6/6, 器肉：にぶい黄橙 10YR7/4	礫：赤色粒, 粗砂：石英, 白色粒, 砂：石英, 角閃石, 白色粒, 細砂：石英, 白色粒	4	外面：ヨコ方向ミガキ, 内面：ヨコナデ, ハケ始点あり	外面：剥落が激しい, 赤色顔料塗布, 内面：少し磨滅している
356	1980 採集		成川式	高杯	脚	外面：浅黄橙 Hue7.5YR8/4, 内面：灰 Value6/6, 脚部内面：浅黄橙 Hue7.5YR8/4, 器肉：浅黄橙 Hue7.5YR8/6	砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒, 赤色粒, 細砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒	2	外面：ミガキ (), 内面：ナデ	
357	周辺採集		成川式新	高杯	脚	外面：橙 2.5 Y R 6/6, 内面：にぶい黄橙 10 Y R 7/4, 器肉：灰オリーブ 5 Y 6/2 類似	細砂：黒色粒, 透明粒	1	外面：ミガキ (—) (＼), 内面：ハケ (—), ケズリ (—), 丁寧なナデ	外面：赤色顔料塗布, 外面の顔料の色, 内面のつくりなど特殊な印象を受ける

Tab.23 遺物観察

No.	地点	層	種別	器種	部位	色調	胎土		調整	備考
							混和材	砂粒の 多さ		
358	1980 採集	中津野式 ～東原式	鉢	ほぼ 完形	外面：にぶい橙 7.5YR7/4, 内面：橙 7.5YR7/6, 器内：浅黄橙 7.5YR8/4	礫：黒色粒, 粗砂：黒色粒, 透明粒, 赤色粒, 砂：黒色粒, 透明粒, 赤色粒, 細砂：黒色 粒, 透明粒, 赤色粒	2	外面：ナデ, 粘土のヨレ部 ヨコナデ, 内面：接合部ヨ コナデ	口径：(13.3) cm, 器高：(9.3) cm, 底径：2.2 cm, 外面： 黒斑あり, 内面：接合線あり	
359	D 採集	成川式	埴	底	外面：にぶい赤褐 5YR4/4, 内面：灰白 2.5YR8/2, 底面：にぶい赤褐 5YR4/4, 器内：灰白 2.5YR7/1	粗砂：黒色粒, 赤色粒, 細砂： 白色粒, 黒色粒, 透明粒	1	内外面：磨滅のため不明, 底面：ミガキ	底径：(5.4) cm, 外面：赤 色顔料塗布	
360	D 1	土師器	碗	高台	外面：橙 5YR6/8, 器内面：橙 7.5YR7/6, 高台内面：にぶい橙 7.5YR6/4, 橙 5YR6/8, 器内：明褐灰 5YR7/2	粗砂：白色粒, 赤色粒, 砂： 白色粒, 黒色粒, 赤色粒, 細 砂：白色粒, 黒色粒, 赤色粒	2	回転ナデ		
361	D 攪乱	磁器	碗	口	釉：透明釉, 素地：Value9/0 白, 圈線 2 条 (上)：オリーブ灰 10Y4/2, (下)：オリーブ灰 10Y	細砂：白色粒, 黒色粒	1	全面施釉	近現代, 「美濃窯株式会社製陶部」製, 内面：口縁 直下に緑色圈線 2 条あり	
362	D 採集	陶器	鉢	口	釉薬：灰オリーブ (Hue7.5Y) に似る, 素地：赤褐 10R5/3	粗砂：白色粒, 赤色粒, 砂： 白色粒, 透明粒, 細砂：石英, 白色粒	3	口縁上面：カキ目, 釉なし, 口縁上面以外全面施釉	苗代川系 19C～, 薄く沈線 あり	
363	E 4a	弥生	壺	底	外面：浅黄類似 2.5 Y 7/4, 内面：にぶい黄橙 10 YR 7/4, 器内：灰白 7.5 Y 7/1	粗砂：白色粒, 砂：白色粒, 黒色粒, 細砂：白色粒, 黒色 粒	1	外面：剥落のため不明, 内 面：ユピオサエ, 鉄分付着 のため不明		
364	E 4a	弥生	壺	底	外面：にぶい黄橙 Hue10YR7/4, にぶい黄褐 Hue10YR5/4, 内面：浅黄橙 Hue10YR8/4, 黄褐 Hue10YR5/6, 器内：明黄褐 Hue10YR5/6, 明黄褐 Hue10YR7/6	砂：黒色粒, 透明粒, 細砂： 黒色粒, 透明粒	2	外面：ナデ (一), 内面： 剥落している, 工具による ナデ (一), ユピオサエ	接合痕あり, 磨滅している, 台形突帯 1 条, 径：15.9 cm	
365	周辺採集	松山式段 階	深鉢	口	外面：黒褐 10YR3/1, 外面突帯部：にぶい褐色 7.5YR5/4, 内面口縁部：赤褐 5YR4/6, 内面下部：暗灰 N3/0	礫：白色粒, 赤色粒, 粗砂： 石英, 角閃石, 白色粒, 砂： 石英, 白色粒, 黒色粒, 細砂： 石英, 白色粒, 黒色粒	3	外面：貝殻条痕のちナデ, 突帯上面：ヨコナデ, 内面： 貝殻条痕のちナデ		
366	周辺採集	縄文後期	深鉢	口	外面：にぶい黄橙 10YR7/3, 内面：にぶい黄橙 10YR7/3, 器内：にぶい黄橙 10YR7/2	粗砂：白色粒, 砂：白色粒, 黒色粒, 赤色粒, 細砂：白色 粒, 黒色粒, 透明粒	2	外面：ヨコナデ (一), 内面： ナデ		
367	周辺採集	市来式	深鉢	口	外面：にぶい褐色 7.5YR5/4, にぶい黄褐 10YR5/3, 内面：にぶい褐色 7.5YR5/4, 褐灰 10YR1/4, 器内：灰黄褐 10YR4/2	礫：赤色粒, 粗砂：白色粒, 黒色粒, 砂：石英, 白色粒, 赤色粒, 細砂：石英, 黒色粒	4	外面：ヨコ方向ヘラケズリ のち貝殻押圧, タテ方向ヘ ラナデ? 内面：ヨコ方向擦 過痕	外面：貝殻条痕	
368	周辺採集	縄文中期 中葉か縄 文後期指 宿式	深鉢	胴	外面：浅黄 2.5Y7/3, 内面：にぶい黄 2.5Y6/3, 器内：暗灰 N3/0	砂：白色粒, 黒色粒, 赤色粒, 細砂：白色粒, 黒色粒, 赤色 粒	2	外面：地文, 貝殻状条痕, 内面：地文, 貝殻状条痕		
369	1980 採集	笹貫式	甕	口	外面：浅黄橙 10YR8/3, 内面：浅黄橙 10YR8/3, 器内：N 灰 5/0	礫：なし, 粗砂：角閃石, 白 色粒, 透明粒, 砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒, 細砂：白色 粒, 黒色粒, 透明粒	2	外面：ナデ (一), ナデ (方 向不明), 内面：ナデ (一), 丁寧なナデ (方向不明)	絡縄突帯あり	
370	周辺採集	成川式	甕	脚	外面：にぶい黄橙 10 YR 7/4, 内面：にぶい黄橙 10 YR 7/4, 器内：灰 5 Y 5/1	礫：白色粒, 粗砂：石英, 白 色粒, 赤色粒, 砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒, 細砂：黒色 粒	2	外面：ハケ (ノ) (一), ユ ピオサエ, ナデ (一) (一), 内面：ナデ, ユピオサエ	底径：12.6 cm, 外面：接合 部がわずかに凹む, 底面内 部：黒斑あり, 粗雑なつくり でボコボコしている	
371	1980 採集	成川式	甕	脚	外面：にぶい褐 7.5 YR 6/3, 内面：明赤褐 2.5 YR 5/6, 器内：にぶい赤褐 2.5 YR 5/4	礫：石英, 白色粒, 粗砂：石 英, 白色粒, 砂：石英, 角閃石, 白色粒, 細砂：白色粒, 黒色 粒, 透明粒	3	外面：ハケの始点あり, ナ デ (一), 内面：ユピオサエ, ナデ (一)	底径：12.6 cm	
372	1980 採集	成川式	甕	脚	外面：にぶい黄橙 10 YR 7/3, 胴部内面：褐灰 10 YR 5/1, 脚台内面：にぶい黄橙 7/4,	粗砂：石英, 角閃石, 灰色粒, 砂：石英, 角閃石, 白色粒, 細砂：白色粒, 黒色粒	3	外面：ナデ, 内面：ハケ (ノ) のちナデ	底径：10.9 cm, 三角突帯 1 条	
373	1980 採集	成川式	甕	脚	外面：橙 7.5 YR 7/6, 胴部内面：浅黄橙 7.5 YR 7/4, 脚部内面：にぶい橙 7.5 YR 7/4, 器内外側：にぶい黄橙 10 YR 7/2, 器内中：灰 N4/0, 器内内側：明褐灰 7.5 YR 7/2	礫：白色粒, 赤色粒, 灰色粒, 粗砂：石英, 白色粒, 黒色粒, 灰色粒, 砂：石英, 角閃石, 白色粒, 黒色粒, 細砂：白色 粒, 黒色粒, 透明粒	2	外面：ユピオサエ, ナデ (一) (ノ), 胴部内面：ユピオサ エ, ナデ (ナデに伴う砂粒の 動き), 脚部内面：ヨコ 方向ナデ	底径：(10.2) cm, 胴部内面： 黒斑あり, 脚部内面：黒斑 あり, 接合痕あり	
374	1980 採集	成川式	甕	脚	外面：灰黄 2.5Y7/2, スス部：暗灰 N3/0, 内面：橙 5YR6/6, 器内：にぶい黄橙 10YR7/3	礫：白色粒, 粗砂：角閃石, 白色粒, 黒色粒, 透明粒, 砂： 角閃石, 白色粒, 黒色粒, 透 明粒, 細砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒	4	外面：ナデ (一), 内面： ナデ (一) (一), ハケの始 点あり	底径：(12.5) cm, 破断面に 接合痕あり	
375	1980 採集	成川式	甕	脚	外面：褐 Hue7.5YR4/6, 内面：褐 Hue7.5YR4/6, 器内：橙 Hue7.5YR7/6, 脚台内面：褐 Hue7.5YR4/6	礫：軽石, 透明粒, 粗砂：白 色粒, 砂：黒色粒, 透明粒, 赤色粒, 細砂：透明粒	5	鉄分付着のため不明	底径：(9.4) cm	
376	1980 採集	成川式	甕	脚	外面：浅黄橙 10YR8/4, 胴部内面：橙 5YR6/6, 脚台内面：にぶい黄褐 10YR5/3	礫：白色粒, 黒色粒, 透明粒, 粗砂：白色粒, 黒色粒, 透明 粒, 砂：黒色粒, 細砂：白色 粒, 黒色粒	3	外面：ヨコナデ, 工具によ るナデ, 胴部内面：ユピオ サエ, ハケ, 脚台内面：ユ ピオサエ, ヨコナデ	底径：(9.7) cm	
377	周辺採集	成川式	甕	脚	外面：にぶい黄橙 10YR7/4, 内面：にぶい橙 7.5YR7/4, (赤 変部：橙 5YR6/6), 器内：灰白 10YR8/2	粗砂：石英, 角閃石, 白色粒, 灰色粒, 砂：石英, 角閃石, 白色粒, 灰色粒, 細砂：白色 粒, 黒色粒, 透明粒	2	外面：ユピオサエ (一), ユ ピオサエ, 内面：ユピナデ (一), ユピオサエ	底径：(13.8) cm, 内面：一 部赤変, 接合痕あり	

Tab.24 遺物観察

No.	地点	層	種別	器種	部位	色調	胎土		調整	備考
							混和材	砂粒の 多さ		
378	周辺 採集		成川式	甕	脚	外面：浅黄橙 10YR8/4, 内面：にぶい黄橙 10YR7/3, 器肉：灰 N4/, 暗灰 N3/	礫：石英, 白色粒, 灰色粒, 粗砂：石英, 角閃石, 白色粒, 灰色粒, 砂：石英, 角閃石, 白色粒, 細砂：白色粒, 黑色 粒, 透明粒	2	外面：ハケ() (←), ナ デ(→), 内面：ハケ(←) (/), ナデ(\)	底径：(13.1) cm, 外面：黒 変部あり, 内面：黒斑あり
379	1980 採集		成川式	甕	脚	外面：にぶい黄橙 Hue10YR7/4, 内面：橙 Hue7.5YR7/6, 器肉：橙 Hue5YR7/8, 褐灰 Hue10YR6/1, 脚台内部：橙 Hue7.5YR6/6	礫：黒色粒, 赤色粒, 粗砂： 黒色粒, 透明粒, 砂：角閃石, 白色粒, 黒色粒, 透明粒, 赤 色粒, 細砂：黒色粒, 透明粒	5	外面：ユビナデ(), 打 ち込み痕, 内面：ハケの始 点あり(工具の角が当たり、 一ヶ所窪んでいる), 脚台 内面：ユビオサエ, ナデ (←), ハケの始点あり	外面に黒斑あり, 断面に接 合線あり
380	1980 採集		弥生?	甕	脚	外面：橙 Hue5YR6/8, 内面：黒 Hue7.5YR2/1, 器肉：灰褐 Hue7.5YR4/2,	礫：軽石, 赤色粒, 粗砂：透 明粒, 赤色粒, 砂：角閃石, 白色粒, 黒色粒, 透明粒, 細 砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒	5	外面：ハケ工具によるナデ (), 内面：ハケの始点あ り, 丁寧なナデ	径：3.0 cm, 内面：炭化し ている
381	1980 採集		中津野 式?	甕	脚	外面：浅黄橙 Hue10YR8/4, 内面：にぶい橙 Hue7.5YR7/4, 器肉：褐灰 Hue7.5YR5/1, 脚台内部：にぶい橙 Hue10YR7/4	粗砂：黒色粒, 透明粒, 砂： 角閃石, 白色粒, 透明粒, 赤 色粒, 細砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒	2	外面：ハケ, ユビオサエ, ナデ(←), 内面：, ハケ の始点あり(上からナデ消 している), 脚台内部：ナ デ(←)	接合痕あり
382	1980 採集		成川式	甕	胴	外面：橙 Hue7.5YR6/8, 内面：にぶい黄橙 Hue10YR7/4, 器肉：浅黄橙 Hue7.5YR8/4・ 8/6, 脚台内部：橙 Hue7.5YR6/6	礫：白色粒, 黒色粒, 透明粒, 粗砂：黒色粒, 砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒, 細砂：白色 粒, 黒色粒	3	外面：ナデ(←), 打ち込 み痕(上からナデで丸みを 帯びている), 内面：ハケ の始点あり, ユビオサエ, ナデ(/), 脚台内部：板 状工具での打ち込み痕, ユ ビオサエ(爪痕あり), ナ デ	底部中央：黒斑状態
383	1980 採集		成川式	台付 鉢	胴	外面：浅黄橙 Hue7.5YR8/4, 浅黄橙 Hue10YR8/4, 内面：橙 Hue7.5YR6/6, 器肉：橙 Hue7.5YR6/6, 橙 Hue7.5YR7/6	粗砂：透明粒, 砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒, 赤色粒, 細 砂：黒色粒, 透明粒	3	外面：ユビオサエ, 内面： ハケ, ナデ(方向不明), ハケの始点あり, 脚台内部： あらいなナデ	内面に黒斑あり
384	周辺 採集		成川式	甕	脚	外面：橙 Hue5YR6/6, 内面：褐灰 Hue7.5YR5/1, 器肉：橙 Hue2.5YR7/8, に ぶい橙 Hue7.5YR7/3, 脚台内部：浅黄橙 Hue7.5YR8/4, 脚台外面：浅黄橙 Hue10YR8/4, 脚台器肉：にぶい黄橙 Hue10YR8/4	粗砂：白色粒, 黒色粒, 透明 粒, 砂：白色粒, 黒色粒, 透 明粒, 赤色粒, 細砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒	3	外面：ユビオサエ, ナデ (←), 脚台内部：ユビオサ エ, 荒いユビナデ	かなりゆがんでいる, 長径 4.3 cm, 短径 3.7 cm, 脚部の 接合痕明瞭
385	周辺 採集		成川式新	壺	突帯	外面：にぶい黄橙 10YR7/4, 内面：にぶい橙 7.5YR7/4, 器肉：黄灰 2.5Y5/1	礫：白色粒, 赤色粒, 灰白粒, 粗砂：石英, 角閃石, 白色粒, 赤色粒, 砂：石英, 角閃石, 白色粒, 赤色粒, 細砂：白色 粒, 黒色粒, 透明粒, 赤色粒	3	外面：ナデ(←), 内面： 剥落のため不明	格子状刻目幅広突帯(刻み 目の中にハケ目あり), 上 下不明
386	1980 採集		成川式	壺	底	外面：灰白 10 Y R 8/2, 内面：にぶい黄橙 10 Y R 7/4, 器肉：灰 N5/0	礫：軽石, 粗砂：軽石, 石英, 角閃石砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒, 細砂：白色粒, 黒色 粒, 透明粒		外面：ハケの始点あり(←), タテ方向ナデ(\), ユビ オサエ, 内面：ハケ(/) (←)	内面中央部分：ハケの始点 多数, 凸凹している, 黒斑 あり
387	1980 採集		成川式	壺	胴～底	外面：浅黄橙 Hue10YR8/3, 内面：黄橙 Hue10YR8/4, 黄橙 Hue7.5YR7/8, 器肉：褐灰 Hue10YR5/1	礫：軽石, 透明粒, 粗砂：軽 石, 白色粒, 黒色粒, 透明粒, 赤色粒, 砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒, 赤色粒, 細砂：白色 粒, 黒色粒, 透明粒	3	外面：ハケ(), ハケの 始点あり(←), 内面：ハ ケ(/), ハケの始点あり, ナデ()	底径：(5.8) cm, 外面：大 きな黒斑あり
388	周辺 採集		成川式	壺	底	外面：橙 7.5YR7/6, 内面：にぶい黄橙 10YR7/4, にぶい黄橙 10YR7/3, 底面：橙 7.5YR7/6, 器肉：黄灰 2.5Y6/1	礫：石英, 白色粒, 黒色粒, 赤色粒, 灰色粒, 粗砂：白色 粒, 黒色粒, 透明粒, 赤色粒, 砂：白色粒, 黒色粒, 透明粒, 細砂：白色粒, 黒色粒, 透明 粒, 赤色粒	5	外面：ナデ() (←) (\) (/), ハケ, 内面：ハケ状 工具によるナデ, ユビオサ エ	底径：8.1 cm

Tab.25 石器

No.	地点	層	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)
165	D		攪乱	剥片	安山岩	4.1	10.0	39.6
166	D		攪乱	砥石	変成した泥岩	8.1	1.2	33.2
167	D		1	石材	安山岩	13.8	7.0	185.0
266	D		VI	剥片	黒曜石	2.6	2.9	6.1
349	E		4a	石材	角閃石安山岩	18.1	7.6	630.0

シリーズ名	鹿児島大学埋蔵文化財調査室調査報告書 第3集							
ふりがな	かごしまだいがくこうないいせき こおりもとだんち							
書名	鹿児島大学構内遺跡 郡元団地 Q-10区							
	鹿児島大学構内遺跡 郡元団地 K・L-5・6区							
編集者名	新里貴之 中村直子							
編集機関	鹿児島大学埋蔵文化財調査室							
所在地	〒890-8580 鹿児島市郡元一丁目21-24							
	Tel 099-285-7270 Fax 099-285-7271							
発行年月日	2007年 3月							
所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査起因
		市町村	遺跡番号					
鹿児島大学構内遺跡郡元団地 Q-10区	鹿児島市郡元一丁目20-35	4620	1-23-0	31° 34′ 11″	130° 32′ 48″	2006.8.16 -26	30m ²	学内危険指定箇所埋め戻し
	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項	
	現代				プラスチック製品, 焼物, 金属製品, 石, 包装紙類		掘残しの遺構, 壁溝, 貼床	
	近世~近代				磁器			
	古墳時代		竪穴住居跡		土器			
所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査起因
		市町村	遺跡番号					
鹿児島大学構内遺跡郡元団地 K・L-5・6区	鹿児島市郡元一丁目21-35	4620	1-23-0	31° 34′ 11″	130° 32′ 48″	2003.5.13 -9.10, 2005.12.6 - 2006.3.19	710m ²	校舎改修
	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項	
	近世~近代				陶磁器類, その他			
	古代~中世				土師器, 中国陶磁器			
	古墳時代				土器, 土錘, 石器			
	弥生時代				土器			
	縄文時代				土器			

鹿児島大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書第3集
鹿児島大学構内遺跡
郡元団地Q-10区 K・L-5・6区
2007年3月発行

編集・発行 鹿児島大学埋蔵文化財調査室
鹿児島市郡元一丁目21-24
TEL 099-285-7270

印刷 濱島印刷株式会社
鹿児島市上之園町17-2
TEL 099-255-6121
